

沿道又ハ行幸啓地ニ於テ直願ヲ爲サムトシタル行爲ノ存スルコトヲ必要條件トス【要旨第一】

二將來ニ於ケル行幸啓ヲ豫想シ直願ヲ爲サシムル爲他人ヲ誘惑若ハ煽動スル行爲ハ同令第十七條ノ罪ヲ構成スルモノトス【要旨第二】

三請願令違反事件ニ付豫審判事ノ強制處分ニ因リ被疑者トシテ訊問シ勾留シタル者ニ對シテモ同一事件ニ付起訴セラレタル被告人ノ爲ニ證人トシテ訊問スルヲ妨ケルモノニ非ス【要旨第三】

【參照】請願令第十六條 行幸ノ沿道又ハ行幸地ニ於テ直願ヲ爲サムトシタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス行啓ノ際沿道又ハ行啓地ニ於テ直願ヲ爲サムトシタル者亦同シ

同令第十七條 請願ヲ爲サシムル爲他人ヲ誘惑若ハ煽動シ又ハ名義ノ何タルヲ問ハス請願ニ關スル運動ノ爲金錢其ノ他ノ利益ヲ收受シ、要求シ若ハ其ノ收受ヲ約束シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス  
刑事訴訟法第八十四條 裁判所ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外何人ト雖證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役四月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ  
被告人龜太ハ大正十五年七月朴烈事朴準植及金子文子ニ對スル被告事件ニ付裁判所及刑務所ニ於テ兩名ヲ優遇シ豫審判事カ兩名ノ寫眞ヲ撮影シ又當局カ刑ノ言渡後兩名ニ對スル減刑ヲ奏請シタルカ如キハ司法權ノ威信ヲ失墜シ世道人心ヲ荼毒スルモノニシテ其ノ責閣臣ニ在リ總理大臣若槻禮次郎以下閣臣ハ宜シク引責辭職スヘキニ拘ラス事茲ニ出テサルハ不都合ナリト憤慨シ居リタルカ大正十五年八月下旬世論ヲ喚起シ閣臣ヲシテ引責辭職セシムル爲ニハ攝政皇太子殿下ニ對シ奉リ法定ノ手續ニ依ラサル直訴ヲ爲スニ如カスト思惟シ當時同被告人カ入院シ居リタル東京市神田區錦町増田病院ニ於テ戸田慶治ニ對シ所懷ヲ告ケテ直訴ヲ爲スノ止ムナキヲ説クヤ慶治モ之ニ共鳴シ茲ニ兩名ハ近ク攝政皇太子殿下行啓ノ途上沿道ニ於テ御車ニ近ツキ若槻內閣ノ前記失政ヲ指摘シ同內閣ヲ更迭セシムヘキ旨認メタル直願書ヲ直接殿下ニ捧呈シ以テ直願ヲ爲サンコトヲ共謀シ尙被告人龜太ハ病褥ニ在リテ自ら奔走シ得サルヨリ慶治ヲシテ世人カ眞ニ憂國ノ赤誠ヨリ自發的ニ直願ヲ爲シタルモノト認ムヘキ適當ノ人物ヲ物色セシメ之ニ相當ノ報酬ヲ提供シテ直願書捧呈ノ實行ニ當ラシムルコト及右ニ要スル費用ハ被告人龜太ニ於テ支出スルコトトシ慶治ハ同年九月五日頃同市赤坂區青山五丁目八十四番地ノ自己ノ住居ニ於テ木内禎一ニ對シ右直願ノ計畫ヲ告ケ直願書捧呈ノ適任者選定方ヲ依頼シタルトコロ禎一ハ此ノ計畫ニ賛同シ慶治ト事ヲ共ニセント欲シ其ノ頃同區青山七丁目二番地中島雋吉方ニ於テ慶治ト共ニ

請願令第十六條ノ罪ノ成立 同令第十七條ノ罪ノ成立 被疑者トシテ勾留中  
ノ者ニ對スル證人詢問

原審相被告人矢島定之ニ對シ右直願ノ計畫ヲ告ケ直願ノ實行者トシテ適當ナル人物ノ選定ヲ依頼スルヤ同被告人定之モ之ヲ諾シ右計畫ニ參加シテ慶治禎一ト事ヲ共ニセンコトヲ決意シ翌六日自己ノ郷里ナル長野縣北佐久郡小諸町ニ赴キ同町建具職佐藤義正ニ對シ直願ノ實行ヲ爲サシコトヲ懇願シ其ノ承諾ヲ得テ同月十日同人ヲ伴ヒ上京シ禎一ニ對シ適任者ヲ同伴シタル旨告ケ同月十二日東京府豊多摩郡澁谷町中澁谷荒木山六百五十四番地待合ハ其ノニ於テ佐藤義正ト共ニ慶治禎一ト會見シ禎一ニ於テ義正ヲ直願ノ適任者トシテ慶治ニ推薦シタルモ慶治ハ義正ノ人物經歷到底其ノ任ニアラサルヲ看取シ之ヲ排シタルヨリ禎一ハ更ニ同町下澁谷六百十九番地伊藤好松ヲシテ右直願ノ局ニ當ラシメントシ同月十三日東京市麴町區山本町清水谷公園ニ於テ慶治ニ對シ好松ヲ紹介シ慶治亦芳松ニ直願ノ實行ヲ勸メタルカ同人カ之ニ應セザリシ爲其ノ實行ヲ爲スニ至ラザリシモノニシテ以上ノ如ク被告人ハ戸田慶治 木内禎一及原審相被告人矢島定之ト順次共謀シ行啓ノ際沿道ニ於テ直願ヲ爲サントシタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ請願令(大正六年四月五日勅令第三十七號)第十六條後段前段刑法第六十條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役四月ニ處スヘキモノトス

○主 文

原判決ヲ破毀ス

被告人龜太ヲ懲役二月ニ處ス

○理 由

辯護人稻本錠之助 赤井幸夫上告趣意書第一點原判決ハ上告人ノ所爲ニ對シ請願令第十六條ヲ適用シタリト雖右ハ法律ノ解釋ヲ誤リ不當ニ法則ヲ適用シタル違法アルモノナリ請願令第十六條ノ犯罪ヲ構成スルカ爲ニハ少クモ犯人カ行幸地(又ハ行啓地)又ハ行幸(又ハ行啓)ノ際其ノ沿道ニ到リタルコトヲ要スルモノニシテ其ノ以前ニ於ケル所爲ノ如キハ之ヲ處罰スルノ法意ニアラサルモノト信ス蓋シ右以前ノ所爲ノ如キハ特別ノ法規ヲ設ケテ之ヲ處罰スルノ要ナキモノ(其ノ以前ノ行爲ニシテ皇室ノ御尊嚴ヲ冒瀆スルモノナラハ不敬罪トシテ罰スルヲ得ヘシ)ニシテ若シ右ノ如キ所爲ヲモ罰スヘキモノトセンカ犯人カ皇居又ハ行在地ニ於テ直願ヲ爲サントスル目的ヲ以テ上告人カ爲セルカ如キ豫備行爲ヲ爲シタリト假定スルモ當然處罰セサルヘカラサルモノナルニ請願令ハ斯ル所爲ヲ罰スヘキ規定ヲ設クル處ナシ之法ノ不備ニアラスシテ皇居又ハ行在所ニ於テ直願ヲ爲サントスル場合ニ於テハ必スヤ皇居侵入罪ノ成立ヲ見ルヘク刑法第三百一十一條ヲ以テ足ルモノト認メタルカ爲ナリ既ニ皇居又ハ行在所ニ於テ直願ヲ爲サントスル場合ニ於テ皇居又ハ行在所ニ侵入ノ事實ナキ以上何等ノ犯罪ヲ構成セサルモノナリトセンカ行幸ノ際沿道又ハ行幸地ニ於テ直願ヲ爲サントスル場合ニ於テモ少クモ御沿道又ハ御行幸地ニ到ルニアラスンハ之ヲ罰セストスルヲ相當トスヘキナリ以上要スルニ原判決ハ擬律錯誤

請願令第十六條ノ罪ノ成立 同令第十七條ノ罪ノ成立 被疑者トシテ勾留中  
ノ者ニ對スル証人証問

【要旨第一】

ノ違法アルモノニシテ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ  
 按スルニ請願令第十六條ノ罪ヲ構成スルカ爲ニハ犯人カ行幸啓ノ際其ノ沿道又ハ行幸啓地ニ於テ直願  
 ヲ爲サムトシタル行爲ノ存スルコトヲ必要條件トス從テ單ニ將來ニ於ケル行幸啓ヲ豫想シ直願ヲ爲サ  
 ムトシテ之カ豫備陰謀ヲ爲スカ如キハ他ノ罰則ニ觸ルル場合ヲ生スルハ格別未タ以テ同法條所定ノ罪  
 ヲ構成スヘキ限ニ在ラス蓋シ同法條所定ノ罪ハ前敍ノ如キ時處ニ於ケル直願ヲ爲サムトスル行爲ヲ  
 處罰ノ條件ト爲スモノナルコト文理解釋上明ナルノミナラス行幸啓ノ際行幸啓ノ沿道又ハ行幸啓地ニ  
 於テ不法請願ノ一種タル直願ヲ爲スカ如キハ鹵簿ノ安靜ヲ紊リ皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆スル虞アルカ故ニ之  
 ヲ取締ルノ趣旨ニ出テタルモノト解スルヲ正當ト爲セハナリ原判決ノ確定シタル事實ハ要之被告人松  
 井龜太ハ石田慶治 木内頼一 矢島定之等ト順次共謀ノ上若槻内閣倒閣ノ手段トシテ直願ノ擧ニ出テン  
 コトヲ企テ近ク攝政皇太子殿下行啓ノ途上沿道ニ於テ御車ニ近ツキ若槻内閣ノ失政ヲ指摘シ同内閣ヲ  
 更迭セシムヘキ旨認メタル直願書ヲ直接殿下ニ捧呈シ以テ直願ヲ爲サムトシ豫メ直願實行ノ任ニ當ル  
 者ヲ物色シ之ニ對シ直願ノ實行ヲ誘惑シタルモ事發覺シ檢舉セラレタル事案ナレハ冒頭説明ノ理由ニ  
 照シ請願令第十六條ノ罪ノ處罰條件ヲ具備セサルモノト然レハ原判決カ本件公訴ニ付前敍判示事實  
 ヲ確定シ之ヲ請願令第十六條ニ間擬シタルハ正當ナラス論旨ハ結局理由アリ原判決ハ破毀ヲ免レス  
 同第二點原判決ハ豫審ノ證人佐藤義正ニ對スル訊問調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタリ然レトモ右佐藤義正

ハ其ノ訊問ヲ受ケタル當時ニ於テハ本件ニ付被疑者トシテ檢事ノ請求ニヨル豫審判事ノ強制處分ニヨ  
 リ勾留中ノ者ナリシコト記録上明ナリトス而シテ當該事件ニ付強制處分ニ附セラレアル被疑者タル地  
 位ト證人タルノ地位トハ互ニ相容レサルモノナルカ故ニ縱令其ノ訊問セラルル手續カ豫審ノ處分ニ屬  
 スルモノナリトハ云ヘ苟モ同一事案ニ關スルモノナル以上被疑者ヲ證人トシテ訊問スルカ如キハ許ス  
 ヘカラサル處ナリト信ス果シテ然ラハ右證人佐藤義正ノ訊問調書ハ無効ナルヲ以テ原判決カ之ヲ引用  
 シタルハ違法ニシテ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨第三】

豫審判事ノ強制處分ニ因リ被疑者トシテ訊問セラレ勾留セラレタル者ト雖同一事件ニ付起訴セラレタ  
 ル他ノ被告人ノ爲ニ證人トシテ訊問ヲ爲スヲ妨クルモノニ非ス記録ニ就キ調査スルニ所論佐藤義正ハ  
 請願令違反被告事件ニ付檢事ノ請求ニ因リ被疑者トシテ豫審判事ノ訊問ヲ受ケ勾留セラレタルモノニ  
 シテ其ノ勾留中未タ公訴ノ提起アラサルニ先チ同一事件ニ付他ノ共同被疑者ハ公訴ヲ提起セラレタル  
 モノニ係リ豫審判事ハ前敍被疑者トシテ勾留中ノ佐藤義正ニ對シ右被告事件ニ付證人トシテ訊問ヲ爲  
 シタルモノナルコト明ナレハ冒頭説明ノ理由ニ照シ其ノ證人訊問ヲ目シテ違法ナリト爲スヘキニ非ス  
 論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

敍上ノ理由ニ基キ上告論旨第一點ハ其ノ理由アリ原判決ハ刑事訴訟法第四百四十七條ニ則リ之ヲ破毀  
 シ同法第四百四十八條ニ從ヒ本院ニ於テ直ニ判決ヲ爲スヘキモノトス

請願令第十六條ノ罪ノ成立  
 ノ者ニ對スル證人訊問

同令第十七條ノ罪ノ成立 被疑者トシテ勾留中

【要旨第二】

原判決ノ確定シタル事實ヲ法律ニ照スニ被告人松井龜太ノ判示行爲ハ請願令第十七條前段ニ所謂請願ヲ爲サシムル爲他人ヲ誘惑若ハ煽動シタルモノニ該當スルカ故ニ同法條及刑法第六十條ヲ適用シ懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役二月ニ處斷スヘキモノトス  
仍テ主文ノ如ク判決ス  
檢事 榎田忠美 關與

○偽證詐欺未遂被告事件

(昭和九年(れ)第一二四六號 棄却)  
同年十一月二十日第四刑事部判決

【上告人】 被告人 山口 清治 辯護人 (原田 治郎)

【第一審】 長野地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

偽證罪ト身分ナキ者ノ加功——判決宣告期日ト辯護人ノ召喚

○判決要旨

一 法律ニ依リ宣誓ヲ爲ササル者力宣誓ヲ爲シタル者ト共ニ偽證ヲ爲サンコトヲ謀リ之ヲ遂行シタルトキハ偽證罪ノ共同正犯ヲ以テ論スヘキモノトス【要旨第一】

二 判決宣告期日ヲ變更シテ新ニ期日ヲ指定シタル場合ニハ其ノ期日ニ必スシモ辯護人ヲ召喚スルコトヲ要セサルモノトス【要旨第二】

【參照】 刑法第六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

同法第六十五條第一項 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行爲ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス

同法第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス

刑事訴訟法第三百二十條第二項 裁判長ハ公判期日ヲ定ムヘシ

公判期日ニハ被告人辯護人及輔佐人ヲ召喚スヘシ

同法第三百二十二條第一項 裁判長ハ公判期日ヲ變更スルコトヲ得

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役二年ニ處ス但原審ニ於ケル未決勾留

偽證罪ト身分ナキ者ノ加功 判決宣告期日ト辯護人ノ召喚

日數中百二十日ヲ右本刑ニ算入(訴訟費用ノ點ハ省略)スル旨ノ判決ヲ爲シタリ  
被告人ハ

第一、久保政宣(原審相被告人)カ昭和五年三月頃債權者出川男也ノ申立ニ依リ同人ニ對スル金九百圓ノ借用金債務ニ付飯山區裁判所ヨリ支拂命令ノ送達ヲ受ケ被告人ニ之カ對策ヲ相謀ルヤ久保ノ爲辯護士ニ委任シ右支拂命令ニ對シ異議ノ申立ヲ爲サシメタルカ訴訟ノ結果第一審判決カ久保ノ敗訴ニ歸シタルヲ以テ更ニ辯護士ヲシテ控訴ノ申立ヲ爲サシメ該訴訟カ長野地方裁判所ノ控訴審ニ繫屬中久保ノ爲訴訟ヲ有利ニ轉回セント思惟シ同年六月初旬頃右久保政宣及池田爲三郎(原審相被告人)ノ兩名ト謀議ノ結果久保ニ有利ナル判決ヲ得セシムカ爲右池田爲三郎ヲ前示訴訟事件ノ證人トシテ申請シ池田ニ於テ虛偽ノ證言ヲ爲スヘキコトトシ豫メ同人ノ供述スヘキ證言ノ内容ヲモ打合セタルカ右謀議ニ基キ其ノ頃久保ニ於テ池田ヲ證人トシテ申請シ池田ハ同年七月五日長野地方裁判所ノ喚問ニ應シ同裁判所ノ民事法廷ニ於テ前示訴訟事件ノ證人トシテ宣誓ノ上「昭和五年五月十三、四日頃久保ハ證人方ニ來リ雜談ノ末出川男也ヨリ嘗テ金千圓ヲ借り受ケシモ既ニ大部分返済シ今ハ金百圓残り居ル丈ケナルニ全額ニ付訴訟ヲ起サレ閉口シ居ル旨語リタル故證人ハ同月十五、六日頃出川方ニ至リ示談ヲ勸メ出川カ少シ位ナラ何トカスヘシト申セシ故久保方ニ戻リ其ノ話ヲ爲シタルニ久保ハ一度拂ツタモノヲ二度拂フコトハ厭タト答ヘタリ」トノ旨全然虛偽ノ事項ヲ陳述シ以テ被告

人ハ久保政宣及池田爲三郎ノ兩名ト共謀ノ上右池田ニ於テ宣誓シタル證人トシテ偽證ヲ爲シ  
第二、然ルニ右偽證モ其ノ效ナク右事件ハ控訴審ニ於テモ遂ニ久保政宣ノ敗訴ニ歸シ同人ハ出川男也ノ爲強制執行ヲ受クルニ至リ其ノ所有ニ係ル長野縣下高井郡科野村字平甲七百四十番ノ一田七畝四歩外田七筆ノ稻立毛其ノ他ノ有體動產ヲ差押ヘラレタルヨリ茲ニ被告人ハ自ら原告トナリ虛構ノ事實ヲ作成シ右強制執行ニ對スル第三者トシテ異議ノ訴ヲ提起シ以テ裁判所ヲ欺罔シ久保ヲシテ右差押ヲ免レ財産上不法ノ利益ヲ得セシメンコトヲ企テ久保ト共謀ノ上被告人ニ於テ差押ニ係ル前示稻立毛ヲ久保ヨリ買受ケタル事實ナキニ拘ラス差押前既ニ之ヲ同人ヨリ買受ケ居タル旨虛偽ノ事實ヲ主張シ之ヲ請求ノ原因トシテ昭和五年十月二十九日自ら原告トナリ飯山區裁判所ニ對シ前示強制執行ニ對スル異議ノ訴ヲ提起シタルカ更ニ同年十一月中旬該訴訟ヲ有利ニ轉回シテ所期ノ目的ヲ達セシカ爲久保ト謀議ノ結果久保ニ於テ證人トシテ出廷シタル上前示稻立毛ハ之ヲ被告人ニ賣却シタルモノナル旨虛偽ノ證言ヲ爲スヘキコトトシ久保ハ該謀議ニ基キ同月二十六日飯山區裁判所ノ民事法廷ニ於テ右訴訟事件ノ證人トシテ宣誓ノ上「前示水田ノ稻ハ證人カ昭和五年十月十日代金百四十四圓ニテ之ヲ被告人ニ賣渡シ代金ハ現金ニテ即時受領シタリ稻ノ引渡ニ付テハ別段ノ約束ヲ爲シタルコトナキモ賣渡ノ前々日タル十月八日ニ被告人ニ對シ二回現場ヲ見セタリ」トノ旨全然虛偽ノ事項ヲ陳述シ以テ被告人ハ久保政宣ト共謀ノ上右久保ニ於テ宣誓シタル證人トシテ偽證ヲ爲シタルモ裁

判所ヲ欺罔スルニ至ラサリシ爲該訴訟ハ被告人ノ敗訴ニ歸シ所謂詐欺ノ目的ヲ遂ケス

第三、右事件カ被告人ノ敗訴ニ歸シタル結果久保政宣ノ所有ニ係ル前示稻立毛及其ノ他ノ有體動産ハ執達吏ニ於テ之ヲ競賣ニ付スルコトナリタル處被告人ハ右久保政宣及池田爲三郎ノ兩名ト謀議ノ結果徳永千代松カ久保ニ對シ債權ヲ有スルモノノ如ク假裝シ該虛僞ノ債權ニ基キ配當ノ要求ヲ爲シ以テ執達吏ヲ欺罔シ配當金名義ノ下ニ賣得金ヲ騙取センコトヲ企テ右謀議ニ基キ昭和五年十二月三日久保政宣ノ居宅ニ於テ右徳永千代松ニ其ノ情ヲ明シ同人ヲシテ同人カ眞實久保ニ對シ金二千圓ノ貸金債權ヲ有スルモノノ如ク裝ハシメタル上同日同所ニ於テ同人ヲシテ競賣ノ爲メ同所ニ臨ミタル飯山區裁判所執達吏安齋由太郎代理西川實ニ對シ右虛僞ノ債權ニ基ク配當ノ要求ヲ爲サシメ以テ被告人ハ久保政宣及池田爲三郎ノ兩名ト共謀ノ上配當金名義ノ下ニ金員ヲ騙取セントシタルモ其ノ後執行當事者間ニ於テ示談成立シ差押カ解除トナリタル爲所期ノ目的ヲ遂ケス

第四、久保政宣ハ豫テヨリ同村渡邊與吉ト不和ノ間柄ナリシカ偶昭和六年十一月二日右渡邊カ村稅滯納ノ爲メ其ノ所有宅地ヲ競賣ニ付セラレ其ノ頃久保ニ於テ之ヲ競落シタルトコロ渡邊ハ久保ノ競落ニ不正アリトシテ同人ヲ告訴シ更ニ久保ノ債權者タル清水善助ニ依頼シ同人ノ久保ニ對スル貸金債權ニ基キ久保ノ所有ニ歸シタル右宅地ニ付強制競賣ノ申立ヲ爲サシメ之ヲ競賣ニ付セシメタルヨリ茲ニ久保政宣及渡邊與吉ノ確執ヲ生スルニ至リシカ

一、被告人ハ久保政宣 池田爲三郎 酒井孫四郎（原審相被告人）湯本新作（原審相被告人）ノ四名ト謀議ノ上右渡邊與吉及清水善助ニ對抗センカ爲久保ニ對スル假裝ノ債權ニ基キ右清水善助ノ競賣事件ニ付配當ノ要求ヲ爲シ以テ裁判所ヲ欺罔シ配當金名義ノ下ニ賣得金ヲ騙取センコトヲ企テ該謀議ニ基キ被告人及酒井孫四郎ノ兩名ニ於テ右久保ニ對シ酒井孫四郎ハ金二千三百七十五圓湯本新作ハ金一千三百圓ノ各貸金債權ヲ有スルモノノ如ク假裝シ該二口ノ虛僞ノ債權ニ基キ昭和七年七月七日頃執行裁判所タル長野區裁判所ニ對シ配當ノ要求ヲ提出シ以テ被告人ハ久保政宣 池田爲三郎 酒井孫四郎 湯本新作ノ四名ト共謀ノ上金員ヲ騙取セントシタルモ右湯本新作名義ノ配當要求ハ同人カ犯行ノ發覺ヲ恐レテ間モナク之ヲ取下ケ又右酒井孫四郎名義ノ配當要求ニ付テハ其ノ基本債權ニ對シ執行債權者タル清水善助ヨリ異議ノ申立ヲ爲シ訴訟ノ結果第一、二審共酒井ノ勝訴トナリタルカ其ノ後事發覺スルニ至リタル爲遂ニ所期金圓騙取ノ目的ヲ遂ケス

二、前示ノ如ク清水善助カ酒井孫四郎ノ債權ニ付異議ノ訴ヲ提起シ該訴訟カ長野區裁判所ノ第一審ニ繫屬中被告人ハ久保政宣及酒井孫四郎ノ兩名ト謀議ノ上該訴訟ヲ酒井ノ有利ニ轉回シ以テ所期ノ目的ヲ達センカ爲久保ニ於テ證人トシテ出廷シ酒井ノ前示債權ハ眞實ニ成立シタルモノナル旨虛僞ノ證言ヲ爲スヘキコトトシ久保ハ該謀議ニ基キ昭和七年十月十四日右裁判所ノ民事法廷ニ於テ右訴訟事件ノ證人トシテ宣誓ノ上「本件債權ハ證人カ酒井孫四郎ノ先代龜太郎ヨリ幾口カラ借

受ケ昭和四年十月二十日孫四郎名義ニ書換ヘタルモノナリ右借受金ニ付龜太郎ニ利息金八十圓ヲ支拂ヒタルノミ證人ハ下高井郡科野村出川男也ヨリ強制執行ヲ受ケタルコトアリ其ノ際孫四郎ハ配當要求ノ申立ヲ爲シタリ二千三百七十五圓ノ債務ニ付證人ハ孫四郎ヨリ昭和六年十月二十一日支拂命令ヲ掛ケラレシカ異議ノ申立ヲセサリシ爲該支拂命令ハ確定シタリ證人カ出川男也ヨリ強制執行ヲ受ケタルハ昭和五年一月頃ナリ其ノ際孫四郎カ配當要求ノ申立ヲ爲シタル債權ト本件配當要求申立債權トハ同一債權ナリ出川ヨリ強制執行ヲ受ケタル際孫四郎ノ配當要求ヲ爲シタル債權ハ昭和二年七月三日附ノ金二千七百圓ナリシヤ否ヤ記憶ナシ證人ハ昭和四年十月二十日附金二千三百七十五圓ノ債權ニテ孫四郎ヨリ配當要求ノ申立ヲ受ケタルカ如ク思ヒ居レリトノ旨虛偽ノ陳述ヲ爲シ以テ被告人ハ久保政宣及酒井孫四郎ノ兩名ト共謀ノ上右久保ニ於テ宣誓シタル證人トシテ偽證ヲ爲シ

三、右事件ノ第一審判決ハ久保ノ右偽證カ其ノ效ヲ奏シ酒井ノ勝訴ニ歸シタルカ清水善助ヨリ控訴ノ申立アリ該訴訟カ長野地方裁判所ノ控訴審ニ繫屬中

(イ) 被告人ハ久保政宣ト共謀ノ上控訴審ニ於テモ亦酒井ニ有利ナル判決ヲ得セシメンカ爲久保ニ於テ再ヒ前同趣旨ノ虛偽ノ證言ヲ爲スヘキコトトシ久保ハ右謀議ニ基キ昭和八年三月二日長野地方裁判所ノ民事法廷ニ於テ右訴訟事件ノ證人トシテ宣誓ノ上「證人ハ酒井龜太郎ヨリ金二

千三百七十五圓ヲ借受ケ居リタル處龜太郎死亡シ被控訴人酒井孫四郎カ其ノ家督ヲ相續シタルヲ以テ被控訴人ヨリ借受ケタルコトトナシ證書ヲ書換ヘタルモノナリ出川男也カ證人ニ對スル九百圓位ノ債權ニ基キ飯山區裁判所執達吏ニ委任シテ證人所有ノ有體動産ニ對シ強制執行ヲ爲シタルコトアリ其ノ時被控訴人ヨリ配當要求ヲ致シタル話ハ聽キタルモ其ノ時ノ配當要求申立ノ金額ハ何程ナリシヤヲ知ラス昭和六年十一月中被控訴人ヨリ支拂命令ヲ掛ケラレタルカ異議ノ原因ナカリシ爲異議ノ申立ヲ爲ササリキ被控訴人ヨリ配當要求申立ヲナシタル債權ハ金二千三百七十五圓ノ口ナラントノ旨虛偽ノ陳述ヲ爲シ以テ被告人ハ久保政宣ト共謀ノ上右久保ニ於テ宣誓シタル證人トシテ偽證ヲ爲シタルカ

(ロ) 右裁判所ニ於テハ酒井ノ右債權カ前記第三ニ示セル出川男也ノ競賣事件ノ際ト前後其ノ額ヲ異ニセル點ニ付疑ヲ挾ミ居ルモノト思惟セラレタルニヨリ被告人ハ更ニ久保政宣 池田爲三郎及酒井孫四郎ノ三名ト謀議ノ上曩ニ出川男也ノ競賣事件ノ際右酒井ノ名義ヲ以テ配當要求ノ申立書ヲ作成シタル右池田爲三郎ニ於テ此ノ點ニ付虛偽ノ證言ヲ爲シ以テ前後ノ矛盾ヲ彌縫スルコトトシ池田ハ右謀議ニ基キ同年三月二十八日長野地方裁判所ノ民事法廷ニ於テ右訴訟事件ノ證人トシテ宣誓ノ上「證人ハ訴外出川男也ヨリ久保政宣ニ對スル動産競賣事件ニ付被控訴人酒井孫四郎ニ依頼セラレ同人ノ配當要求申立書ヲ代筆シタルコトアリ此ノ配當要求ノ申立書ヲ

書キタル時ハ金額及年月日等ハ被控訴人酒井カ債權證書ヲ忘レテ來タ爲口頭ニテ云フコトヲ聽  
キ書キタルモノニシテ債權證書ヲ見テ之ニ基キ書キタルモノニアラス右代筆ヲ依頼サレタル際  
被控訴人ノ外ニ久保政宣ハ參ラサリキトノ虛僞ノ陳述ヲ爲シ以テ被告人ハ久保政宣 池田爲  
三郎及酒井孫四郎ノ三名ト共謀ノ上右池田ニ於テ宣誓シタル證人トシテ僞證ヲ爲シ

第五、久保政宣ハ前示ノ如ク宅地ノ競賣ニ端ヲ發シ渡邊與吉ト互ニ軋轢シテ紛爭ヲ重ヌルニ至リシカ  
被告人ハ右渡邊與吉ニ對スル久保ノ報復手段トシテ右久保政宣ト共謀ノ上曩ニ久保カ右宅地ヲ一旦  
競落シタルコトアルヲ俸トナシ其ノ際渡邊カ久保ニ對シ該宅地ニ付賃料ノ支拂ヲ約シタル旨虛構ノ  
事實ヲ作爲シ渡邊ニ對シテ賃料請求ノ訴訟ヲ提起シ裁判所ヲ欺罔シタル上渡邊ヨリ賃料名義ノ下ニ  
金員ヲ騙取センコトヲ企テ昭和七年九月五日自ラ原告トナリ久保カ渡邊ニ對シテ有シタル金八十圓  
ノ右賃料債權ヲ被告人ニ於テ久保ヨリ讓受ケタル旨全然虛僞ノ事實ヲ主張シ之ヲ請求原因トシテ渡  
邊ニ對シ長野區裁判所ニ地代請求ノ訴訟ヲ提起シ更ニ該訴訟ノ繫屬中ノ自己ノ有利ニ導カンカ爲  
久保政宣ト謀議シ同人ニ於テ被告人ノ右主張ト同趣旨ナル虛僞ノ證言ヲ爲スヘキコトトシ久保ハ該  
謀議ニ基キ同年十一月十七日右裁判所ノ民事法廷ニ於テ右訴訟事件ノ證人トシテ宣誓ノ上「昭和七  
年五月八日證人ハ渡邊トノ間ニ證人カ土地ノ權利ヲ得タル時ニ遡リテ渡邊ヨリ月十圓宛ノ賃料ノ支  
拂ヲ受クヘキコト且將來モ同額ノ賃料ノ支拂ヲ受クヘキコトヲ約シタリ而シテ渡邊ハ賃料ハ二、三

日内ニ支拂フト申シタルモ其ノ支拂ヲ爲ササルモノナリ渡邊ト賃料ニ付交渉シタルハ渡邊方ニシテ  
居合セタル者ハナカリキトノ全然虛僞ノ事項ヲ陳述シ以テ被告人ハ久保政宣ト共謀ノ上右久保ニ  
於テ宣誓シタル證人トシテ僞證ヲ爲シタルモ裁判所ヲ欺罔スルニ至ラサリシ爲右訴訟ハ被告人ノ敗  
訴ニ歸シ所期金員騙取ノ目的ヲ遂ケサリシ  
モノナリ

而シテ以上被告人ノ各僞證ノ所爲竝各詐欺未遂ノ所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス  
法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中各僞證ノ點ハ刑法第六十九條第六十五條第一項第六十條第五十五  
條ニ各詐欺未遂ノ點ハ同法第二百四十六條第二百五十條第六十條第五十五條ニ夫々該當スルトコロ右  
僞證ト詐欺未遂トノ間ニハ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ヲ適用シ重キ  
僞證罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役二年ニ處シ同法第二十一條ニ依リ原審ニ於  
ケル未決勾留日數中百二十日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

### ○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

### ○理 由

辯護人原田治郎 金子勝藏上告趣意書第一點原判決ハ第一、久保政宣對出川男也ノ訴訟事件ニ於テ被告



人カ久保政宣及池田爲三郎(第一審相被告人)ノ兩名ト謀議ノ結果池田爲三郎ヲシテ偽證セシメタル事實第四ノ二、酒井孫四郎對清水善助ノ訴訟事件ニ於テ被告人カ久保政宣及酒井孫四郎兩名ト謀議ノ上久保政宣ヲシテ偽證セシメタル事實第四ノ三、右酒井孫四郎對清水善助ノ控訴事件ニ於テ(イ)被告人カ久保政宣ト共謀ノ上久保政宣ヲシテ偽證セシメタル事實(ロ)被告人カ久保政宣池田爲三郎及酒井孫四郎ノ三名ト謀議ノ上池田爲三郎ヲシテ偽證セシメタル事實第五、被告人對渡邊與吉ノ訴訟事件ニ於テ被告人カ久保政宣ト謀議シ久保政宣ヲシテ偽證セシメタル事實ヲ夫々認定シ被告各個ノ所爲ヲ共同正犯ナリトシ刑法第六十五條第一項同法第六十條ヲ適用シタリ然レ共刑法第六十條ハ「二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス」ト規定シ共謀ノ事實アルノミナラス實行行爲ノ分擔アリテ初メテ共同正犯トナル旨ヲ明カニス原判決認定ノ事實ニヨレハ被告人山口ハ偽證ノ謀議ニ參劃シタリト雖訴訟手續ニ於テ自ラ證人トナリテ偽證ヲシタルコトナシ其ノ謀議ニ於テ縱令偽證ノ内容方法實行者等ノ定ヲナシタリトスルモ其等ハ結局意思上ノ問題タルニ留リ偽證行爲ノ實行行爲アリタリトナスヲ得サルハ言ヲ俟タス蓋シ偽證ノ實行アリトスルニハ宣誓シタル證人カ虛偽ノ陳述ヲ爲スニ付其ノ陳述又ハ之ト密接且必要ノ行爲アリタルヲ必要トスルモノナルニ被告人山口ハ只單ニ偽證ノ内容方法及其ノ實行者ヲ定ムル謀議ニ關與シタルノミニシテ實行者カ證人トシテ宣誓ノ上虛偽ノ陳述ヲ爲スニ付其ノ陳述又ハ之ト密接且必要ナル行爲ヲ爲ス點ニ於テ行爲ノ分擔ヲ爲シタルモノニ非サレハナリ御

院カ嘗テ「甲乙共謀シテ竊盜ヲ爲サンコトヲ企テ乙單獨ニ屋内ニ忍ヒ入り竊盜ヲ爲シタル場合ニハ甲ハ只謀議ヲ爲シタルニ止リ其ノ實行行爲又ハ之ト密接且必要ナル行爲ニ加擔シタル事實ナキ時ハ之ヲ實行正犯ニ問擬スルヲ得ス」(大正三年六月十九日宣告判決録第二〇輯第一二六〇頁)ト判示シタルハ蓋シ誠ニ至當ナル所論ナリト云ハサルヘカラス或ハ云ハン偽證ノ實行者ハ他ノ共謀者ニ代リテ共同ノ犯意ヲ遂行シタルモノナルヲ以テ此ノ實行者ノ代行行爲ニヨリ他ノ共謀者亦犯罪ノ實行ヲ爲シタルモノナリト然レ共選定セラレタル實行者ハ謀議ニ基キ其ノ犯罪ノ實行ニ著手セントスル瞬間其ノ謀議ニ基ク犯意ヲ實行セントスルモ亦實行セサラントスルモ其ノ何レノ自由ヲモ有スルモノナリ此ノ點被教唆者カ教唆者ニヨリ犯意ヲ注入セラレ其ノ犯意ヲ實現セントスルニ當リ實行カ否カノ自由ヲ有スルト全ク同様ナル關係ニアリト云ハサルヘカラス謀議ノ内容カ教唆ノ内容ヨリモ詳細ノ點ニ互リタルモノアリトスルモ其レニヨリ實行者カ犯意遂行ノ決意ヲ爲シ而モ其ノ實行ノ瞬間尙實行カ否カノ心理上ノ自由ヲ有スル點ニ於テ彼此異ナルトコロナシ故ニ若シ共謀ニ基ク實行者ノ行爲ニ他ノ共謀者ノ代行行爲アリトスレハ被教唆者ノ行爲ニ對シテモ亦教唆者ノ代行行爲ヲ認メサルヘカラス若シ然ランニハ刑法カ教唆ト共同正犯ヲ區別シテ規定シタルハ全ク無意義ニ歸スヘク之刑法ノ趣旨ニアラサルハ明カナリ或ハ又知能的犯罪ノ遂行ニ付テハ其ノ構成要件タル行爲ニ對シ身體的加功ヲ必要トスルノミナラス精神的加功ヲ要求スル場合最モ多キニ居ルヲ以テ共同正犯ヲ身體的加功者ノミニ制限シ其ノ犯罪ノ遂

行ニ就キ與ツテ大ニカアル精神的加功者ヲ除外シ其ノ身體的ニ犯罪ニ加功セザリシノ理由ヲ以テ之ヲ不問ニ付スヘキ理アルヘカラス之ヲ共同正犯トスルヲ相當トスト云フヘキモノアラン然レ共其ハ犯罪ノ實行行為ニ對シ精神的手段ヲ以テ加功シタル者モ亦身體的方法ヲ以テ加功シタル者ト同様ニ處罰スヘキモノナル趣旨ナル點ニ於テ是認サルヘキ所論ニシテ犯罪ノ實行行為無キ以前犯意ノ形成ニ關シ加功セラレタル場合ニマテ擴張シテ論斷スルヲ許スヘキモノニアラス謀議ニ參劃シタルノミニテハ既ニ論シタル如ク實行行為ニ加功シタルモノトハ云ヒ得サルヲ以テ假令本件ノ偽證ノ如クヨシ其カ智能的犯罪ニシテ謀議カ其ノ犯罪ノ遂行ニ就キ與テ大ニカアリトシテモ偽證ノ實行行為ニ加功セサル限リ共同正犯ヲ以テ論スルコトヲ得サルモノナリ果シテ然ラハ原判決ハ共同正犯タラサルモノニ刑法第六十條ヲ適用シタル擬律錯誤ノ違法アル判決ニシテ到底破毀ヲ免レサルモノナリト信スト云フニ在リ

按スルニ數人共謀シテ犯罪ヲ遂行スル爲其ノ方法ヲ劃策シタル末右共謀者中ノ一人ヲシテ之カ實行ノ任ニ當ラシメタルトキハ其ノ擔當者ハ共同ノ犯意ニ基キ自己及他ノ共謀者ノ爲ニ犯罪ノ實行ヲ爲シタルモノナレハ他ノ共謀者ハ右擔當者ヲシテ自己ノ犯意ヲ遂行セシメタルモノト謂ハサルヲ得サルヲ以テ刑法第六十條ニ所謂二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ニ該當スルコト言フ俟タス然レハ數人相謀リテ偽證ヲ爲サントヲ企圖シ偽證ノ方法及其ノ擔當者ヲ定ムル等ノ協議ヲ遂ケタル末右擔當者ニ於テ訴訟事件ニ付證人トシテ裁判所ニ出頭シ宣誓ノ上虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ偽證實行ノ衝ニ當

ラサル他ノ共謀者モ亦刑法第六十五條第一項ノ規定ト相俟テ偽證罪ノ共同正犯ナリト謂ハサルヘカラ

ス所論原判示第一第四ノ二第四ノ三及第五ノ各事實ニ依レハ被告人ハ第一ニ付テハ久保政宣及池田爲三郎ノ兩名ト第四ノ二ニ付テハ久保政宣及酒井孫四郎ノ兩名ト第四ノ三中(イ)ニ付テハ久保政宣ト同(ロ)ニ付テハ久保政宣池田爲三郎及酒井孫四郎ノ三名ト第五ニ付テハ久保政宣ト孰レモ偽證ヲ爲サントヲ謀議シタル末池田爲三郎及久保政宣ハ右謀議ニ基キ夫々民事訴訟事件ニ付裁判所ニ證人トシテ出頭シ宣誓ノ上虛偽ノ陳述ヲ爲シ偽證ヲ遂行シタルト謂フニ在ルヲ以テ被告人ハ縱令自ラ偽證罪實行ノ衝ニ當ラサルモ前説明スル所ニ依リ偽證罪ノ共同正犯トシテノ罪責ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス從テ原判決カ被告人ノ右行為ヲ偽證罪ノ正犯ニ間擬シタルハ正當ニシテ論旨ハ其ノ理由ナシ

同第二點原判決ハ上告理由第一點ニ摘示セシカ如キ事實ヲ認定シ其ノ各個ノ偽證行為ニ對シ刑法第六十五條第一項及同法第六十條ヲ適用シタリ仍而刑法第六十五條第一項ノ性質ヲ考フルニ嘗テ御院カ判示セシ如ク右ハ共同正犯(刑法第六十條)ニ關スル例外規定ナリ(明治四十四年十月九日宣告判決録第一七輯第一六五三頁)蓋シ同條文ニハ犯罪行為ニ加功シタル時ハトアルニヨリ同條文カ共同正犯ニ關スル規定ナルコト明瞭ナルノミナラス犯人ノ身分ニ依リ構成スヘキ犯罪ハ其ノ身分ヲ有セサルモノニ於テ之ヲ實行スルモ犯罪ノ構成要件ヲ缺如スルヲ以テ右例外規定ノ存スルニ非サレハ之ヲ處罰スル能ハサルナリ之教唆犯カ正犯ニ從屬シ常ニ正犯ト運命ヲ共ニスヘキモノナレハ犯人ノ特別身分ヲ有ス

ルト否トニ拘ラス正犯ニシテ其ノ身分ヲ有スル以上ハ常ニ正犯ニ準シテ處罰スヘキモノナルヲ以テ敢テ特ニ例外規定ヲ設クルノ要ナキト異ナル所以ナリ果シテ然ラハ同一事實ニ對シテハ第六十五條第一項(例外規定)ヲ適用スルカ第六十條(原則規定)ヲ適用スルカ其ノ一ナラサルヘカラサルニ原判決ハ其ノ認定事實ニ對シ刑法第六十五條第一項及同法第六十條ヲ擧ケタルニ留リ其ノ何レヲ適用セントスルモノナルカハ一切不明ナリ同一事實ニ對シ原則規定ト其カ例外規定ヲ同時ニ共ニ適用セントスルカ如キハ法律適用上意味ヲ爲サス故ニ原判決ハ此ノ點ニ於テ理由不備アルモノニシテ到底破毀ヲ免レサルモノナリト信スト云フニ在リ

## 【要旨第一】

然レトモ犯人ノ身分ニ因リ構成スヘキ犯罪行為ニ身分ナキ者カ加功シタルトキハ其ノ身分ナキ者ト雖仍共犯ヲ以テ論スヘキモノナルコトハ刑法第六十五條第一項ノ明定スル所ニシテ其ノ加功行為ノ種類如何ニ依リ或ハ共同正犯タル場合アルヘク或ハ教唆若ハ從犯タル場合アルヘキハ當然ナリトス而シテ僞證罪ハ法律ニ依リ宣誓シタル者ニ非サレハ犯スコトヲ得サル犯罪ナルヲ以テ同條項ニ所謂身分ニ因リ構成スヘキ犯罪行為ニ該當スルモノト謂フヘク身分ナキ者カ此ノ犯罪行為ニ加功シ相共ニ僞證ヲ爲サムコトヲ謀議シ以テ之ヲ遂行シタルトキハ前示第一點ニ於テ説明シタル如ク右身分ナキ者モ亦僞證罪ノ共同正犯ヲ以テ律スヘキモノナレハ原判決カ判示僞證ノ事實ニ付身分ナキ被告人ノ行為ニ對シ刑法第六十五條第一項及同第六十條ヲ適用シ以テ同法第六十九條ノ罪責ヲ負ハシメタルハ正當ニシテ

所論ノ如キ違法アルコトナシ論旨理由ナシ

同第三點昭和九年六月三十日公判調書ヲ見ルニ辯護人原田治郎出頭セス(一三五八頁)トノミアリテ六月二十一日辯護届アリタル辯護人金子勝藏ニツキテハ其ノ出頭不出頭不明ナリ而シテ裁判長ハ職權ニ依リ本日判決言渡ヲ來ル七月十二日午前九時ニ變更スル旨ヲ告ケ各訴訟關係人ニ出頭ヲ命シテ閉廷シタリトアリ尙次回公判期日ノ召喚狀ハ辯護人原田治郎ニ對シテノミ送達サレ辯護人金子勝藏ニ對シテハ其カ送達ナシ即チ六月三十日ノ公判期日ニ出頭セサル(出頭シタルコト明カナラサル)辯護人金子勝藏ニ公判期日ノ召喚狀ノ送達ヲ爲スコトナク次回公判ヲ開キタルモノニシテ之即チ辯護人ノ有スル權利ヲ制限シタルモノナリ果シテ然ラハ原判決ハ不法ニ辯護權ノ行使ヲ制限シタル違法アルモノニシテ到底破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

仍テ記録ヲ調査スルニ原審第三回公判調書ニハ辯護人原田治郎出頭セス裁判長ハ職權ヲ以テ昭和九年六月三十日ノ判決宣告期日ヲ同年七月十二日午前九時ニ變更スト宣言シテ閉廷シタル旨ノ記載アリ同第四回公判調書ニ依レハ各辯護人不出頭ノ儘判決ノ宣告アリタルコト明ニシテ又同第三回公判ニ出廷セサリシモノト認ムヘキ辯護人金子勝藏ニ對シ右變更セラレタル昭和九年七月十二日ノ判決宣告期日ニ付召喚狀ノ發セラレタル形跡ナキコト所論ノ如シ然レト同第二回公判調書ニ依レハ同第二回公判ニハ辯護人金子勝藏ハ辯護人原田治郎ト共ニ出廷シテ審理ニ立會ヒ結審ノ上判決宣告期日ヲ昭和九年六

月三十日ト指定シテ出頭ヲ命セラレタル事實明瞭ナルヲ以テ右金子辯護人ハ同第三回公判ニ出廷スルニ於テハ變更セラレタル判決宣告期日ヲ知り得ヘカリシニ拘ラス出廷セサリシモノナレハ同辯護人ニ於テ右新期日ヲ知ラサリシトセハ并ハ畢竟同辯護人ノ懈怠ニ因ルモノニシテ今更右新期日ニ付召喚ヲ受ケサルヲ不法ナリトシテ論難スルヲ許スヘキモノニ非サルノミナラス判決宣告ノ爲ノミニ開カルル公判廷ニ於テハ辯護人ノ辯論ヲ要セサルモノナレハ辯護人ノ立會フコトヲ必要トセス從テ右判決宣告期日ニ必スシモ辯護人ヲ召喚スルコトヲ要スルモノニ非サルヲ以テ本件判決宣告期日ニ辯護人金子勝藏ヲ召喚セサルモ辯護權ノ行使ヲ不法ニ制限シタリトノ違法アルコトナシ論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
 検事松阪廣政關與

【要旨第二】

○業務上過失致死被告事件(昭和九年(九)第九六八號事實審理  
 同年十一月二十二日第二刑事部判決 破毀自判)

【上告人】 被告人 大宮 久郎 辯護人 中 筋 義 一  
 【第一審】 大阪區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○判示事項

サイドカー附自動自轉車運轉手ノ注意義務

○判決要旨

九歳前後ノ三人ノ子供力道路ノ北側、中央、南側ト云フ程度ニ殆ント横隊ヲ爲シテ歩行シ居ル際其ノ後方ヨリ進行スルサイドカー附自動自轉車ノ運轉手力警笛ヲ吹鳴シタル爲北側及中央ノ子供力執レモ道路ノ北方ニ避讓シ南側ノ一人ノ子供トノ間ニ該サイドカー附自動自轉車ヲ通過シ得ヘキ間隔ヲ生シタリトスルモ其ノ南側ノ子供ノ態度ヲ見極メス漫然其ノ間ヲ通過セムトシ其ノ儘サイドカー附自動自轉車ヲ運轉進行スル力如キハ運轉手トシテ業務上必要ナル注意ヲ怠リタルモノトス

サイドカー附自動自轉車運轉手ノ注意義務

【參照】 刑法第二百十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以上ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審判決ハ探證上事實ノ確定ニ影響ヲ及ホスヘキ違反アリ爲ニ事實審理ノ決定ヲ爲シ審理ノ上左記ノ如ク判決シタリ

○主文

原判決ヲ破毀ス

被告人ヲ罰金六十圓ニ處ス

右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ四十日間勞役場ニ留置ス

訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トス

○理由

辯護人中筋義一上告趣意書第三點ノ論旨ノ理由アルコト昭和九年九月十三日本院ノ言渡シタル決定ニ於テ説示スル如クナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十四條ニ則リ更ニ被告事件ニ付審理スルニ被告人ハ甲種運轉手ノ免許ヲ受ケ大阪市電氣局天王寺營業所ニ勤務シ同營業所用サイドカー附自動自轉車運轉ノ業務ニ從事中昭和八年四月七日午後三時頃同營業所用サイドカー附自動自轉車(大第八七

三四號)ニ大阪市吏員永田浩ヲ同乗セシメ之ヲ運轉シテ大阪市東成區生野田島町百七十三番地先幅員約三間ニシテ南側ハ小川ニ沿ヒタル道路ニ差蒐リ時速約十哩ノ速力ニテ東方ニ向テ進行中前方約二十間ノ地點ニ松田利雄(當時九歳)カ該道路ノ南側ヲ川ニ沿ヒ同年輩ノ越智信三及同幸二カ該道路ノ中央及北側ヲ執レモ東方ニ向ヒ殆ント横隊ヲ爲シテ歩行シ居リタルヲ認メ警笛ヲ吹鳴シタルトコロ右信三及幸二ハ即時道路ノ北側ニ避讓シタルモ右利雄カ尙道路ノ南側ニ居リタルカ斯ル少年ハ注意力十分ナラサルヲ普通トスルノミナラス稍モスレハ他ノ子供ト同一方向ニ避讓セムトスル傾向ヲ有スルヲ以テ利雄モ續テ他ノ二名ノ方ニ避讓スルヤモ計ラレス故ニ運轉手タルモノハ右利雄ノ態度ヲ注視シ衝突ヲ避クル爲萬全ノ注意ヲ爲シ場合ニヨリ運轉ヲ中止シ警笛ヲ吹鳴シ以テ利雄ノ態度ヲ決セシメタル後更ニ進行スル等適當ノ措置ヲ爲スヘキ業務上ノ注意義務アルニ拘ラス右信三及幸二ノ避讓ニ依リ利雄トノ間ニ自己ノ運轉スル該サイドカー附自動自轉車ノ通過シ得ヘキ間隔ヲ生スルヤ漫然其ノ間ヲ通過セムトシ其ノ儘進行シ右利雄カ該道路ノ北側即他ノ二名ノ方ニ避讓セムトシ右自動自轉車ノ三、四尺前方ヲ横斷セムトスルニ及ヒ始メテ急停車ノ置處ヲ執リタルモ及ハス右自動自轉車ノサイドカー同人ニ衝突セシメ同人ヲ路上ニ顛倒セシメ因テ同人ニ對シ左前額部挫創等治療約四週間ヲ要スル傷害ヲ蒙ラシメ之ニ基ク破傷風症ノ爲同月二十一日大阪市立市民病院ニ於テ同人ヲ死亡スルニ至ラシメタルモノナリ

サイドカー附自動自轉車運轉手ノ注意義務

證據ヲ按スルニ

判示冒頭ヨリ判示三名ノ子供カ判示ノ如キ横隊ヲ爲シテ歩行シ居リタルヲ認メ警笛ヲ吹鳴シタルトコロ右信三及幸二ハ即時道路ノ北側ニ避讓シタル迄ノ事實ハ被告人ノ當廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニ依リ之ヲ認メ得ヘシ而シテ一方ニ於テ右信三及幸二カ道路ノ北側ニ避讓シタル際利雄カ尙道路ノ南側ニ居リタルモ續イテ北側ニ避讓セムトシ「ハスカイ」ニ走り出シタルカ其ノ途中道路ノ真中邊ニ於テ被告人操縦ノサイドカー附自動自轉車ト衝突シタルモノナル事實ハ第一審第三回公判調書中證人福岡久雄河野正夫ノ證言トシテ各其ノ趣旨ノ供述記載アルニ徴シ之ヲ認メ得ヘク又一方ニ於テ右信三及幸二カ道路ノ北側ニ避讓シタル際右二人ト利雄トノ間ニ該サイドカー附自動自轉車ノ通過シ得ヘキ間隔ヲ生シタル爲被告人ハ其ノ間ヲ通過シ得ヘキモノト信シ其ノ儘進行シタルトコロ右利雄カ前記ノ如ク該道路ノ北側ニ避讓セムトシ右自動自轉車ノ三、四尺前方ヲ横斷セムトシタル爲急停車ノ處置ヲ執リタルモ及ハス右ノ如ク自動自轉車ノサイドカート衝突シ路上ニ頓倒シ判示ノ如キ負傷ヲ爲シタル事實ハ被告人ノ當廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニ依リ之ヲ認メ得ヘシサレハ右ノ如キ少年カ注意力充分ナラサルヲ普通トスルコト竝致上ノ如ク三名ノ子供カ横隊ヲ爲シテ歩行シ居リタル際自動自轉車カ後方ヨリ進行シ來リタル爲其ノ中二人カ道路ノ北側ニ避讓シタル如キ場合ニ在リテハ殘一人ノ子供モ同一方向ニ避讓セムトスル傾向ヲ有スルモノナルコト實驗則上明カナル事實ニ屬スルカ故ニ運轉手タルモノハ其ノ二人

【要旨】

ノ子供ト一人ノ子供トノ間カ自己ノ操縦スルサイドカー附自動自轉車ヲ通過シ得ヘキ間隔ヲ生シタリトスルモ其ノ一事ニ依リ其ノ儘サイドカー附自動自轉車ヲ運轉シ進行スルカ如キハ業務上必要ナル注意ヲ缺キタルモノト謂フヘシ詳言セハ殘リノ子供カ道路ノ南側ニ避讓ケテ自動自轉車ノ通過ヲ待ツコトニ態度ヲ決シタルヤ否ヲ注視シ若不明ナル場合ニハ進行ヲ中止シ警笛吹鳴等ニヨリ其ノ態度決定ヲ促シ其ノ何レカニ態度ヲ決セシメタル後始メテ進行スヘキモノトススレハトテ其ノ間極メテ短時間ヲ以テ足ル故ニ此ノ點ニ於テ被告人ニ業務上必要ナル注意ヲ怠リタル過失アルモノト謂フヘク而シテ利雄ノ前記負傷ト其ノ死因タル破傷風症トノ間ニ因果關係アルコト醫師佐野甚七ノ檢案書中ノ其ノ旨ノ記載ニ依リ明白ナレハ判示事實全部ノ證明アリタルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第二百一十一條ニ該當スルヲ以テ所定中ノ罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金六十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ依リ金一圓五十錢ヲ一日ニ換算シ四十日間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス

檢事松阪政關與

○詐欺私文書偽造行使被告事件 (昭和九年(れ)第一一四一號 棄却)

(昭和九年十一月二十二日第一刑事部判決)

【被告人】 被告 今野真之助 辯護人 檀崎喜作

【第一審】 古川區裁判所 【第二審】 仙臺地方裁判所

○判示事項

承諾ノ豫見ト文書偽造罪ノ成立

○判決要旨

行使ノ目的ヲ以テ擅ニ他人ノ文書ヲ作成スル以上ハ後日承諾ヲ得ルコトヲ豫見シタル場合ニ於テモ文書偽造罪ノ成立ヲ妨ケサルモノトス

【参照】 刑法第五十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス  
他人ノ印章ヲ捺捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ  
前二項ノ外權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役六月ニ處ス押收ニ係ル證第一號及同第八號ノ各借用證書ノ偽造部分竝證第七號ノ認印ハ何レモ之ヲ沒收スル旨ノ判決ヲ爲シタリ  
被告人ハ豫テ工藤文藏ノ保證ニヨリ志田郡三本木町新澤順吉ヨリ金四百圓及金五百圓ノ二口ヲ借用シ居リタルカ昭和三年一月頃同人ニ對シ更ニ金員ノ貸與方ヲ申込ミタルトコロ同人ヨリ今後ハ被告人ノ實父今野助太郎ニ於テ保證スルニ非サレハ貸與スルコト能ハサル旨申聞ケラレタル結果茲ニ惡心ヲ起シ右助太郎名義ノ金員借用連帶保證書ヲ偽造行使シ因テ右順吉ヨリ金員ヲ騙取センコトヲ企テ第一、昭和三年一月十七日前記順吉方ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ借用人ヲ被告人借用金額ヲ金千五百圓ト爲シタル順吉宛ノ金員借用證書一通ヲ作成シ之ニ連帶保證人トシテ擅ニ實父助太郎ノ氏名ヲ冒書

承諾ノ豫見ト文書偽造罪ノ成立

シ其ノ名下ニ自己ノ認印ヲ押捺シテ助太郎名義ノ連帶保證書一通ヲ偽造シ之ヲ右助太郎ノ承諾ノ下ニ作成シタルモノノ如ク装ヒテ順吉ニ差入レ行使シ同人ヲシテ其ノ旨誤信シ前二口ノ貸付金債權ノ元利合計金千五十二圓五十錢ノ辨濟ヲ受ケタルコトニ爲サシメ簡易ノ授受ヲ了シタル上其ノ差額金四百四十七圓五十錢ヲ交付セシメ以テ金千五百圓ヲ貸借名義ノ下ニ騙取シ

第二、同年五月十五日前同様順吉方ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ借用人ヲ被告人借用金額ヲ金三百圓ト爲シタル順吉宛金員借用證書一通ヲ作成シ之ニ連帶保證人トシテ擅ニ助太郎ノ氏名ヲ冒書シ其ノ名下ニ自己ノ認印ヲ押捺シテ助太郎名義ノ連帶保證書一通ヲ偽造シ之レヲ右助太郎ノ承諾ノ下ニ作成シタルモノノ如ク装ヒテ順吉ニ差入レテ行使シ同人ヲシテ其ノ旨誤信シ金三百圓ヲ貸借名義ノ下ニ自己ニ交付セシメテ之ヲ騙取シ

タルモノニシテ以上各私文書偽造各偽造私文書行使各詐欺ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノナリ法律ニ照スニ被告人ノ所爲中私文書偽造ノ點ハ刑法第五百九條第一項第五十五條ニ偽造私文書行使ノ點ハ同法第六十一條第一項第五百九條第一項第五十五條ニ詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第一項第五十五條ニ各該當スルトコロ以上ハ順次ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ最モ重キ詐欺罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六月ニ處スルヲ相當トシ押收ノ證第七號ノ認印ハ本件犯罪ノ供用物件ニシテ犯人以外ノ者ニ屬セス又證第一號同第八號ノ

金員借用證書中ノ各偽造部分ハ本件犯罪ニ因テ生シタル物ニシテ何人ノ所有ヲモ許スヘキモノニ非ラサルヲ以テ何レモ同法第十九條ニ則リ之ヲ沒收スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人檀崎喜作上告趣意書第一點原判決ハ法律ノ解釋ヲ誤リ慣例ヲ無視シタル違法アリ原判決ハ其ノ理由ニ於テ「昭和三年一月十七日前記順吉方ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ借用人ヲ被告人借用金額ヲ金千五百圓ト爲シタル順吉宛ノ金員借用證書一通ヲ作成シ之ニ連帶保證人トシテ擅ニ實父助太郎ノ氏名ヲ冒書シ其ノ名下ニ自己ノ認印ヲ押捺シテ助太郎名義ノ連帶保證書一通ヲ偽造シ之ヲ右助太郎承諾ノ下ニ作成シタルモノノ如ク装ヒテ順吉ニ差入レ行使シ云々ト判示シ文書偽造罪トシテ處斷シタリ然レトモ被告人ハ實父助太郎ト同一家庭内ニ共同生活ヲ營ミ父ノモノハ子ノモノニシテ子ノモノハ父ノモノト信シ居リタルモノニシテ之レ即チ我カ國ニ於ケル家族制度ノ特色トシテ吾人國民ノ誇リトスル所ナリ而シテ父助太郎ハ齡既ニ八十四歳ニシテ被告人ハ常ニ父ニ代リテ一家ノ生計ヲ處理シ居リタル關係上家宅ノ修理及宅地ノ土盛等ヲ爲スノ費用トシテ本件金借ヲ爲シ之ニ依リ其ノ目的ヲ達シタルモノニシテ元來此等ノ事業ハ戶主タル父助太郎ノ實施スヘキモノナリシナリ元來承諾ヲ豫見シテ文書ヲ偽造

承諾ノ豫見ト文書偽造罪ノ成立



シタル場合ニ文書偽造罪ノ成立スルヤ否ヤニ關シテハ議論アル處ニシテ我國ニ於ケル有力ナル學者ニシテ消極説ヲ採ルモノアリ(牧野博士增訂日本刑法六一八頁)御院判例ハ之ニ反スルカ如キモ本件ノ如ク子カ父ノ利益ノ爲ニスル意思ヲ以テ當然父ノ承諾アルヘキコトヲ信シ自己ヲ借主トスル借用證書ニ父ヲ連帶保證人タラシメタルカ如キハ亦自ラ同時ニ論スヘカラサルモノト信ス本件事案ノ如キハ世上常ニ慣行セラルル所ニシテ特ニ農民ノ實際生活ヲ見ルトキハ形式的ニハ老父カ戸主トシテ一家ノ長トシテ存在スト雖齡既ニ六、七十歳ニ達スルニ於テハ實質的ニハ隱居ト稱シ家計ノ一切ヲ長子ニ委ネ自己ハ孫ノ子守等ニ終始シ一家ノ經濟ノ切り盛りハ勿論對外的交渉等モ亦老父ニ代リソノ名ニ於テ壯年ノ長子之ニ任スルノ實狀ニ在ルハ顯著ナル事例ナリ本件事案モ之ト規ヲ同シウスルモノニシテ要スルニ長子タル被告人カ老齡八十有四歳ニ達スル父助太郎ニ代リ自己ノ名義ヲ以テ金借スルニ當リ父ヲシテ連帶保證人タラシメ一家ノ必要費並有益費ヲ支辨シタルモノニ係リ父助太郎ハ當然之ヲ承認スヘキモノト信シソノ信念ノ下ニ本件文書ヲ作成シタルモノナリ然ルニ原審ハ此ノ事實ヲ看過シテ被告人ヲ文書偽造罪ニ問擬シタルモノニシテ違法ナルヲ以テ破毀セラルヘキモノト信スト謂フニアレトモ原判決ノ認定ニ依レハ被告人ハ原判示第一ノ金千五百圓ノ借用證書ヲ作成スルニ當リ實父助太郎ノ承諾ヲ得スシテ其ノ連帶保證書ヲ偽造シタルモノナレハ文書偽造罪ノ成立ヲ認ムヘキハ當然ニシテ被告人カ右助太郎ノ承諾ヲ豫見シ該證書ニ依ル借受金員ヲ被告人一家ノ必要費又ハ有益費ヲ支辨シ後日右

【要旨】

助太郎ノ承諾ヲ受ケ得ヘキコトヲ信シ居リタルモノナルコトハ原判決ノ認ムル所ニ非サルノミナラス所論承諾豫見ノ有無ハ文書ノ偽造罪ノ成立ニ消長ヲ來スヘキモノニアラサルヲ以テ原判決カ被告人ノ判示所爲ヲ文書偽造罪ニ問擬シタルハ正當ニシテ違法ト謂フヲ得ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
 檢事平井彦三郎關與

○常習賭博同幫助被告事件 (昭和九年(九)第一一五二號 棄却)  
 (同年十一月二十二日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 鈴木茂市 辯護人 大松市藏  
 外七名 來多菊治榮  
 【第一審】 名古屋地方裁判所 【第二審】 名古屋控訴院

○判示事項

常習賭博ト起訴ノ範圍 常習賭博ノ起訴ト賭博行為ノ常習幫助 現物取引ニシテ賭博行為ニ非ストノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項 法人ノ犯罪能力 法人不處罰ノ原則ト取引所法違反賭博ノ法律適用

常習賭博ト起訴ノ範圍——常習賭博ノ起訴ト賭博行為ノ常習幫助  
現物取引ニシテ賭博行為ニ非ストノ主張ト刑事訴訟法第三百六十  
條第二項——法人ノ犯罪能力——法人不處罰ノ原則ト取引所法違反賭  
博ノ法律適用

○判決要旨

一常習賭博罪ノ起訴ノ範圍ハ起訴事實ヲ基礎トシテ之ト合シテ一  
個ノ常習賭博罪ヲ構成スヘキ總テノ事實ニ及フヘキモノトス【要  
旨第一】

二常習トシテ賭博ヲ爲シタリトノ事實ト賭博行為ヲ常習トシテ幫  
助シタリトノ事實トハ犯罪加功ノ態様ヲ異ニスルニ過キサルモ  
ノニシテ前者ノ起訴事實中ニハ後者ノ事實ヲ包含ス【要旨第二】  
三本件取引ハ現物取引ニシテ賭博行為ニ非ストノ主張ハ賭博罪ノ  
構成要件タル事實ノ否認ニ過キスシテ犯罪成立阻却ノ原由タル  
事實上ノ主張ニ非ス【要旨第三】  
四現行法ノ下ニ於テハ法人ノ犯罪ヲ認ムヘカラサルヲ原則トス【要

【要旨第四】

五商事會社ノ取締役力取引所ニ依ラスシテ取引所ノ相場ヲ標準ト  
シタル價格ニ依リテ株式賣買ノ注文ヲ受ケ後日同様ノ價格ニ依  
リ轉賣又ハ買戻ノ形式ニテ手仕舞ヲ爲シ其ノ差金ノ授受ヲ爲ス  
ヘキ賭博ヲ常習トシテ爲シタルトキハ現ニ犯罪ヲ爲シタル取締  
役ヲ處罰スヘキモノニシテ法人ヲ處罰スヘキモノニ非ス【要旨第  
五】

【參照】 刑事訴訟法第三百六十條第二項 法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由又ハ刑  
ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ  
取引所法第三十二條ノ五 取引所ニ依ラスシテ取引所ノ相場ニ依リ差金ノ授受ヲ目  
的トスル行為ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス但刑法  
第百八十六條ノ適用ヲ妨ケス  
同法第三十二條ノ七 本法ノ對則ハ法人ニ在リテハ其ノ行為ヲ爲シタル理事、取締役  
其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員ニ之ヲ適用ス  
刑法第百八十六條第一項 常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役  
ニ處ス

○事實

常習賭博ト起訴ノ範圍 常習賭博ノ起訴ト賭博行為ノ常習幫助 現物取引ニ  
シテ賭博行為ニ非ストノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項 法人ノ犯罪  
能力 法人不處罰ノ原則ト取引所法違反賭博ノ法律適用

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人茂市ヲ懲役六月同右一ヲ懲役三月同甚一治作 蔣三郎 覺三郎 完ヲ各懲役二月同三郎ヲ懲役一月ニ處シ但シ被告右一甚一 治作 蔣三郎 覺三郎 完ニ付テハ本裁判確定ノ日ヨリ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人鈴木茂市ハ豊橋市西八丁七十二番地所在現物賣買等ヲ營業ノ目的トセル豊橋證券株式會社ノ取締役兼社長被告人伊藤右一ハ同會社ノ營業部長被告人水野甚一ハ同會社幡豆郡吉田支店主任原審被告人吉川秋三郎ハ同會社碧海郡新川支店主任被告人小田治作ハ同會社岡崎支店主任被告人菅沼覺三郎ハ同會社静岡支店主任被告人石川三郎ハ同會社静岡縣小笠郡堀之内支店主任被告人堀部蔣三郎ハ同會社渥美郡福江支店主任被告人石川完ハ同會社三谷支店主任ナルトコロ

第一、被告人鈴木茂市 伊藤右一ハ共謀ノ上眞實株式授受ヲ爲スノ意思ナキニ拘ラス名ヲ株式現物賣買ニ藉リ東京、大阪、名古屋ノ各株式取引所主トシテ名古屋株式取引所短期清算市場ニ於ケル相場ヲ標準トシタル價格ニ依リテ東京株式取引所新株其ノ他ノ株式ニ付キ客ヨリ買又ハ賣ノ註文ヲ受ケ後日其ノ時ニ於ケル前同様ノ價格ニ依リテ轉賣又ハ買戻ノ形式ニヨリ手仕舞ヲ爲シ右價格ノ高低ニ基キ計算シタル上其ノ差金ノ授受ヲ爲スヘキ賭博ヲ別表第一乃至第八記載ノ如ク其ノ時期各支店ヲ通シ又ハ本店ニ於テ客タル山本一郎外數十名トノ間ニ千數百回ニ互リ常習トシテ爲シ

第二、被告人水野甚一 小田治作 堀部蔣三郎 菅沼覺三郎 石川三郎 石川完等ハ何レモ被告人鈴木茂市

伊藤右一ノ前記犯行ヲ爲スノ情ヲ知り乍ラ各自其ノ主任ヲ勤メ居レル別表各支店關係記載ノ如ク各支店ニ於テ客ノ註文及手仕舞ノ通告等ヲ受ケ之ヲ本店ニ取次キ以テ其ノ犯行ヲ常習トシテ幫助シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人鈴木茂市及伊藤右一ノ各所爲ハ各刑法第八十六條第一項ニ該當スルヲ以テ各其ノ所定期刑範圍内ニ於テ其ノ餘ノ被告人ノ各所爲ハ各同法第八十六條第一項第六十二條ニ該當スルヲ以テ各同法第六十三條第六十八條第三號ニ依リ減輕シタル刑期範圍内ニ於テ夫々量刑處斷スヘク右茂市ヲ除キタル其ノ餘ノ被告人ニ付テハ各其ノ犯罪ノ情狀刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ同法第二十五條ニヨリ各其ノ處分ヲ爲スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告辯護人平松市藏 大山菊治被告鈴木茂市辯護人來多虎榮上告趣意書第一點本件豫審終結決定書ハ契印ヲ缺如シ刑事訴訟法第七十一條ニ違反スルヲ以テ之ニ基キ公判ニ附セラレ審理裁判セラレタル原判決ハ違法ナリ本件一件記録ヲ閱スルニ豫審終結決定書第一葉第二葉間(記録第一八二七丁一八二

常習賭博ト起訴ノ範圍 常習賭博ノ起訴ト賭博行為ノ常習幫助 現物取引ニシテ賭博行為ニ非ストノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項 法人ノ犯罪能力 法人不處罰ノ原則ト取引所法違反賭博ノ法律適用

八丁間)ニハ當該豫審判事ニ於テ契印ヲ爲シタル事蹟ナシ然レトモ刑事訴訟法第七十一條ニ依レハ官吏ノ作ルヘキ書類ニハ每葉ニ契印ヲ爲スコトヲ要スルヲ以テ右契印ヲ缺如セル豫審終結決定書ハ該規定ニ違背スルハ勿論之ニ基キ公判ニ付セラレ審理裁判セラレタル原判決ハ違法ナリ或ハ豫審終結決定書ハ判決書ニ於ケル場合ノ刑事訴訟法第四百十條第二十一號ノ如キ絶對的違法トスル旨ノ規定ナキヲ以テ原判決ヲ破毀スヘキ理由トナラサルヤノ疑アルモ豫審終結決定ハ免訴又ハ公訴棄却ノ場合ハ之ニ依リ該被告事件ハ一切ノ手續ヲ終結スルモノニシテ其ノ性質及效果ニ於テ判決ト同様ノ價值ヲ有スルハ勿論公判ニ附スル旨ノ決定ノ場合ニ於テモ豫審ハ搜索手續ニアラスシテ判決裁判所ノ手續ト共ニ公訴提起ニ因リ開始セラレヘキ審理手續ノ一ニシテ唯判決裁判所ノ審理ハ罪ノ有無ヲ斷シ刑罰ヲ定ムルニアルモ豫審ハ判決裁判所ノ審理ヲ求ムルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑アリヤ否ヲ決スルコトノ差異アルニ過キス從テ公判ニ附スル旨ノ豫審終結決定書モ亦刑事訴訟法上ニ於テハ裁判ノ基礎トナリ判決書ト同様重要ナルモノニシテ其ノ性質モ亦頗ル類似ノトコロアルノミナラス本件公判ニ於テハ檢事ハ右豫審終結決定書ニ基キ公訴事實ノ陳述ヲ爲シ公判審理ノ上裁判セラレタルモノナルヲ以テ本件豫審終結決定ハ公訴事實ノ基本タルヘキモノニシテ原判決ニ重大ナル關係ヲ有スルモノナリ而モ右刑事訴訟法第四百十條第二十一號ノ規定ハ判決書ノ契印缺如ノミヲ絶對違法トシ其ノ他ノモノヲ全部破毀スヘキ違法ト爲ササル趣旨ノモノニアラサルヲ以テ前述ノ如ク判決同様重大ナル審判手續ノ豫審終結決定書ニ

付契印ヲ缺如セルトキハ原判決破毀ノ違法トナルモノト信スト云フニ在レトモ所論豫審終結決定書ヲ查スルニ其ノ第一葉ト第二葉トノ間ニ當該豫審判事ノ契印ヲ缺クコト所論ノ如シト雖豫審終結決定書ニ付テハ刑事訴訟法第四百十條第二十一號ノ如キ規定存セサルヲ以テ該決定書ハ當然無効ナリト爲スヘキニ非ス該決定書ヲ閱スルニ前後ノ關係ニ於テ真正ナル單一ノ文書ト認ムルニ足ルヲ以テ決定書タルノ効アリ之ニ基キ審判セル原判決亦有效ナルコト勿論ナリ論旨理由ナシ第二點原判決ハ檢事ノ公訴提起ナキ事實ニ對シ裁判ヲ爲シタル違法アルモノナリ本件一件記録中ニ於ケル被告人鈴木茂市同伊藤右一同水野甚一ニ對スル昭和六年十一月二十日付豫審請求書及被告人小田治作同菅沼覺三郎同石川三郎同堀部時三郎同石川完等ニ對スル追豫審請求書ニ依レハ何レモ昭和六年一月ヨリ同年十一月中旬ニ至ルマテノ間ニ於テ爲シタル株式取引ヲ常習賭博罪ナリトシテ起訴シタルコト明カナリ然ルニ原判決ハ左記ノ如ク右昭和六年一月以前ノ取引事實ニ對シテモ賭博ナリト認定シタルモノナリ一、原判決別表第一中ノ加藤禮一トノ取引ハ昭和五年十二月ヨリ同六年六月マテ二、同上大羽幸吉トノ取引ハ昭和五年十一月ヨリ同六年十一月迄三、同上別表第二中ノ黒野惣平トノ取引ハ昭和五年十二月ヨリ同六年七月下旬迄四、同上別表第四中ノ加納愛三郎トノ取引ハ昭和五年十二月ヨリ同六年六月迄五、同上石川乙吉トノ取引ハ昭和五年一月ヨリ同六年一月頃迄六、同上新實嘉七トノ取引ハ昭和五年十一月ヨリ同六年十一月迄七、同上別表第八ノ加藤愛治トノ取引ハ昭和五年十二月ヨ

常習賭博ト起訴ノ範圍 常習賭博ト起訴トモ博行爲ノ常習幫助 現物取引ニシテ賭博行爲ニ非ストノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項 法人ノ犯罪能力 法人不處罰ノ原則ト取引所法違反賭博ノ法律適用

リ同六年十一月迄八、同上廣瀬梅治トノ取引ハ昭和五年十二月ヨリ同六年八月迄故ニ原判決ハ右昭和六年一月以前ノ取引ニ付テハ檢事ノ公訴提起ナキ事實ニ對シ裁判ヲ爲シタル違法アルモノナリト云フニ在レトセ

【要旨第一】

常習賭博罪ハ一種ノ慣行犯ニシテ其ノ起訴ノ範圍ハ起訴事實ヲ基礎トシテ之ト合シテ一罪ヲ爲スヘキ總テノ事實ニ及フヘキモノナレハ原審カ檢事ノ豫審請求書記載ノ事實以外所論被告等ニ對スル賭博行爲ヲ認メ之ヲ請求書記載ノ事實ト共ニ一罪トシテ處斷シタルハ正當ニシテ起訴ナキ事實ニ對シ裁判シタル違法アルコトナシ論旨理由ナシ

第三點原判決ハ前點同様ノ違法アルモノナリ原判決理由第二ニ依レハ被告人水野甚一 小田治作 堀部 詩三郎 菅沼覺三郎 石川三郎 石川完等ハ何レモ被告人鈴木茂市 伊藤右一ノ犯行ヲ幫助シタル旨認定セラレタリ然レトモ右被告人等ニ對スル豫審請求書ニ依レハ同被告人等ハ鈴木茂市及伊藤右一ト共謀シテ本件常習賭博ヲ爲シタル旨ノ公訴事實ノ記載アルモ原判決認定事實ノ如キ幫助ノ事實ニ付テハ何等記載ナキモノナリ故ニ原判決ハ右被告人等ノ認定事實ニ付テハ檢事ノ公訴提起ナキ事實ニ對シ裁判ヲ爲シタル違法アルモノナリト云フニ在レトモ

【要旨第二】

常習トシテ賭博ヲ爲シタリトノ事實ト賭博行爲ヲ常習トシテ幫助シタリトノ事實トハ單ニ犯罪ノ加功態様ヲ異ニスルニ過キサカ故ニ起訴官ト裁判所トノ間ニ於テ此ノ點ニ關スル觀察ヲ異ニセルコトアルモ當該犯罪ノ同一性ヲ失フモノニアラサルヲ以テ前者ノ起訴事實中ニハ後者ノ事實ヲ包含スルモノトス從テ前者ノ起訴ニ對シ其ノ事實ヲ後者ノ如ク認定スルニ妨ナシ本件豫審請求書ニ依レハ被告水野甚一外五名ハ被告鈴木茂市及伊藤右一ト共謀シテ本件常習賭博ヲ爲シタル旨ノ公訴事實ノ記載アルニ拘ラス原審ハ被告水野甚一外五名ニ被告鈴木茂市及伊藤右一ノ本件常習賭博ヲ幫助シタリト認定セルモ敘上ノ理由ニ依リ公訴ノ提起ナキ事實ニ對シ裁判ヲ爲シタル違法アリト謂フヘキニ非ス論旨理由ナシ

第四點原判決ハ法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由タル事實上ノ主張ニ對シ判斷ヲ示ササル違法アルモノナリ一件記録中ニ於ケル鈴木被告控訴審公判提出昭和九年三月十五日附上申書第二同年五月十二日附追加上申書第二及同第二回公判ニ於テ辯護人ヨリ申請ノ證人申請書竝ニ控訴審公判ニ於ケル鈴木被告等ノ供述ヲ綜合シテ明カナル如ク被告人鈴木茂市及其ノ辯護人ハ本件取引ハ現物取引ニシテ適法行爲ナル旨及少クトモ被告人等ハ之ヲ信シ居リタル旨ヲ主張シタルモノナリ而シテ本件取引カ現物取引ナルトキハ適法行爲ニシテ第一審判決ノ如ク取引所法違反トナラサルハ勿論原判決ノ如ク常習賭博罪モ成立セサルモノナリ又假リニ現物取引ニアラサルモノナリトスルモ被告人等ニ於テ後記第十點ノ一ニ於テ述ヘタル方法即チ案内書ノ發送、誓約書、委任狀ノ受領、受渡履行ノ請求等ノ手續ヲ爲シ居ルヲ以テ客ノ意思如何ニ拘ラス豊橋證券株式會社特ニ被告人等トシテハ現物取引ナリト信シテ取引シ

常習賭博ト起訴ノ範圍 常習賭博ノ起訴ト賭博行爲ノ常習幫助  
シテ賭博行爲ニ非ストノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項 現物取引ニ  
能力 法人不處罰ノ原則ト取引所法違反賭博ノ法律適用 法人ノ犯罪

タルモノナルヲ以テ錯誤ニ依リ犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由アルモノナリ然ルニ原判決ハ右法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由タル本件取引カ現物取引ニシテ且被告人等カ之ヲ信シテ取引ヲ爲シタル旨ノ被告人及辯護人ノ主張ニ對シ何等明示スルトコロナキヲ以テ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ違背シ法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由タル事實ノ主張ニ對スル判斷ヲ示ササリシ違法アルモノナリト云フニ在レトモ

【要旨第三】

本件取引ハ現物取引ニシテ賭博行爲ニ非ストノ所論主張ハ犯罪構成要件タル事實ノ否認ニ過キスシテ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ所謂犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由タル事實上ノ主張ニ非サルヲ以テ原審カ之ニ對シ何等ノ判斷ヲ與ヘサリシハ當然ナリ論旨理由ナシ  
第五點原判決ハ第一審判決ヨリ被告人ニ不利益ノ裁判ヲ爲シタルモノニシテ刑事訴訟法第四百三條ニ違反スル違法アルモノナリ本件被告事件ニ對スル第一審判決ハ被告人鈴木茂市ノ豊橋證券株式會社ニ於テ爲シタル株式取引ニ對シ取引所法第三十二條ノ五ノ規定ニ違背スル犯罪ナリトシテ懲役六月ヲ言渡サレタルニ拘ラス原判決ハ右行爲ヲ常習賭博ナリトシテ刑法第八十六條第一項ヲ適用シ懲役六月ノ刑ヲ言渡サレタルモノナリ然レトモ右取引所法第三十二條ノ五ハ一種ノ取締規定ニシテ其ノ刑ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ過キサレトモ刑法第八十六條第一項ノ常習賭博罪ハ刑罰ニシテ其ノ刑ハ三年以下ノ懲役ヲ科シ得ルモノナルヲ以テ常習賭博罪ノ右取引所法違反ヨリ重キ犯罪ナル

コト言フ俟タス故ニ其ノ輕キ取引所法違反ヲ重キ常習賭博罪ニ變更シタル原判決ハ不利益變更禁止ニ關スル刑事訴訟法第四百三條ノ規定ニ違反スルモノナリ尤モ右刑事訴訟法第四百三條ニ依レハ「被告人控訴ヲ爲シタル事件云々ニ付テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス」トアルヲ以テ原判決主文ノ刑カ第一審判決ト同一ナルトキハ同規定ニ違反セサルモノト解シ得ルカ如キモ同規定ハ控訴判決ヲ第一審判決ヨリ被告人ノ不利益ニ裁判スルコトヲ許ササル趣旨ニテ立法セラレタルモノナルヲ以テ其ノ犯罪事實ノ認定ト云ヘ共之ヲ變更シタルカ爲本來其ノ主文ノ刑ニ影響ヲ及ホスヘキ場合ニ於テハ假リニ同一刑ヲ言渡サレタルトキニテモ同條ノ規定ニ違反スルモノト解セサルヘカラス故ニ本件ノ如ク輕微ナル取締法違反ノ裁判ヲ受ケタルモノヲ特ニ重キ常習賭博罪トシテ裁判スルコトハ本來主文ノ刑ニ影響スヘキ被告人ニ不利益ナル裁判ヲ爲シタルモノニシテ之ヲ許ササル法意ナリト解スヘキモノナルヲ以テ原判決ハ右規定ニ違反スル違法アルコトヲ免レサルモノナリト云フニ在レトモ  
裁判所ハ眞實主義ニ則リ事件ノ審判ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ檢事ノ起訴シタル事實ノ範圍ヲ逸セサル限り眞實ニ即シタル事實ヲ闡明シ之ニ對スル法律ヲ適用セサルヘカラサルコト當然ナリ從テ控訴裁判所ハ檢事ノ起訴及第一審裁判所ノ見解ニ拘束セラルルコトナシ而シテ刑事訴訟法第四百三條ハ唯第一審裁判所ノ刑ヨリモ重キ刑ヲ言渡スコトヲ禁スルニ止マリ事實認定及法律適用ノ更正ヲ禁スルモノニ非ス原審ハ檢事ノ起訴ノ範圍内ニ於テ第一審裁判所ト事實ノ認定法律ノ適用ヲ異ニシタルモ刑ニ變

常習賭博ト起訴ノ範圍 常習賭博ト起訴ト賭博行爲ノ常習幫助  
シテ賭博行爲ニ非ストノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項 現物取引ニ  
能力 法人不處罰ノ原則ト取引所法違反賭博ノ法律適用

更ナキヲ以テ刑事訴訟法第四百三條ニ違反セル違法アルコトナシ論旨理由ナシ  
 第十點原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノナリ原判決ハ理  
 由第一ニ於テ「被告人鈴木茂市、伊藤右一ハ共謀ノ上眞實株式授受ヲ爲スノ意思ナキニ拘ラス名ヲ株  
 式現物賣買ニ藉リ東京、大阪、名古屋ノ各株式取引所主トシテ名古屋株式取引所短期清算市場ニ於ケ  
 ル相場ヲ標準トシタル價格ニ依リテ東京株式取引所新株其ノ他ノ株式ニ付客ヨリ買又ハ賣ノ注文ヲ受  
 ケ後日其ノ時ニ於ケル前同様ノ價格ニ依リテ轉賣又ハ買戻ノ形式ニヨリ手仕舞ヲ爲シ右價格ノ高低ニ  
 基キ計算ヲ爲シタル上其ノ差金ノ授受ヲ爲スヘキ賭博ヲ別表第一乃至第八記載ノ如ク其ノ時期各支店  
 ヲ通シ又ハ本店ニ於テ客タル山本一郎外數十名トノ間ニ千數百回ニ互リテ常習トシテ爲シ」タル旨判  
 定セラレタリ然レトモ豊橋證券株式會社ノ株式取引ハ株式ノ現物取引ニシテ差金ノ授受ヲ目的トスル  
 所謂差金取引ニアラサルヲ以テ本件判示取引モ亦其ノ營業方針ニ基ク現物取引ニ屬スルモノナリ其ノ  
 詳細ノ事由左ノ如シ一、豊橋證券株式會社ハ其ノ會社ノ目的自體有價證券ノ現物賣買ニシテ（第二審  
 公判辯護人提出證第六號ノ登記簿謄本及同證第七號ノ定款參照）其ノ實際取引ノ一般取扱方法モ亦現  
 物取引トシテノ方法ヲ採レルモノナルヲ以テ其ノ營業方針ニ基ク本件取引ハ現物取引ニシテ所謂差金  
 ノ授受ヲ目的トスル取引ニアラサルコト明カナリ其ノ取扱方法ノ概要ハ左ノ如シ（イ）株式ノ賣買ハ  
 總テ店員中外交カ其ノ衝ニ當リ客ハ或ハ店頭ニ來リ又ハ外交カ客ヲ訪問ノ上商談成立スルコトアルモ

多クハ電話ニテ外交ニ對シ注文シ來ルモノニシテ其ノ注文ヲ受ケタル外交ハ其ノ時ノ相場ヲ營業部長  
 ニ照介シ營業部長ハ東京、大阪、名古屋ノ各株式取引所ノ短期相場ヲ參考トシテ決定シタル會社獨特  
 ノ相場ヲ回答シ其ノ相場ト客トノ意見カ一致シタルトキ商談成立スヘキモノナリ而シテ右商談カ成立  
 シタルトキハ會社ハ直チニ案内書ヲ發送スルモノニシテ其ノ案内書ニハ控訴審辯護人提出辯證第二號證  
 用紙及現ニ發送シタル案内書控（押收證第四十號第六號）ノ如ク現物組合ノ規定通り一箇月内ニハ必  
 ス受渡ヲ履行セラレ度旨及不履行ノトキハ代理受渡スル旨ヲ附記シテ賣買成立シタル旨ヲ通知スルモ  
 ノナリ（ロ）右商談カ成立シタルトキハ直チニ現物ノ受渡ヲ實行スルモノニシテ其ノ實行シタル例ハ  
 證第三十四號（控訴審提出昭和九年三月十五日附證據説明書第二參照）ニ依リ明カナリ又店ニ現物ナ  
 キトキハ取引所ニ買付ケセル株ヲ取寄セ若シ其ノ買付ナキトキハ準備株ニヨリ數日中ニ其ノ受渡ヲ爲  
 シタルモノナリ而シテ會社ハ押收證第二十五號ノ帳簿及第一審公判辯護人提出ノ名古屋株式取引員③  
 商店川合敏秀商店大鹿さやう令商店加藤萬治郎商店松浦彦吉ノ毎月賣買統計表ニ依リ明カナル如ク  
 一箇月平均約一萬株内外ノ株式ヲ準備セシモノナリ（控訴審公判提出昭和九年五月十二日附追加上  
 申書第三參照）（ハ）又若シ客ニ於テ即時現物ノ受渡ヲ希望セサルトキハ必ス受渡ヲ履行スル旨ノ誓  
 約證（控訴審提出辯證第三號證）ヲ取り若シ三十日ノ現物組合規定期間内ニ受渡ヲ履行セサルトキハ店  
 ヨリ株ヲ持參シテ其ノ履行ヲ迫リ居リ現ニ店員石川三郎ハ度々現株持參ノ上督促シタル事實アルモノ

常習賭博ト起訴ノ範圍 常習賭博ノ起訴ト賭博行為ノ常習幫助 現物取引ニ  
 シテ賭博行為ニ非ストノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項 法人ノ犯罪  
 能力 法人不處罰ノ原則ト取引所法違反賭博ノ法律適用

ナリ(石川被告ノ第一、二審公判供述及豫審第一回調書参照)故ニ豊橋證券株式會社ノ株式取引ハ其ノ取引方法ノ實際ニ照シ現物取引ナルコト極メテ明ニシテ被告等ノ豫審供述中ニハ右委任狀誓約證ノ作成及店員ノ現株持參ノ上客ヲ訪問シ履行ヲ督促シタル事實等ハ現物取引ナルコトヲ裝フ爲作爲シタルモノナル旨ノ供述アルモ右ハ被告等ノ第一、二審公判ニ於テ述フル如ク右事實ヲ自供セサレハ多數ノ店員ヲ拘引スル旨ヲ以テ虚偽ノ自白ヲ強要セラレタル爲ナルノミナラス被告等ハ多數ノ客ニ迷惑ノ及フコトヲ苦慮シタル結果已ムヲ得スシテ迎合的供述ヲ爲シタル事情存スルモノナルヲ以テ其ノ措信スヘカラサルハ勿論之カ爲右取引方法ハ現物取引ヲ裝フ爲作爲シタルモノト爲スコトヲ得サルモノ也

二、又豊橋證券株式會社ハ客ヨリ渡サレタル株式ヲ受取ラサルコトハ一回モナク受株ヲ要求セラレテ渡ササリシ例モ亦一度モナカリシノミナラス其ノ取引ニ付テハ押收證第五十四號ノ二及控訴審公判辯護人提出辯第一號證ノ印刷物ヲ配布シ居リタルモノニシテ該印刷物ニ依レハ「當店ハ總テ現物賣買テアリマシテ長期短期ハ取扱イ致シマセン」及「當店ハ現物テアリマスカラ夜ニテモ賣買致シマス」トアルヲ以テ之ニ依リテモ現物取引ヲ爲シ居リタルコト明ナリ故ニ其ノ會社ノ行爲トシテ被告等ノ爲シタル本件取引カ現物取引ナルコトハ言ヲ俟タス三、押收證第三十四號ノ傳票及同第十三號ノ帳簿ニ依レハ控訴審公判辯護人提出昭和九年三月十五日附證據説明書添附第一表乃至第三表記載ノ如ク結果ヨリ觀ルモ判明セル程度ニ於テ相當多數ノ現物取引存在スルヲ以テ同會社ハ現物取引ヲ爲シタルモノナ

ルコト明カ也故ニ差金取引ニ終リタルモノアルモ當初ヨリ差金ノ授受ヲ目的トシタルモノニアラスシテ客ノ都合ニ依リ其ノ結果トナリタルニ過キサルヲ以テ假リニ客ニ於テハ差金授受ノ目的アリタリトスルモ會社トシテハ現物取引トシテ處置シ居リ被告等ハ其ノ犯意ナカリシモノ也四、又鈴木被告ハ右會社ノ社長伊藤被告ハ營業部長其ノ他ノ被告ハ各地支店主任トシテ會社既定ノ現物取引ノ營業方針ニ從ヒ會社ノ事業ヲ遂行シタルモノニシテ直接客ニ折衝シタル外交員カ客ニ於テ差金授受ノ目的アリタルコトヲ知ル場合アルハ格別店內ニ於テ事務ヲ統轄セル被告等カ客ノ心理状態ヲ知ルニ由ナキハ當然ナルヲ以テ被告等ニ於テ差金授受ノ目的ヲ以テ客ト取引ヲ爲シタルモノト斷シ得サルハ勿論ナリ殊ニ鈴木被告ハ社長トシテ商談ニ關シテハ何等應接セサルヲ以テ客カ如何ナル心持ヲ以テ賣買シタルカハ判ルヘキ筋合ニアラサルヲ以テ民事上ニ於テハ外交店員ノ行爲ニ付責任ヲ生スル場合アルモ具體的認識ヲ必要トスル刑事上ノ問題トシテハ其ノ責任ヲ負フヘキモノニアラサルナリ五、尙左記各關係被告及證人ノ供述證據ヲ綜合スルモ本件取引ハ現物取引ニシテ差金ノ授受ヲ目的トスルモノニアラサルコト明カ也(一) 被告人鈴木茂市ノ控訴審公判供述ニ於ケル「(問)會社ニ於テヤツテ居タ株式賣買ノ方法如何(答)客カラ賣ナリ買ナリノ注文カ來ルト會社トシテハ名古屋、大阪、東京ノ相場等ニヨラス時ノ相場ノ動キヲ見テ會社ノ見込ニ依ツテ極メテ會社獨特ノ相場ノ値ニヨツテ客ノ注文ニ應スル譯テ會社ノ相場ト客ト賣リ又ハ買ノ値ト合致シタ時客ニ對シ賣リマセウ又ハ買ヒマセウト云フコトニナ

常習賭博ト起訴ノ範圍 常習賭博ノ起訴ト賭博行爲ノ常習幫助  
シテ賭博行爲ニ非ストノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項 現物取引ニ  
能力 法人不處罰ノ原則ト取引所法違反賭博ノ法律適用 法人ノ犯罪



ツテ賣買カ成立シマス左様シテ客ニ對シテ其ノ賣買成立ノ通知書ヲ送リマス其處テ客買ノ場合ニ於テ現物ヲ渡ス方法トシテハ右左ニ現物ト金ヲ受渡スル場合又ハ荷爲替テ送り吳レト云フコトテ荷爲替附テ送ル場合カアリ尙會社ニ品物ノナイ場合ハ會社カ他カラ買付ケシ受渡スルモノテアリマス處テ客ノ中ニハ金ノ都合等テ受渡シセス其ノ儘放任シテ置クノカアリ會社トシテハ困ル譯テ會社ハ商談ノ成立シタ時三十日以内ニ受渡シテシテクレト云フ通知ヲシテ置キ其ノ期限近クニナルト受ケケレル様注意スルノテスカ先方ノ都合テ賣放シノ委託ヲスルコトモアリマス(問)客ノ賣ノ場合ハ怎ウスルカ(答)會社ト客トノ其ノ商談カ成リ立テハ賣レタト云フ通知ヲスル丈ケテアリマス(問)會社ニハ怎ノ程度現物カアツタカ(答)相當ノ數量持居リマシタ會社ハ客ト會社トノ賣買ハ取引員ノ方ニハ通サス賣買ノ全體ノ數カ出合ハ不足スルトキハ取引員ノ方ニ注文スルノテス(問)一株ノ準備モナイノニ賣ツタコトモアルカ(答)左様テス(問)夫レノ方カ多カツタノテハナイカ(答)店ニナイモノヲ賣買スル方カ數多クアリマシタカ之ハ必ス買付ケ出來ルモノニ限ツテ取引スルノテ會社ハ直クト取引員ノ方ヘ買付スルノテアリマス(ト)ノ供述(2)同上公判ニ於ケル(問)被告ノ店テ扱ツタ客ノ方テハ初メカラ現物ヲ引取ル意思ハナカッタノテハナイカ(答)私ノ方テハ判リマセヌ(問)初メカラ差金授受ノ目的テヤツテ居タノテハナイカ(答)客ノ意思ハ判リマセヌ此方ハ現物受渡ノ積リテヤリ居ルノテス(問)此ノ委任狀誓約書ナルモノヲ取ツテ居タノハ現物取引ヲ目的トシタモノタト表向キ見セル爲

カラテナイカ(答)左様テハナク客ニ對シ現物ノ受渡ヲシテクレネハ不可スト云フ注意ヲ促ス手段ニ取ツテ居タノテス(問)被告ハ豫審ニ於テ右様述ヘテ居ルカ如何(答)豫審第一回ノ時ニハ自分ノ思フ通り述ヘマシタスルト檢事カラ呼出シカアツテ檢事カ云ヒ張ルナラ君ノ處ノ後ニ殘ツテ居ル二、三十人ノ店員モ引張ルト云ハレマシタ當時私ハ自分一人丈ケタト思ヒ居タ處相被告等八人モ來テ居リ此ノ上外ノ者マテ引張ラレテハ氣ノ毒タト思ヒ後テ自分ノ云フコトノ聞イテ貰ヘルトコロテ辯解スレハ良イト思ヒ豫審テモ訊ネラレル通り認メ置イタノテス(ト)ノ供述(3)被告人鈴木茂市ノ第一審公判ニ於ケル(問)此ノ事件ニ付陳述スヘキコトアリヤ(答)株式現物ノ賣買ヲ爲シタノテアリマシテ差金ヲ目的トシテヤツタノテハアリマセヌ(問)同會社テハ現物ノ準備ヲ爲シテ置イタカ(答)澤山アル時ニハ三百株乃至五百株モアリ少ナイ時ニハ二、三十株シカナイ時モアリマシタカ出來得ル丈ケ一日ノ取引ニ要ル丈ケ備ヘル様ニシテ居リマシタ(ト)ノ供述(4)同上公判ニ於ケル(問)監査役ノ石川三郎ニ株券ヲ持タセテ客筋ニ廻ハラセタカ(答)左様テアリマス(問)幾何ノ株券ヲ持ツテ廻ハラセタカ(答)一種テ十枚位宛何種類モノ株ヲ持テ廻ハラセマシタ夫レハ主トシテ客ハ受渡ヲシテ吳レルカ否カノ意思ヲ確メル爲及受渡ノ督促ノ爲ニ廻ハラセタノテアリマス(第二審公判ニモ同様ノ供述アリ(5)被告人鈴木茂市ノ豫審第一回訊問調書中(問)此ノ事實ニ付陳述スヘキ事アリヤ此時被告人ニ對スル豫審請求書記載ノ本件犯罪事實ノ要旨ヲ告ケタリ(答)云々私共ハ決シテ最

常習賭博ト起訴ノ範圍 常習賭博ノ起訴ト賭博行為ノ常習幫助 現物取引ニシテ賭博行為ニ非ストノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項 法人ノ犯罪能力 法人不處罰ノ原則ト取引所法違反賭博ノ法律適用

初ヨリ單ニ差金ノ授受ノミヲ目的トシテ賣買ノ契約ヲ致シタモノテハアリマセヌ〔及〕(問) 證券取引ノ實際ニ付述ヘヨ(答) 本店へ直接若ハ支店ヲ通シテ客カラ注文ヲ受ケルト最初買注文ナラ赤色賣注文ノ時ハ青色ノ傳票ニ月日、種類、數量、賣買値段ヲ記入シ之ヲ營業部長ニ廻ハスト同部長ハ番號ヲ記入シ計算係へ廻ハシマス同課テハ客ニ賣買契約ノ成立ヲ知ラス爲賣買通知書(案内書)ヲ發シ臺帳へ其ノ旨ヲ記入シマスソシテ契約成立ト同時ニ客カラ誓約書ト委任狀ヲ貫ヒマス尤モ誓約書ノミハ取爲替ニナツテ居マス誓約書ニハ必ス期間内ニ現物ヲ以テ受渡ヲ完了スル旨カ書イテ有リマス委任狀ニハ受渡ノ際本人カ差支ノ場合ハ會社ノ何人カニ其ノ代理ヲ委任スル旨ヲ認メテ有マスソシテ豊橋市ノ現物組合ノ規定ニヨル一箇月ノ期間内ニ買注文ヲシタ客ニハ其ノ請求ニヨリ現物ヲ引渡シ賣注文ヲシタ客カラハ會社カ現物ヲ引取ツテ決済スルノカ原則トスカ實際斯クノ如キ方法ニヨリ決済サレルノハ總取引額ノ約二、三割位テ其ノ餘ハ全部前述ヘタ相場ノ變動ニヨル差金ノ受渡ニヨリ決済サレテ居マス即チ買注文ノ客ハ轉賣賣注文ノ客ハ買戻ノ形式ニヨリ手仕舞ヲナシ注文ノ時ノ相場ト手仕舞ノ時ノ相場ヲ比較シテ差金ヲ計算シ其ノ授受ニヨリ決済シテ居リマス(問) 客ノ注文ニ對スル準備如何(答) 會社テハ株式公債社債ニ屬スルモノナラハ如何ナル種類ヲ問ハス取扱ヒマスカラ各種ノ右種ノ有價證券ヲ全部揃ヘテ置ク様ニハ元ヨリ行キマセヌカラ多少ハ平素持合セテ居リ店ニナイ證券ノ買注文カアツタ場合ニハ名古屋株式取引所其ノ他へ注文シテ客ノ注文ニ應スル事ニシテ居マス尤モ買注文カアレハ必ス

ヤ一方ニ賣注文モアルノカ取引界ノ實狀テスカラ買注文カアツタカラト云フテ直ニ其ノ注文ヲ發スルトハ限ツテ居マセヌ(問) 被告等ハ多クノ場合單ニ差金ノ授受ノミヲ目的トシテコノ種ノ取引ヲシテ居ルノテハナイカ現ニ檢事ノ取調ニ對シテ被告人ハ斯様ニ申告シテ居ルカ如何(答) 私ハ前申スル如ク決シテ最初ヨリ左様ナ考ヘテ取引シタルモノテナク檢事聽取書及訊問調書ノ之ニ反スル記載ハ全ク私ノ眞意ニ反スルモノテアリマス成程結果カラ見ルト大部分ノ取引カ差金ノ授受ニ依ツテ決済サレテ居リマスカ之ハ初メヨリ其ノ目的テ賣買契約ヲシタモノテナク契約後客ノ希望ニヨツテ左様ナ取扱ヲ致シタモノテアリマス(ト) 供述記載(6) 被告人伊藤右一ノ控訴審公判ニ於ケル(問) 此ノ會社ノ取引ナルモノハ現物ヲ授受スル取引ハ極ク少ク多クハ一箇月ナル期間ヲ極メテ其ノ後ノ公定相場ノ高低ニ基キ轉賣又ハ買戻シノ形式ヲ以テ其ノ差金授受ニヨリ決済スルノテナイカ(答) 現物受渡ノ分カ總取引ノ二、三割テ後ハ其ノ後ノ相場ノ高低ニヨリ轉賣又ハ買戻シノ計算ヲ爲シ其ノ差金ヲ授受スルト云フ風テアリマシタ(問) 客カラ買ノ注文カアツテスク現株ヲ渡シタコトカアルカ(答) ソレハ毎月アリマス(中略)(問) 此會社ノ取引ハ初メカラ形式丈ケ賣買ノコトトシ後日ノ相場ヲ以テ轉賣又ハ買戻シノ形式テ手仕舞シノ差金授受ヲ目的トシテヤル取引テアツテ表向キ左様ナコトハ出來ヌノテ夫レヲ誤魔化ス爲右誓約書委任狀ヲ取ルノテナイカ(答) 左様テハアリマセヌ(中略)(問) 實際ハ會社ノ取引ナルモノハ差金授受カ目的テ現物取引ノ様ニ見セル爲委任狀誓約書ヲ取ツテ居タノテナイ

常習賭博ト起訴ノ範圍 常習賭博ノ起訴ト賭博行為ノ常習幫助 現物取引ニシテ賭博行為ニ非ストノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項 法人ノ犯罪能力 法人不處罰ノ原則ト取引所法違反賭博ノ法律適用

カ(答) 會社トシテハ何處迄モ現物ノ受渡シスルノカ目的テアリマス(問) 始メカラ差金授受テ決済スル客ト云フコトカ判ツテ居ルノテハナイカ(答) 客ノコト故此方カラ現物ヲ取ラヌカ嫌タトハ云ヘマセヌシ其ノ時其ノ客ノ意思ニヨルコトテ會社トシテハ判リマセヌ(問) 主トシテハ取引シテ置イテ其ノ後ノ相場ニヨリ轉賣又ハ買戻シノ形式ヲ取ツテ差金授受ニヨリ決済スル取引テアツタノテナイカ(答) 左様云フコトカ主テアレハ會社カ名古屋等へ手數料迄支拂ツテ買付ケル必要ハアリマセヌトノ供述(7) 被告人伊藤右一ノ第一審公判ニ於ケル(問) 客カ現物ノ受渡シヲ求メテクレハ現物ノ受渡ヲシテイタカ(答) 左様テアリマス(中略)(問) 差金ノミノ受渡シニヨル決済ヲ遂ケタ分ハ始メカラ客モ會社モ其ノ心算テ取引キシタノテハナイカ(答) 店ハ其ノ積リテ取引シタノテハアリマセン」及「豫審ノ供述ハ眞實ニアラサル旨」トノ供述(8) 被告人伊藤右一ノ豫審第一回訊問調書中「(問) 然ラハ此等ノ客トノ間ニハ常ニ必ス差金決済ヲ爲スヘキ旨ノ約定アリヤ(答) 特ニ左様ナ約束カ出來テ居ル譯テハアリマセヌ云々」トノ供述(9) 被告人水野甚一ノ控訴審公判ニ於ケル「(問) 此會社ノ取引ハ始メカラ形式丈ケ賣買ノコトニシテ後日ノ相場ニ基キ轉賣又ハ買戻ノ形式ニヨリ手仕舞ヒシ相場ノ高低ニヨル差金ヲ授受スル目的ヲ以テヤリ居タノテナイカ(答) 左様テハアリマセヌ」及「豫審ニ於ケル供述ハ保釋ニナル爲眞實ニアラサルコトヲ述ヘタル旨」ノ供述(10) 被告人水野甚一ノ第一審公判ニ於ケル「(問) 此事件ニ付陳述スヘキ事アリヤ(答) 私ハ只支店ノ成績カ

上リサヘスレハ良イト云フ事ヲ主眼ニ店ノ規定通りニヤツテ居タノテアリ鈴木茂市ト共謀シテ差金授受目的ノ取引ヲシテ居タノテハアリマセヌ(中略)(問) 取引客ノ多クハ始メカラ差金ノミノ受渡ニヨル決済ヲ目的トシテ注文シテ居ルト思ハナカツタカ(答) 左ウ云フ客カアツタカモ知レヌカ私ハ何方テモ兎ニ角商ヲ澤山スレハ手柄ノ様ニ思ツテヤツテ居リマシタ」トノ供述(11) 被告人水野甚一ノ豫審第一回訊問調書中「(問) 此事實ニ付陳述スヘキコトアリヤ(答) (前略) ツシテ斯様ニ現物ノ受渡ヲセス差金ノ授受ニヨリ決済スル場合カ多イノテスカ私トシテハ最初カラ左様ナ決済方法ニヨル取引ヲスル積リテナカツタノテアリマス」トノ供述(12) 被告人小田治作ノ控訴審公判ニ於ケル「(問) 豫審最終決定ニヨルト此方カラ訊ネル様ナ差金授受ヲ目的トシタ現物取引ノ様ニ見セカケタ賭博行爲ヲシ被告モ其ノ事情ヲ知ツテ之ニ關係シタト云フコトニナリ居ルカ如何(答) 左様ナ心持ハナク此方テハ實際現物受渡ノ意思テヤツテ居タモノテス」トノ供述(13) 被告人小田治作ノ第一審公判ニ於ケル「(問) 此事件ニ付陳述ヘスキコト有リヤ(答) 本店テハ現物賣買ト云フ事ニナルト云ハレタノテ安心シテ其ノ命令通りニヤツテ居タノテアリマス(中略)(問) 始メカラ其ノ目的テヤツテ居タノテナイカ(答) 私ハ本店ノ命令通りヤツテ居タノテアリマス」及「豫審ノ供述ハ豫審判事ノ判斷ニ任スト述ヘシモノカスル結果トナリタル旨」ノ供述(14) 被告人小田治作豫審第一回調書中「(問) 此事實ニ付陳述スヘキ事アリヤ(答) 事實ハ大體其ノ通り相違アリマセヌカ私ハ始メカラ全然現物ノ受渡ヲ

常習賭博ト起訴ノ範圍 常習賭博ノ起訴ト賭博行爲ノ常習幫助 現物取引ニシテ賭博行爲ニ非ストノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項 法人ノ犯罪能力 法人不處罰ノ原則ト取引所法違反賭博ノ法律適用

スル意思ハナカッタ譯テハナイ客ノ希望ニヨツテハ現物ノ受渡ヲスルツモリテアツタノテアリマス」  
 及「(問) 被告人等ハ單ニ差金ノ受渡ノミヲ目的トシテ取引シタルモノニアラスヤ(答) 現物ノ受渡  
 シカ總數ノ一割ニ過キスト云フ結果カラ見テ左様ナ認定ヲ受ケルノモ止ムヲ得ナイカト思ヒマスカ前  
 申シタ通りソレノミヲ目的トシテヤツタ譯テモアリマセヌ社長鈴木茂市カラモ始メ現物ノ受渡ヲスル  
 積リテアツテモ後ニ差金ノ受渡ヲスレハ差金取引ト云フ事ニナリ又差金ヲ目的トシテモ後ニ現物ノ  
 受渡ヲスレハ現物取引ト云フコトニナルノテ自分ノ店テハ客カ希望サヘスレハ現物ヲモ引渡スノタカ  
 ラ決シテ違反ニハナラヌト思フ故安心シテヤツテ吳レト申サレタ事カアリ私トシテモ客ノ多數カ差金  
 授受ニヨル決濟ヲ目的ニ注文スルモノト云フ事ハ心得テ居マシタ社長ノ云フ様ニ仕事サヘシテ居タ  
 ラ良イ積リテ左様ナ取引ヲシテ居タノテアリマス云々」トノ供述(15) 被告人堀部蔭三郎ノ控訴審公  
 判ニ於ケル「(問) 之ハ始メカラ形式丈ケ賣買ノコトニシ後日ノ相場ヲ以テ轉賣又ハ買戻ノ形式ニ  
 ヨリ手仕舞ニシ其ノ差金ヲ授受スルコトヲ目的トシタ取引テナカッタカ(答) 左様テハアリマセヌ」  
 及「豫審ノ供述ハ相違セル旨」ノ供述(16) 被告人堀部蔭三郎ノ第一審公判ニ於ケル「(問) 其ノ様  
 ナ取引方法ヲ差支ナイト思ツテ居タノカ(答) 支店長會議ノ際ニ社長カ委任狀ニ依ツテ受渡シヲシテ  
 置クノテアルカラ現物取引キト云フ事ニナルト云ハレタノテ私ハ現物賣テアルト思ツテ居リマシタ」  
 トノ供述(17) 被告人菅沼覺三郎ノ控訴審公判ニ於ケル「(問) 此取引ナルモノハ始メカラ形式丈ケ

賣買ノコトニシ後日ノ相場ヲ以テ轉賣又ハ買戻シノ形式ニヨリ手仕舞シ其ノ差金ヲ授受スルコトヲ目  
 的トシ爲シタ取引テナカッタカ(答) 結果ハ左様ニナリ居マスカ始メカラ差金ヲ目的トシタモノテハ  
 アリマセヌ」トノ供述(18) 被告人菅沼覺三郎ノ第一審公判ニ於ケル「(問) 此事件ニ付陳述スヘキ  
 コト有リヤ(答) 現物賣買ノ積リテヤツテ居タノテアリマス(中略)(問) 實際ニ現物ノ受渡シヲ爲サ  
 スニ取引スル事ニ法律ニ觸レルト云フ事ハ知り居タカ(答) 支店長會議ノ際ニ社長カ委任狀ニ依ツテ  
 受渡シヲシテ置ケハ違反ニハナラナイト説明サレタノテ私ハ違反ニハナラヌト思ツテ居マシタ(中  
 略)(問) 客ノ中ニハ最初ヨリ現物ノ受渡ヲ爲ス意思ハナクシテ注文スルト思ツタ客モアツタカ(答)  
 支店主任ニナツテ日カ淺カツタノテ永ク取引シタ方ハナカッタ爲サウ云フ事ハ氣付キマセヌテシタ」  
 トノ供述(19) 被告人石川三郎ノ控訴審公判ニ於ケル「(問) 被告ハ本店ノ方カラ實株ヲ持ツテ得意  
 先ヲ廻ツタコトカアルカ(答) 何回モアリマス(問) 夫レハ何ノ爲カ(答) 期限カ來テ居テ受渡セヌ  
 客ノ處丈ケ現株ヲ持ツテ受渡シテ貰フ爲ニ行キマシタ」及「(問) 會社ノ取引ナルモノハ始メカラ形式  
 丈ケノ賣買テ後日ノ相場ヲ以テ轉賣又ハ買戻シノ形式ニヨリ手仕舞シ其ノ差金ヲ授受スルコトヲ目的  
 トシタ取引テナカッタカ(答) 左様テハアリマセヌ」トノ供述(20) 被告人石川三郎ノ第一審公判ニ  
 於ケル「(問) 此事件ニ付キ陳述スヘキ事アリヤ(答) 前ノ被告人カ述ヘタ通りテ現物賣買ノ積リテヤ  
 ツテ居ツタノテアリマス(中略)(問) 實際ニ現物ノ受渡シヲ爲シタ取引ハ何程テアツタカ(答) 三割

常習賭博ト起訴ノ範圍 常習賭博ノ起訴ト賭博行為ノ常習幫助 現物取引ニ  
 シテ賭博行為ニ非ストノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項 法人ノ犯罪  
 能力 法人不處罰ノ原則ト取引所法違反賭博ノ法律適用

五分位テアリマシタ其ノ他ハ委任狀ニ依ツテ本店テ受渡シテ行ツテ吳レマシタ(中略)(問)幾回モ取引シテ何時モ現物ノ受渡ヲ爲サス決濟スル客ニ對シ其ノ客ハ現物受渡ノ意思ナクシテ取引スルノテアルト想像シナカッタカ(答)其ノ様ナ事迄ハ氣ヲ配リマセヌテシタ(問)被告人ハ社長ノ命令テ現物ヲ持ツテ客筋ヲ廻ツタコトカアツタカ(答)アリマシタ(中略)(問)取引客全部ヘ廻ツタノカ(答)殆ント廻ハリマシタ株券ヲ十株又ハ二十株持ツテ廻ハル時モ受渡シニ要スル全部ノ株ヲ持ツテ廻ツタ事モアリマシタ全部ノ株ヲ持ツテ行カヌ時ニハ受渡シヲサルナラ直クテモ電話ヲ掛ケテ本店カラ現物ヲ取寄セテ渡スト客ニ申シマシタトノ供述(21)被告人石川三郎ノ豫審第一回調書中(問)此事實ニ付陳述スヘキコトアリヤ(答)事實ハ夫ノ通り相違アリマセヌカ私共トシテハ最初カラ差金授受ノミヲ目的トシタ譯テハナク客カ希望スルノテ自然現物ノ受渡カ少クナリ差金授受カ多クナツタ次第テス而シ客カ希望サヘスレハ喜ンテ現物ノ受渡モシテ居ルノテアリマスカ現物受渡ヲスルノハ全取引數ノ約二割位ノモノカト思ヒマス及「現物ヲ携ヘテ客筋ヲ廻ハリタルコトアル旨」ノ供述(22)被告人石川完ノ控訴審公判ニ於ケル(問)此ノ取引ハ差金授受カ目的テ現物取引ノ様ニ見セル爲ノ形式ニトルノテハナイカ(答)左様テハアリマセヌ(中略)(問)此ノ會社ノ取引ハ始メカラ形式丈ケノ買買テ後日ノ相場ヲ以テ轉賣又ハ買戻シノ形式ニヨリ手仕舞シ其ノ差金ヲ授受スルノカ目的テ遣リ居ルノテナイカ(答)左様テハアリマセヌトノ供述(23)被告人石川完ノ第一審公判ニ於ケル(問)

此ノ事件ニ付陳述スヘキコトアリヤ(答)先刻來他ノ被告ノ者カ述ヘタ通り現物賣買ノ積リテヤツテ居タノテアリマス(中略)(問)大部分ノ取引ニ付キ現物ノ受渡ヲ爲サス差金授受ニヨツテ決濟シテ居テ良イモノト思ツテ居タノカ(答)多クノ客ハ現物ヲ持ツテ居リ會社モ現物ヲ用意シテ居テ引渡ノ請求カアレハ何時ニテモ渡セル事ニナツテ居タノテ其ノ事ハ深く考ヘテ居マセヌテシタトノ供述(24)被告人石川完ノ豫審第一回訊問調書中(問)此ノ事實ニ付陳述スヘキ事アリヤ(答)大體左様ナ事實カアツタ事ハ相違アリマセヌカ私共トシテハ全然初メカラ實株ノ受渡ヲスル意思カナカッタ譯テハナク客ノ希望ニヨツテハ實株ノ受渡ヲスル積リテアツタノミナラス社長鈴木茂市カ本店ノ方テ受渡ヲスルカラ安心シテヤレト云フタノト同人カ昭和二年五月一昨年十一月頃ノ二回今回ト同様ナ嫌疑ヲ檢舉サレナカラ二回共別ニ答カナカッタノテ別ニ差支カナイ事ト思ツテヤツテ居マシタ(中略)(問)然ラハ主トシテ差金決濟ヲ目的トシテ取引スルノテハナイカ(答)最初カラ差金ヲ目的テ注文スル客モアルトハ思ヒマスカ都合ニ依ツテハ客ハ初メノ目的ヲ捨テ實物ノ受渡ヲ希望スル場合モ之ト反對ノ場合モアリマスカラ客ノ腹ノ中ハ判然判リマセヌカ私ノ想像テハ約半數位ハ客ハ最初カラ差金ノ授受カ目的テ注文スルノテハナイカト思ハレマストノ供述(25)被告人吉川秋三郎ノ控訴審公判ニ於ケル(問)此ノ會社ノ取引ハ始メカラ形式ノ賣買テ後日ノ相場ヲ以テ轉賣又ハ買戻シノ形式ニヨリ手仕舞シ其ノ差金ヲ授受スルノカ目的ノ取引テナカッタカ(答)左様ナコトハアリマセヌ客トノ

常習賭博ト起訴ノ範圍 常習賭博ノ起訴ト賭博行為ノ常習幫助  
シテ賭博行為ニ非ストノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項 現物取引ニ  
能力 法人不處罰ノ原則ト取引所法違反賭博ノ法律適用 法人ノ犯罪

直接ノ交渉ハ外交員カヤルノテ事實ノコトハ判リマセヌカ自分ハ現物授受ノ目的ニヨル取引ト思ヒ居マシタトノ供述(26)被告人吉川秋三郎ノ第一審公判ニ於ケル「(問)此ノ事件ニ付陳述スヘキ事アリヤ(答)現物ヲ賣買スル積リテヤツテ居タノテアリマス夫レカ結果カラ差金目的ノ取引ノ様ニ視ラレルノテアリマス(中略)(問)同支店ノ取引中現物ノ受渡ヲシナカッタモノハ何程アツタカ(答)始メカラ差金目的テナク後テ現物ヲ受渡ス積リテ常ニ取引シテ居マシタカ後ニナルト實際ニ現物ヲ受渡ス客ハ意外ニ少ク委任狀ニ依ツテ受渡シタ分カ總取引ノ三割位アリマシタ(問)何時モ現物ノ受渡ヲ爲サヌ客ニ對シテハ此ノ度ノ注文ニ付テモ客ハ現物受渡ノ意思ハナイノテアルト氣付カナカッタカ(答)一度モ受渡シセヌ客カ受渡スル事モアリマスカラ始メカラ客ノ意思ヲ知ルコトハ出來マセヌテシタ何ノ取引ノ時モ一應ハ後ニ現物ヲ受渡ス積リテ私ハ取引致シテ居タノテアリマス」トノ供述(27)被告人吉川秋三郎ノ豫審第一回訊問調書中「(問)此ノ事實ニ付陳述スヘキコトアリヤ(答)大體左様ナ事實カアツタニハ相違アリマセヌ私ハ鈴木茂市ト共謀ノ上初メカラ差金授受ノミヲ目的トシテ營業シタ譯テハナク社長鈴木ノ命令ニ從ヒ其ノ下テ働テ居タニ過キヌノテ同人カ現物受渡ハ本社ノ方テシテ居ルト云フカラ夫レヲ信シテ遣ツテ居タノテアリマス(中略)(問)同營業所ニ於テ現物ノ受渡ヲナシタルコトアリヤ(答)營業所ノ取引客中今印板倉由太郎ハ取引數五十六回中七回今印粕谷定次郎ハ三十二回中四回今印板倉大作ハ三回中一回今印吉川治作ハ十二回中四回ヲ現物ノ受渡ヲシタル事ニ

御示ノ證第四十四號控簿ニ記載シテアリ平坂支所ノ取引客中今印ハ三回中一回現物ノ受渡ヲシタコトニ御示シノ證第四十六號手控簿ニ記シテアリ高濱支所ノ取引客中今印ハ八回中一回今印ハ三回中一回今印ハ一回ノ注文ヲ現物ヲ受渡シタ事ニ御示ノ證第四十五號手控簿ニ記シテ有リマスカラ之等ノ人達カ右ノ様ニ現物受渡ヲシタ事ハ相違アリマセヌカ云々」ノ供述(28)控訴審公判證人加藤康國ノ「(問)社長鈴木茂市ハ怎ウ云フコトヲシテ居タカ(答)商ノ方ニハ關係セヌ様テアリマシタ」及「(問)此ノ會社ノ取引ナルモノハ初メカラ現物ヲ授受スル考ハナク右様轉賣又ハ買戻シノ形式テ手仕舞シ差金ヲ授受スルノ目的ヲ以テ遣リ居タモノテナイカ(答)客ノ頭ニヨリ定マルコトヲ會社トシテハ左様ナコトヲ目的トシテ遣リ居タノテハアリマセヌ」トノ證言(29)控訴審公判證人遠藤隆一ノ「(問)證人ノ居ル店ト豊橋證券株式會社ト株ノ取引ノアツタコトカアルカ(答)アリマシタ(問)相當澤山ナ注文カアツタカ(答)左様テ賣リモ買モアリマシタ(問)實株ヲ送ツタ事カアルカ(答)澤山アリマス其ノ場合荷爲替付テ送リマシタ(問)昭和六年中怎ノ位ノ取引カアツタカ(答)私ノ店テハ一番ヨイ得意テアリマシタカ空テハ云ヘマセヌ辯護人ヨリ原審ヘ辯第二號ノ一、二トシ提出シタル書類ヲ示シ(問)之カ豊橋證券カラ證人ノ店ヘ注文カアツタ取引ノ調ヘタト云フ事ナルカ(答)相違アリマセヌ之ハ證人方ノ營業帳簿カラ寫シタモノテス」トノ證言(30)控訴審公判證人福田文之輔ノ「辯護人ヨリ原審ヘ辯第三號ノ一、二トシテ提出シタル書類ヲ示シ(問)之レカ證人方ノ店ト豊橋證

常習賭博ト起訴ノ範圍 常習賭博ノ起訴ト賭博行為ノ常習幫助 現物取引ニシテ賭博行為ニ非ストノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項 法人ノ犯罪能力 法人不處罰ノ原則ト取引所法違反賭博ノ法律適用

券トノ間ニ昭和六年中ニ取引シタルモノカ(答)左様テ之レハ證人ノ店カラ出シタモノテ營業帳簿ニヨリ作ツタモノテス」及ヒ「短期取引ニ於ケル取扱方法ニ關スル」證言(31)控訴審公判證人楠戸一ノ「辯護人ヨリ原審(第一審)提出ノ辯第四號ノ一、二ハ昭和六年中ノ證人店ト豐橋證券トノ取引ヲ記載シタルモノニシテ店ノ帳簿ニ作リタル旨」ノ證言(32)控訴審公判證人後藤誠三ノ「辯護人ヨリ原審提出ノ辯第五號ハ昭和六年中ノ證人店ト豐橋證券トノ取引ヲ記載シタルモノニシテ現物ヲ豐橋證券ニ送リタルコトアル旨」ノ證言(33)第一審公判證人高橋卓二ノ「(問)證人ハ鈴木茂市ヲ社長トスル云々豐橋證券株式會社ト取引シタ事カアルカ(答)アリマス(問)何時頃取引シタノカ(答)昭和四年頃カラ昭和六年頃ノ間ニ取引シタト思ヒマス(問)其ノ取引數量ハ何程カ(答)東新百株宛三回計三百株ヲ買入レコレヲ一度ニ賣渡シ又鐘新モ二百株ト百株ノ二回ニ買求メテ一度ニ賣リマシタ(問)證人ハ會社ノ方カラ勸誘サレテ取引シタノカソレトモ證人自身カラ買求メタノカ(答)私ノ方カラ自發的ニ買ヒニ行ツタノテアリマス(問)取引シタノハ現物ノ受渡シカ差金授受ノ方法ニヨルモノカ(答)全部現物テアリマス(問)怎ウシテ現物ヲ手ニ入レタカ(答)電話テ注文シテ置キマスト三日位ノ内ニ會社カラ持ツテ來テ吳レタ事モアリマスシ又ハ名古屋ノ方カラ銀行ヘ荷爲替付テ送ツテ來タ事モアリマシタ荷爲替付テ送ツテクルノモ矢張り注文カラ三日位過キタ後テアリマス」トノ證言(34)第一審公判證人杉浦新次郎ノ「(問)證人ハ豐橋證券株式會社ト取引シタ事カアルカ(答)私

ハ同會社新川支店ト取引シマシタ(問)何時頃何株ヲ何程取引シタカ(答)昭和四年十一月カラ昭和五年一月マテノ間ニ四回ニ互リ日清紡績三十株富士製絲株四十株淺野セメント株二十株ヲ取引シマシタ(問)ソレハ何レモ現物カ(答)左様テアリマス(問)此ノ外ニ現物ヲ受取ラス差金丈ケノ取引シタ事ハナイカ(答)アリマセヌ」トノ證言(35)第一審公判證人小田藤次ノ「(問)證人ハ豐橋證券株式會社ト取引シタカ(答)私ハ二、三年前ニ一度同會社三谷支店ト取引シテ居リマシタ(中略)(問)取引量ハ何程カ(答)日清紡ノ十株券テ現物ヲ買ヒニ店員ヲハシラセタノテアリマス(問)ソノ外ニハ取引ナイカ(答)アリマセヌ(問)店員ハ現物ヲ受取ツテ歸ツテ來タカ(答)店員ニ注文サセテカラ五、六日過キテ銀行ヘ荷爲替付テ送ツテ來タトノコトテ店員ニ又モ受取リニヤリマシタ」トノ證言(36)第一審公判ニ於ケル證人遠藤隆一ノ前記(29)ノ控訴審ニ於ケル證言ト同趣旨ノ證言(37)第一審公判證人板倉甚太郎ノ「(問)證人カ株式ノ取引ヲ爲スニ付最初先方カラ話ノアツタトキ先方カラ取引ノ方法ニ付現物トカ又ハ差金取引ヲ爲ストカ云フ話ハアツタカ(答)其ノ様ナ話ハアリマセヌ只取引シテ吳レト云フ話テアリマシタソシテ始メノ内ハ現物賣買ヲ爲シタノテアリマスカ其ノ後差金ノ賣買ニナツタノテアリマス(問)何故差金賣買ヲ爲ス様ニナツタカ(答)夫レハ私ノ方ノ金ノ都合テナツタノテアリマス(中略)(問)證人ハ注文ヲスルトキハ現物ヲ受取ル積リテシタノカ(答)左様テアリマス注文ノトキハ現物ヲ受取ル心算テアリマシタカ現物カ來テカラ金ノ都合テ差金取引ニナツタノ

常習賭博ト起訴ノ範圍 常習賭博ノ起訴ト賭博行為ノ常習幫助 現物取引ニシテ賭博行為ニ非ストノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項 法人ノ犯罪能力 法人不處罰ノ原則ト取引所法違反賭博ノ法律適用

テアリマス(中略)(問) 證人ノ方カラ現物ヲ請求シタトキ會社ノ方テ拒ンタ事カアツタカ(答) アリマセス」トノ證言(38) 第一審公判證人羽田孝一ノ「(問) 證人ハ豊橋證券株式會社ノ外交員ヲシテ居タカ(答) 左様昭和三年カラ昭和六年十一月頃マテ爲シテ居リマシタ(中略)(問) 最初カラ差金計算テ取引ヲスルト云フ客モアツタカ(答) 其ノ様ナコトハナカツタト思ヒマス客ノ方テハ初メカラ其ノ様ナ氣持テ取引スル者モアツタカモ判リマセヌカ注文スルトキ其ノ様ニ云フタ者カアリマセヌカラ知リマセヌ會社テ最初カラ其ノ様ニスル考ヘテ取引シタコトハアリマセヌ(問) 勸誘スルトキニ現物取引ニスルトカ又ハ差金計算ニヨル取引ヲナストカ云フタ事カアルカ(答) 必ス現物ヲ受渡ヲスルト云フテ取引シタノテアリマシテ差金計算取引ヲ爲スト云フタコトハアリマセヌ而シテ注文ヲ受ケタ客ニ對シ必ス現物ヲ受ケテ貰フ様ニ誓約書ヲ差入レマシタコトモアル様ニ記憶シテ居リマス(中略)(問) 豊橋證券會社ヨリ客ニ對シ實際受取方請求ヲ爲シタコトカアルカ(答) アリマス(問) 其ノトキ客カ受取ラナカツタトキニハ如何ニナシテ居タカ(答) ソノトキニハ他ハ實株ヲ賣ツテ差金計算ヲシタ事カアリマス」トノ證言然ルニ原判決ハ右事實及證據ヲ無視シテ被告人鈴木茂市ハ豊橋證券株式會社ノ社長伊藤右一ハ其ノ營業部長トシテ共謀ノ上最初ヨリ差金ノ授受ヲ目的トスル賭博取引ヲ爲シタルモノト判定シタルヲ以テ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノナリト云ヒ一第十一點原判決ハ前點同様ノ違法アルモノナリ原判決ハ前記第十點揭記援用判示ノ如ク被告人鈴木

木茂市 伊藤右一ハ共謀ノ上眞實株式授受ヲ爲スノ意思ナキニ拘ラス客ヨリ買又ハ賣ノ注文ヲ受ケ後日其ノ時ニ於ケル相場ニ依リ轉賣又ハ買戻ノ形式ニヨリ手仕舞ヲ爲シ其ノ相場ノ高低ニ基ク差金ノ授受ヲ爲スヘキ賭博ヲ別表(原判決別表)第一乃至第八記載ノ如ク爲シタル旨換言スレハ右被告人等ニ於テ差金授受ヲ目的トスル意思ヲ以テ取引ヲ爲シタル旨判示セラレタリ然レトモ被告人鈴木茂市ノ社長伊藤右一ノ營業部長タル豊橋證券株式會社ハ現物取引ヲ營業目的トシテ設立セラレタルハ勿論各被告人ノ供述其ノ他ノ各證據ニヨリ明ナル如ク現ニ全體ノ一、二割ハ結果ヨリ觀ルモ現物取引ヲ爲シ居ルノミナラス客ヨリ現物ノ受渡ヲ請求セラレテ拒絶シタルコトハ一回モ存在セサルモノナリ故ニ原判決別表第一乃至第八記載ノ取引ノ客ニ於テ差金授受ヲ目的トシテ取引シタルモノアリトスルモ會社トシテハ之ヲ知ルニ由ナク假リニ會社ノ其ノ局ニ當リタルモノニ於テ客カ差金授受ノ目的ヲ以テ取引スルモノナルコトヲ認識スルモ其ノ旨ヲ社長タル鈴木被告ニ報告シタル事實ナキノミナラス客ノ都合ニ依リ何時現物ヲ請求セラルルヤ測知シ難キモノナルヲ以テ會社トシテハ現物取引トシテ取扱ヒ現物ノ準備ヲナシ置クノ外ナク現ニ控訴審提出昭和九年五月十二日附追加上申書第三記載ノ如ク必要程度ノ現物ヲ準備シ居リタルモノナリ果シテ然ラハ本件ハ相手方タル客ニ於テ眞實株式授受ノ意思ナク差金授受ノ目的ヲ以テ取引シタルモノト爲スハ格別會社特ニ被告人等ニ於テ差金授受ノ目的意思ヲ以テ取引ヲ爲シタルモノト爲スコトヲ得サルモノナリ然ルニ原判決ハ右事實ノ眞相ヲ無視シテ被告鈴木茂市及

常習賭博ト起訴ノ範圍 常習賭博ノ起訴ト賭博行為ノ常習幫助 現物取引ニシテ賭博行為ニ非ストト主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項 法人ノ犯罪能力 法人不應罰ノ原則ト取引所法違反賭博ノ法律適用



ヒ伊藤右一ハ差金授受ノ目的意思ヲ以テ賭博ヲ爲シタルモノト認定シタルヲ以テ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノナリト云ヒ」第十二點原判決ハ賭博ノ性質ヲ誤解シ又ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノナリ原判決カ常習賭博ナリト認定シタル本件豊橋證券株式會社ノ株式取引ハ前記第十點及第十一點ニ於テ詳論シタル如ク其ノ相手方タル客ニ於テ眞實株式ノ受渡ヲ爲スノ意思ナク所謂差金ノ授受ヲ目的トシテ取引ヲ爲シタルモノナルモ被告等會社トシテハ其ノ注文ニ應シタルニ過キスシテ自ラ差金授受ヲ目的トシテ取引シタルモノニアラサルハ勿論假リニ客ノ意思ヲ認識シタリトスルモ尙且自ラ賭博ヲ爲シタルモノト爲スヘカラスアルモノナリ蓋シ賭博ハ偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戯又ハ賭事ヲ爲スコトヲ必要トスルヲ以テ自ラ相場ノ變動ニ依ル利得ヲ目的トシテ取引スル意思ヲ有セサレハ賭博ヲナシタルモノト稱シ得サルヲ以テナリ又右會社ハ東京大阪名古屋株式取引所短期取引相場ヲ參考トシテ會社獨特ノ相場ヲ作成シ現物取引トシテ營業セシモノナルヲ以テ客ノ賣又ハ買ノ申込ニ對シテハ之ヲ拒否スル自由ヲ有セス其ノ注文ニ應セサルヘカラサルモノナリ然レトモ賭博ハ偶然ノ事實ニ依リ利得ヲ得ントスル行爲ニシテ其ノ行爲ノ結果ニ依リ重大ナル影響ヲ受クルモノナルヲ以テ其ノ行爲者ニ於テ自由ニ行動シ得ルモノナラサルヘカラス相手方ノ依頼ニ依リ注文ニ應スルカ如キ本件取引ハ相手方ノ意思ニ依リ左右セラルルモノニシテ其ノ自由ヲ有セサルヲ以テ本來賭博ノ本質ニ反スルモノナリ故ニ本件株式取引ハ客ニ於テ

賭博ヲ爲シタルモノト爲スハ格別被告等會社ニ於テ賭博ヲ爲シタルモノト爲スコトヲ得サルモノ也然ルニ原判決ハ右事實ヲ無視シテ本件取引ヲ常習賭博ナリト判定シタルヲ以テ賭博ノ性質ヲ誤解シ又ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノナリト云ヒ」第十三點原判決ハ重大ナル事實ノ誤認及擬律錯誤ノ違法アルモノナリ原判決ハ第十點掲記判示ノ如ク被告人鈴木茂市ハ豊橋證券株式會社ノ社長同伊藤右一ハ同會社ノ營業部長トシテ客ノ注文ヲ受ケ株式ノ差金授受ヲ目的トスル賭博ヲ常習トシテ爲シタル旨判示シ之ニ對シ常習賭博罪ノ規定ヲ適用シタルモ其ノ注文客ハ之ヲ不問ニ附シタリ然レトモ右被告人等ハ豊橋證券株式會社ノ社長又ハ營業部長トシテ客ノ注文ヲ受ケタルニ止マルモノニシテ若シ客ノ注文ナカリセハ本件取引ハ存在セス賭博ノ問題起ラサリシモノナリ即チ客ノ差金授受ヲ目的トスル株式賣買ノ注文ナカリセハ被告人等會社ハ問題ナカリシモノニシテ其ノ射倖的觀念ハ客ニ於テ存在シ會社ハ其ノ注文ニ應シタルニ過キサルモノナリ故ニ假リニ會社ノ行爲カ賭博罪ヲ構成スルモノナリトスルモ其ノ主犯者ハ客ニシテ被告等會社ハ從タル關係ヲ有スルニ過キサルモノナルヲ以テ從犯ノ規定ヲ適用スヘキモノナリ然ルニ原判決ハ右事實ノ眞相ヲ無視シテ被告人等ニ對シテノミ常習賭博ヲ適用シタルヲ以テ重大ナル事實ノ誤認及擬律錯誤ノ違法アルモノナリト云ヒ」第十四點原判決ハ重大ナル事實ノ誤認及理由不備ノ違法アルモノナリ原判決ハ第十點掲記援用判示ノ如ク被告人鈴木茂市及伊藤右一ニ於テ本件株式ノ差金授受ヲ目的トスル賭博取引ヲ爲シタル旨判

常習賭博ト起訴ノ範圍 常習賭博ト起訴ト賭博行爲ノ常習幫助 現物取引ニシテ賭博行爲ニ非ストノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項 法人ノ犯罪能力 法人不處罰ノ原則ト取引所法違反賭博ノ法律適用

示シタリ然レトモ各關係者ノ供述其ノ他一件記録ニ依リ明ナル如ク本件株式ノ取引ハ豊橋證券株式會社ニ於テ爲シタルモノニシテ右被告人等個人トシテ爲シタルモノニアラサルヲ以テ右原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルモノナリ尤モ右被告人鈴木茂市ハ同會社ノ社長伊藤右一ハ營業部長ノ地位ニアルモ苟クモ法人トシテ別個獨立ノ人格ヲ有スル豊橋證券株式會社トシテ本件行爲ヲ爲シタル以上ハ其ノ行爲ハ法律上會社ノ行爲ニシテ右被告等ノ行爲トナルヘキモノニアラサルノミナラス假リニ右會社ノ行爲カ被告等ノ責任ニ歸スルモノナリトスルモ原判決ハ何等其ノ根據及理由ヲ明示セサルヲ以テ理由不備ノ違法アルモノナリト云ヒ」第十五點原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノナリ第十四點ニ於テ述ヘタル如ク原判決カ賭博ナリト認定シタル本件株式取引ハ豊橋證券株式會社ノ行爲ナルヲ以テ實際直接其ノ衝ニ當リタル者ハ格別單ニ社長トシテ其ノ事務ヲ統轄セル被告人鈴木茂市ニ於テ其ノ取引カ全部所謂差金授受ノ目的ヲ以テ注文セラレタルモノナルコトヲ認識セルコトハ事實不能ノコトナリ夫レモ會社ノ取引カ全部差金取引ノミナラハ或ハ抱括的ニ其ノ犯意アリト爲シ得ルモノ一件記録ニ依リ明ナル如ク少クとも取引ノ一、二割ハ實際現物取引ヲ爲シアルコト明ナル以上ハ本件取引ノ全部カ假リニ客ハ差金授受ノ目的意思ヲ以テ取引シタリトスルモ被告人鈴木茂市ニ於テ其ノ全部ニ付認識アリト爲スコトヲ得サルハ取引ノ實際ニ照シ條理上明瞭ナリトス然ルニ原判決ハ被告人鈴木茂市ハ本件取引ノ全部ニ付犯意アリト爲シタルヲ以テ重大ナル事實誤認ノ疑顯

著ナル事由アルモノナリト云フニ在レトモ

判示事實ハ原判決舉示ノ證據ニ依リテ之ヲ證明スルニ足リ記録ニ徵スルモ右事實ノ誤認ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナク右認定事實ニ依レハ被告鈴木茂市ハ豊橋證券株式會社取締役兼社長被告右一ハ同會社營業部長タルトコロ兩名共謀ノ上眞實株式授受ヲ爲スノ意思ナキニ拘ラス名ヲ株式現物買賣ニ藉リ東京、大阪、名古屋ノ各株式取引所主トシテ名古屋株式取引所短期清算市場ニ於ケル相場ヲ標準トシタル價格ニ依リテ東京株式取引所新株其ノ他ノ株式ニ付客ヨリ賣又ハ買ノ注文ヲ受ケ後日其ノ時ニ於ケル前同様ノ價格ニ依リテ轉賣又ハ買戻ノ形式ニ依リテ手仕舞ヲ爲シ右價格ノ高低ニ基キ計算ヲ爲シタル上其ノ差金ノ授受ヲ爲スヘキ賭博ヲ客タル山本一郎外數十名トノ間ニ千數百回ニ互リテ常習トシテ爲シタリト謂フニ在ルヲ以テ即チ被告鈴木茂市 伊藤右一ハ客ヲ相手トシテ賭博ヲ爲シタルモノニシテ其ノ所爲ノ常習賭博罪ヲ構成スルコト勿論ニシテ從犯ニ非サルコト言フ俟タス又現行法ノ下ニ於テハ法人ノ犯罪ヲ認ムルコトヲ許ササルヲ法理上ノ原則トスルノミナラス取引所法第三十二條ノ七ニ依レハ同法ノ罰則ハ法人ニ在リテハ同法違反ノ行爲ヲ爲シタル理事取締役等ニ之ヲ適用スヘキモノナルコト疑フ容レス然ルニ元來取引所ニ依ラスシテ取引所ノ相場ニ依リ差金ノ授受ヲ目的トスル行爲ハ同法第三十二條ノ五本文ニ該當スル賭博罪タルノ性質ヲ有シ唯其ノ常習ナル場合ニ於テ同條但書ニ依リ刑法第八十六條ニ照シテ處斷セラルルニ外ナラサルカ故ニ判示被告人等ノ常習賭博ニ付テモ法人

【要旨第四】

【要旨第五】

常習賭博ト起訴ノ範圍 常習賭博ノ起訴ト賭博行爲ノ常習幫助 現物取引ニシテ賭博行爲ニ非ストノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項 法人ノ犯罪ニシテ賭博行爲ノ原則ト取引所法違反賭博ノ法律適用 能力 法人不處罰ノ原則ト取引所法違反賭博ノ法律適用

ヲ處罰スヘキモノニ非スシテ當該行為者タル理事等ヲ刑法ニ依テ處罰スルノ法意歷然タリト云ハサルヘカラス而シテ原判決ニ於テハ判示賭博行為ニ付被告人等ヲ處罰スルニ付特ニ其ノ法律上ノ理由ヲ說明スルコトヲ要スルモノニ非サルカ故ニ原判決カ此ノ點ニ關シ説明ヲ爲ササリシトスルモ理由不備ノ違法アルコトナク其ノ他擬律錯誤又ハ賭博ノ性質ヲ誤解シタル等ノ違法アルコトナシ論旨孰レモ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事 樫田忠美 關與

○狩獵法違反被告事件(昭和九年(レ)第一〇九〇號  
同年十一月十七日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 北村 市松 辯護人 木村 得一  
外二名  
【第一審】 大津區裁判所 【第二審】 大津地方裁判所

○判示事項

明治三十三年滋賀縣令第十八號ノ律意

○判決要旨

明治三十三年滋賀縣令第十八號ノ銃獵禁止區域ニ於テ銃器ヲ使用シテ狩獵行為ヲ爲シタルトキハ縱令狩獵ノ目的物カ湖岸ニ棲息スル陸鳥ニ在リタルトキト雖同禁令ノ範圍外ナリト云フヲ得サルモノトス

【參照】 明治三十三年滋賀縣令第十八號 水禽保護ノ爲メ左ノ個所ニ於テ銃獵ヲナスコトヲ禁止ス

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

一 琵琶湖水面全部

但シ内湖江灣及琵琶湖ニ接續スル池沼ヲ除ク

一 蒲生郡島村大字沖島

一 東淺井郡竹生村字竹生島

一 犬上郡地先多景島

一 高島郡地先白石

狩獵法第十條 地方長官ハ危險豫防ノ爲其ノ他必要ト認ムルトキハ銃獵禁止區域ヲ設クルコトヲ得

同法第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ第十七

條ノ規定ニ違反シタル罪ハ占有者又ハ共同狩獵地ノ免許ヲ受ケタル者ノ告訴ヲ待

テ之ヲ論ス

(中略)

三 銃獵禁止區域ニ於テ銃獵ヲ爲シタル者

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人北村市松同北村芳松及同瀧村與吉ヲ各罰金二十圓ニ處ス被告人等ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル各期間

各被告人ヲ勞役場ニ留置ス訴訟費用ハ全部被告人等ノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人三名ハ孰レモ乙種三等狩獵免許ヲ受ケ居ル者ナルトコロ共謀ノ上昭和九年二月七日銃獵禁止區

域ナル滋賀縣高島郡海津村大字海津大崎地先外二個所ノ琵琶湖水面ヨリ湖岸ニ向ケ前後三回獵銃ヲ發

射シテ山鳥三羽ヲ捕獲シタルモノニシテ被告人等ノ右所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲ハ各狩獵法第十條第二十二條第三號明治三十三年滋賀縣令第十八號

刑法第六十條第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定罰金額範圍内ニ於テ各被告人ヲ夫々主文ノ如ク處

斷スヘク被告人等ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ金二圓ヲ一日ニ換

算シタル各期間各被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第二百三十八條

ニ依リ全部被告人三名ヲシテ連帶負擔セシムヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

各被告人辯護人木村得一上告趣意書第三點原審判決ハ法律ノ解釋ヲ誤リタル違法アリ原審ハ上告人等

ハ明治三十三年滋賀縣令第十八號ニヨリ滋賀縣知事ノ告示シタル銃獵禁止區域タル琵琶湖水面ノ舟中

ヨリ其ノ湖岸ニ向ツテ獵銃ヲ發射シ山鳥三羽ヲ捕獲シ因テ狩獵法違反行爲ヲナシタル者ナリト判示シ

タリ然レトモ前示銃獵禁止區域ハ風致ノ保存ト水禽ノ保護トヲ其ノ唯一ノ目的トシテ設定セラレタル銃獵禁止區域ニシテ多數存在スル危險防止ヲ目的トシテ設定セラレタルモノニ非ス即チ同縣令制定ノ趣旨ハ琵琶湖水面上ニ於テ乙種狩獵ニヨル水禽ノ捕獲ヲ禁止シテ水禽ノ安息場所トナシ以テ湖上ノ風致ヲ美化セムトスルニ外ナラスシテ水面ヨリ水面外ノ陸地ニアル陸鳥ヲ捕獲スルカ如キハ保護ノ目的ノ範圍外タルヤ明カナリ蓋シ滋賀縣ニ於テハ昭和三年ニ至リ該縣令一部ヲ修正シ内湖港灣ヲ除外シタリ之レ當初制定ノ趣旨ヲ明確ナラシメタルモノト解スヘキナリ然ルニ原審カ本縣令制定ノ趣旨ヲ沒却シテ上告人等ノ行爲ヲ以テ狩獵法違反ノ行爲ナリト斷シタルハ滋賀縣令第十八號ノ解釋ヲ誤リタル違法アリト云フニ在レトモ

所論滋賀縣令ニハ水禽保護ノ爲左ノ個所ニ於テ銃獵ヲ爲スコトヲ禁止ス(中略)一、琵琶湖水面全部但シ内湖江灣及琵琶湖ニ接續スル池沼ヲ除ク(後略)ト在リ之ニ從ヘハ本件ノ銃獵禁止區域ハ水禽保護ノ目的ヲ以テ設定セラレタルモノナルコト洵ニ所論ノ如クナルヘシ然レトモ縣令ニ所謂水禽ノ保護トハ所論ノ如ク單ニ湖上ニ於ケル水禽ノ捕獲ヲ禁止シテ其ノ保護ヲ爲スニ止マル意味ナルモノノ如ク解スルハ非ナリ蓋シ其ノ禁止區域ニ於テ銃器ヲ使用シテ狩獵行爲ヲ爲スコトハ法ノ禁止スルトコロナルノミナラス苟モ其ノ禁止區域ニ於テ銃獵ヲ爲スニ於テハ其ノ目的カ水禽ノ捕獲ニ在ルト否トヲ問ハス又湖岸ニ棲息スル陸鳥ノ射獲ニ存スルトヲ論セス均シク縣令ニ於テ保護ノ對象ト爲シタル湖上ニ於

【要旨】

ケル水禽ノ安息生育乃至湖上ノ風致美化等ニ害ヲ及ホスヘキコト勿論ニシテ法ハ此等ノ取締ノ爲ニ制定セラレタルモノナルコト辯ヲ須タサレハナリ然レハ原判決カ被告人ノ判示行爲ヲ狩獵法違反ニ問擬シタルハ固ヨリ正當ニシテ滋賀縣令等法律ノ解釋ヲ誤リタル違法アルコトナシ論旨採ルニ足ラス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事 樫田忠美 關與

○業務上過失傷害被告事件 (昭和九年(レ)第一二六八號 棄却)

(昭和九年(レ)第一二六八號 棄却)

【上告人】 被告人 關 福壽 辯護人 田上 宇平

【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京地方裁判所

○判示事項

自動車運轉手ノ業務上ノ注意義務ノ懈怠ト其ノ責任

自動車運轉手ノ業務上ノ注意義務ノ懈怠ト其ノ責任

○判決要旨

自動車運轉手カ前方ヲ注視セス且警音ヲ發セサル等其ノ他業務上ノ注意義務ヲ懈リタル以上ハ縱令被害者ニ不注意ノ點アリ且路面濕潤ノ爲急停車ノ處置ヲ講シタルモ自動車滑走シテ停車セサリシ事實アリトスルモ運轉手ハ其ノ過失ノ責ヲ免ルルモノニ非ス

【參照】 刑法第二百十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金六十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス訴訟費用ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ乙種自動車運轉手ニシテ大東京自動車株式會社ニ雇ハレ自動車運轉ノ業務ニ從事中昭和七年五月二十八日午後一時頃乗用自動車第一九五〇八號ヲ操縦シ東京市日本橋區人形町方面ヨリ同區九道橋方面ニ向ケ市内電車左側軌道外側線ヲ跨キ時速十二三哩ヲ以テ同區大傳馬町二丁目三十五番地先舖

裝道路ニ差蒐リタルカ自動車運轉手タルモノハ自動車ヲ運轉スルニ際リテハ絶エス進路ノ前方ヲ警戒シテ危害ノ發生ヲ未然ニ防止スル爲メ業務上周到ナル注意ヲ爲スヘク殊ニ若シ進路ノ前方ニ通行人アルカ如キ場合ニハ通行人カ自動車ノ突如トシテ迫ルニ遭遇スルトキハ之ヲ避クルニ暇ナキカ故ニ斯ル場合自動車運轉手タルモノハ濫リニ通行人ノ心理ヲ憶測シ苟モ其ノ舉止ヲ豫斷スルカ如キコトナク先ツ音響器ヲ鳴ラシテ警戒ヲ與ヘ尙通行人ノ舉止ヲ注視シ其ノ舉止ニ從ヒ或ハ速カニ適當ノ方向ニ避讓シ或ハ何時ニテモ有效ニ急停車又ハ方向轉換ヲ爲シ得ル程度ニ速度ヲ減スヘク特ニ濕潤セル道路路面ニ於テ急激ナル停車又ハ方向轉換ヲ爲スニ當リテハ車輪路面ヲ滑走シ急停車或ハ方向轉換ノ效ナキ虞アルカ故ニ然ラサル路面ニ於テヨリモ一層速度ヲ減スル等機宜ニ應シタル處置ニ出テ以テ危害ノ發生ヲ未然ニ防止スヘキ注意ヲ爲ス業務上ノ義務アルモノトス然ルニ被告人ハ之等ノ義務ヲ懈リ乗客ヲ物色スルコトニ專念シ居リタル爲メ其ノ進路ノ前方ヲ野崎光カ被告人ノ自動車ヲ運轉シ來ルヲ知ラスシテ傘ヲ翳シテ九道橋方面行市内電車ニ乗ル爲メ右手歩道ヨリ同方面行ノ市電小傳馬町停留所安全地帯ニ上ルヘク車道竝軌道ヲ越ヘテ橫斷歩行シツツアルヲ氣付カス漸ク僅カニ同人トノ距離右自動車進路ノ前方約十間ノ地點ニ近付キ始メテ同人カ軌道ヲ橫斷シ終リ左側軌道ヲ歩行シツツアルヲ發見シタルモ當時降雨アリテ路面濕潤ナリシニモ拘ラス僅カニ自動車ノ速度ヲ時速十哩内外ニ減シタルニ止マリ同人ニ警戒ヲ與フルコトナク其ノ儘運轉進行ヲ續ケ更ニ同人トノ距離約二間ニ迫ルニ及ヒテモ只管同人

自動車運轉手ノ業務上ノ注意義務ノ懈怠ト其ノ責任

カ軌道上ヨリ直接前記安全地帯ニ上ルモノト速断シタル爲メ或ハ音響器ヲ鳴ラシ或ハ直ニ有效ナル急停車又ハ方向轉換ヲ爲シ得ル程度ニ自動車ノ速度ヲ減スル等事故ノ突發ヲ防止スルニ十分ナル注意ヲ爲スコトナク前記安全地帯ノ左側ヲ通過スヘク稍左方ニ進路ヲ轉シタルトコロ同人モ亦少シモ警戒ヲ與ヘラレサリシ爲メ自動車ノ迫ルニ毫モ氣付カスシテ該安全地帯ニ上ルニ際シ直接軌道上ヨリセスシテ偶々人形町寄りノ一端左側隅ヨリ迂曲シテ之ニ上ラントシタルニ被告人ハ之ヲ目撃シテ同人カ該安全地帯ニ上ルニ非スシテ被告人ノ進路ナル左側車道ニ出ツルモノナリト濫リニ豫断シ同人ノ左側車道進出ヲ避ケントシテ右ニ方向ヲ轉シツツ急停車ノ處置ヲ講シタルニ同人カ被告人ノ豫断ト異リ右安全地帯人形町寄りノ一端左側隅ニ右足ヲ掛ケ而モ路面ハ前記ノ濕潤シ居リタルニヨリ自動車ハ極度ニ右ニ廻轉シツツ横様ニ滑走シタル爲メ同人ヲシテ避クルニ暇ナカラシメ遂ニ該安全地帯ノ人形町寄りノ一端左側ノ縁ト自動車ノ左側ステツブノ間ニ同人ノ左脚ヲ挟ミ因テ同人ノ左下腿筋肉ヲ轢断シ其ノ胛骨ヲ粉碎シ脛骨ヲ折リ三百餘日ノ入院加療ヲ要シタル重傷ヲ負ハシメタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百一十一條ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金六十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク當審ニ於テ生シタル訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

## ○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

## ○理 由

辯護人田上宇平上告趣意書第一點原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリ原判決ハ被害者野崎光ノ進路及被告人カ採リタル措置ニ付事實ノ認定ニ重大ナル誤アルモノナリ即被害者野崎光ハ小傳馬町ノ判示安全地帯ニ至ルヘク人形町寄りノ電車軌道ノ左側内側ヲ進ミ該安全地帯ノ右角(人形町寄り)ヨリ上ラスシテ隅々左隅ヨリ上ラントシタルヲ云々ト認定シ被害者カ左側角ニ右足ヲ掛ケ安全地帯ニ上ラントシタル際云々ト認メタルモ判示自動車ト安全地帯ト距離ハ三四尺アリ被害者野崎ハ自動車ノ下部ニ在リ(原審第四回公判調書深田善作ノ證言同第八回公判調書山崎政治ノ證言)テ判示事實ノ如ク被害者カ該安全地帯ニ上ラントスル瞬間ナラハ必スヤ被害者ハ安全地帯ノ上カ或ハ車道内カ若クハ軌道上ニ顛倒スヘキモノナラサルヘカラサルモノトス更ニ右自動車ノ左側ステツブト該安全地帯ト激突シタリトセハ剛體ト剛體トノ衝突ナルヲ以テ三、四尺モ距離ノ生スヘキコトナク且自動車ノステツブハ極メテ薄キ鐵板ヲ以テ製セラレタル物ナルヲ以テ之ト「レール」ヲ曲ケテ「コンクリート」ノ外廊上部ニ冠セアル安全地帯トノ衝突ハ自動車ノ「ステツブ」ハ破損シテ安全地帯ニ密著スヘキハ物理上當然ノコトナリ故ニ被害者ノトリタル「コース」ハ電車軌道ノ左側内

自動車運轉手ノ業務上ノ注意義務ノ懈怠ト其ノ責任

側ヲ安全地帯ニ進ミ安全地帯ノ手前(人形町寄りニ向ヒ)二間餘ノ處ニテ急速左側車道ヲ横切ラントセルモノナルコト事實ノ真相ナルヘク(記録第十五丁司法警察官聽取書野崎光ノ調書)判示認定ノ事實ハ誤認ナルモノナリ仍被告人カ自動車運轉手タル注意ヲ缺キ被害者ノ舉措進退ヲ豫斷シ運轉方法ヲ誤リタルモノナリト認定スルモ被告人ハ判示安全地帯ヨリ人形町寄り約二十六間餘ノ前方ニ被害者野崎ヲ認メ(被害者トノ距離約十八間半自動車ノ速力ハ時速十二三哩ニテ進行シ「ラツバ」ヲ鳴ラシ以テ警告ヲ與ヘ同人トノ距離十間餘ニ至リ十哩餘ニ減シ且自動車ノ把手ヲ右ニ切り車道中央ヲ通行シ被害者カ數次ノ警告ニモ不拘依然左軌道内側ヲ安全地帯ニ向ヒ進ムヲ以テ同人カ其ノママ安全地帯ニ上ルモノナリト稽ヘ進行ヲ續ケタルニ安全地帯ノ手前二間餘ノ所ニ於テ同人カ突如左ヘ廻リ車道ヲ横斷セントシタルニヨリ急停車ノ措置ヲトリ且左ハ人道ナルヲ以テ右ニ電車軌道ノ方ニ避止セントシタルニ判示事實ノ如キ路面ノ爲本件事故發生セルモノ右ノ事實ハ被告人訊問調書(記録第八丁乃至第四丁)被告人訊問調書(第一審公判各調書原審第一回第二回公判各調書)檢證調書ニ依リ明瞭ナルコトナリ且被告人カ自動車ノ速力ヲ調整セルハ證人山崎政治ノ證言(原審第八回公判調書證人山崎政治訊問調書記録第百八十二丁)ニ依ルモ明ナリ殊ニ原判決ハ被告人カ被害者ノ進路ヲ濫リニ豫斷シ云々ト認定セルモ被告人ハ被害者ノ行動ヲ稽ヘ安全地帯ニ上ルモノト確信シテ進行シタルモノニシテ急轉向急停車ノ措置ハ寔ニ時機ニ適シタル處置ナリ然ラハ被告人ニハ過失ノ責ムヘキモノナク萬全ノ策ヲ

講セル被告人ノ所爲寔ニ然リトイフヘク自動車カ路面ノ情況ニ依リ轉向シタリトスルモ之ノ不可抗力ニ基因スルモノニシテ被告ノ行爲ニ基クモノニアラサルナリ故ニ原審カ判示ノ如ク認定シタルハ重大ナル事實誤認ノ疑フニ足ルヘキ事由アリト云ヒ」第二點原判決ハ審理不盡ノ違法アルモノトス即チ實體的ニ眞實發見ヲ爲スヘキハ之我刑事訴訟法ノ原則ナルニ原審ハ時間空間ヲ輕視シ犯罪事實ノ真相ニ觸レサル恨アリ何トナレハ被告人ノ行爲ハ相當ノ理由アルモノナルニ被告人カ急停車ノ處置ヲトリタル地點ト安全地帯トノ間隔安全地帯ト自動車トノ間隔被害者ノ自動車及安全地帯トノ關係位置ニ對シ之ヲ考慮スル所ナク被害者カ安全地帯ニ右足ヲ懸ケタル所ニ衝突セルモノナリト認定セル等ハ事實ノ真相ニ相去ル遠キモノアリ右ノ事實關係ノ詳細ハ第一點記載ノ事實關係ヲ援用ス故ニ原審判決ハ事ノ眞實ヲ極メサル點アリ審理不盡ノ違法アルモノナリト云フニ在レトモ

## 【要旨】

原判決ノ認定シタル事實ニ依レハ被告ハ前方注視ノ義務ヲ怠リ乗客ヲ物色スルコトニ專念シ其ノ運轉セル自動車進路ノ前方ヲ野崎光カ歩行セルニ氣付カス漸ク同人トノ距離自動車進路ノ前方約十間ノ地點ニ近ツキ始メテ同人カ左側軌道ヲ歩行シツツアルヲ發見シ而モ自動車ノ速度ヲ時速十哩内外ニ減シタルニ止マリ同人ニ警戒ヲ與フルコトナク其ノ儘運轉ヲ繼續シ結局安全地帯ノ縁ト自動車左側ステツプトノ間ニ同人ノ左脚ヲ挟ミ因テ同人ニ重傷ヲ負ハシメタリト謂フニ在ルヲ以テ被告ハ自動車運轉手トシテノ業務上ノ注意義務ヲ懈リタルコト明カニシテ縱令被害者ニ不注意ノ點アリ且當日雨天ニシテ



路面濕潤シ被告カ急停車ノ處置ヲ講シタルモ自動車滑走シテ停車セザリシ事實アリトスルモ爲ニ被告ハ其ノ過失ノ責ヲ免ルルヲ得サルモノトス而シテ判示事實ハ原判決舉示ノ證據ニ依リ之ヲ證明スルニ足リ記録ヲ查スルニ右事實ノ誤認ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナク被告ニ過失アリタルコトハ原判示ニ於テ明白ナルヲ以テ原審ニ審理不盡ノ違法アリト謂フヘカラス論旨孰レモ理由ナシ  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事 櫻田忠美 關與

○業務上横領被告事件

(昭和九年(れ)第一二七〇號 棄却)  
同年十一月二十二日第一刑事部判決

【被告人】 被告人 光本英一 辯護人 西村美樹

【第一審】 四日市區裁判所 【第二審】 安濃津地方裁判所

○判示事項

業務上横領罪ノ構成

○判決要旨

顧客ノ依頼ニ依リ取引員ニ對スル株式短期取引委託ノ取次ヲ爲スヲ業トスル者カ顧客ヨリ右ノ取次方依頼ヲ受ケテ取引員ニ交付スヘキ證據金又ハ證據金代用トシテ現金又ハ有價證券ヲ受取り占有中ノヲ擅ニ取引員ニ對スル自己ノ爲ノ株式短期取引委託ノ證據金又ハ證據金代用トシテ流用シタルトキハ業務上横領罪ヲ構成ス

【參照】 刑法第二百五十三條 業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役五月ニ處ス但第一審ニ於ケル未決勾留日數中二十日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ  
被告人ハ四日市市北濱田ニ於テ株式現物賣買業ヲ營ミ兼ネテ顧客ノ依頼ニ依リ名古屋株式取引所短期取引員水谷慶之助又ハ同取引所一般取引員神谷吾一郎ニ對スル株式短期取引委託ノ取引ヲモ業トシ居リタル處犯意ヲ繼續シ

第一、昭和六年八月ヨリ昭和七年七月ニ至ル迄ノ間顧客桂山五一郎ヨリ株式短期取引委託ノ取次方依頼ヲ受ケ取引員ニ交付スヘキ證據金代用トシテ昭和六年八月五日株式會社三重縣農工銀行債券額面金百圓券二枚同月七日同銀行債券額面金百圓券二枚同年十月十四日富士製紙株式會社株券五十株ヲ各受取リ業務上占有中各其ノ頃擅ニ之ヲ名古屋市中區南伊勢町前記水谷慶之助方ニ於テ同人ニ對スル被告人ノ爲ノ株式短期取引委託ノ證據金代用トシテ差入レ

第二、昭和六年八月ヨリ昭和七年五月ニ至ル迄ノ間顧客清水甚三ヨリ株式短期取引委託ノ取次方依頼ヲ受ケ取引員ニ交付スヘキ證據金代用トシテ昭和七年二月、三月中樺太工業株式會社株券十株ヲ受取リ業務上占有中前同様其ノ頃擅ニ之ヲ前記水谷慶之助方ニ於テ同人ニ對スル被告人ノ爲ノ株式短期取引委託ノ證據金代用トシテ差入レ

第三、昭和六年九月ヨリ昭和七年五月ニ至ル迄ノ間顧客光本増次郎ヨリ株式短期取引委託ノ取次方依頼ヲ受ケ取引員ニ交付スヘキ證據金代用トシテ昭和六年十二月中富士製紙株式會社新株券五十株ヲ受取リ業務上占有中前同様其ノ頃擅ニ之ヲ前記水谷慶之助方ニ於テ同人ニ對スル被告人ノ爲メ株式短期取引委託ノ證據金代用トシテ差入レ

第四、昭和六年十二月ヨリ昭和八年一月ニ至ル迄ノ間顧客平田一治郎ヨリ株式短期取引委託ノ取次方依頼ヲ受ケ取引員ニ對シテ交付スヘキ證據金代用トシテ昭和七年五月二十五日東洋紡績株式會社新

株券十株東邦電力株式會社舊株券二十株ヲ受取リ業務上占有中前同様其ノ頃擅ニ之ヲ前記水谷慶之助方ニ於テ同人ニ對スル被告人ノ爲ノ株式短期取引委託ノ證據金代用トシテ差入レ

第五、昭和七年一月ヨリ同年十二月ニ至ル迄ノ間顧客田邊増次郎ヨリ株式短期取引委託ノ取次方依頼ヲ受ケ取引員ニ交付スヘキ證據金代用トシテ昭和七年二月二十日東邦電力株式會社株券十株同年三月十七日大同電力株式會社株券十株同年十一月二十八日大同電力株式會社株券五十株ヲ各受取リ業務上占有中前同様各其ノ頃擅ニ之ヲ前記水谷慶之助方ニ於テ同人ニ對スル被告人ノ爲ノ株式短期取引委託ノ證據金代用トシテ差入レ

第六、昭和七年十二月ヨリ昭和八年八月ニ至ル迄ノ間顧客高井太一ヨリ株式短期取引委託ノ取次方依頼ヲ受ケ取引員ニ交付スヘキ證據金代用トシテ昭和七年十二月八日株式會社三重縣農工銀行株券二十株昭和八年三月中南滿洲鐵道株式會社株券二十株ヲ各受取リ業務上占有中前同様各其ノ頃擅ニ之ヲ前記水谷慶之助方ニ於テ被告人ノ爲ノ株式短期取引委託ノ證據金代用トシテ差入レ

第七、昭和八年五月ヨリ同年八月ニ至ル迄ノ間顧客大橋彦内ヨリ株式短期取引委託ノ取次方依頼ヲ受ケ取引員ニ交付スヘキ證據金トシテ同年七月十八日金二百圓同年八月一日金百六十圓ヲ各受取リ業務上占有中前同様各其ノ頃擅ニ之ヲ前記水谷慶之助方ニ於テ同人ニ對スル被告人ノ爲ノ株式短期取引委託ノ證據金トシテ差入レ

第八、昭和八年七月ヨリ同年九月ニ至ル迄ノ間顧客伊藤常吉ヨリ株式短期取引委託ノ取次方依頼ヲ受ケ取引員ニ交付スヘキ證據金トシテ同年七月十一日金三百圓同月十五日金二百圓ヲ各受取リ業務上占有中前同様各其ノ頃擅ニ之ヲ名古屋市中區南伊勢町前記神谷吾一郎方ニ於テ同人ニ對スル被告人ノ爲ノ株式短期取引委託ノ證據金トシテ差入レ

第九、昭和八年八月ヨリ同年十二月ニ至ル迄ノ間顧客石田兵吉ヨリ株式短期取引委託ノ取次方依頼ヲ受ケ取引員ニ交付スヘキ證據金トシテ同年八月十八日金百圓同年九月二十九日金百圓同年十月中金四十圓ヲ各受取リ業務上占有中前同様各其ノ頃擅ニ之ヲ前記神谷吾一郎方ニ於テ同人ニ對スル被告人ノ爲ノ株式短期取引委託ノ證據金トシテ差入レ

以テ各之ヲ横領シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第二百五十三條第五十五條ニ該當スルヲ以テ所定ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役五月ニ處シ尙同法第二十一條ニ依リ原審ニ於ケル未決勾留日數中二十日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人西村美樹上告趣意書第一點原判決ハ本件ニ付業務上横領ノ判定ヲ爲セリト雖被告カ委託者ノ證據金ヲ自己名義ニテ取引員ニ送付シタルハ總テ委託主カ被告名義ニテ取引員ニ註文セラレアリシ爲ニシテ決シテ被告カ他人ノ證據金ヲ恣ニ横領ノ趣旨ニテ委託セルコトヲ物語ルモノニアラスシテ此點ヨリセハ原審ハ先ツ第一ニ代替物タル證據金並代用證券交付ノ趣旨カ所謂消費寄託の意味ナリシヤ否ヤヲ審究シ此寄託ノ性質ノ點ヨリ横領罪ノ成立ヲ否定セサル可ラサルニ不拘事茲ニ出テサリシ誤謬アルモノト言ハサル可ラスト云フニ在レトモ

【要旨】

原判決ニ依レハ顧客ノ依頼ニ依リ取引員ニ對スル株式短期取引委託ノ取次ヲ爲スヲ業トセル被告人カ原判示第一乃至第九ノ如ク顧客ヨリ株式短期取引委託ノ取次方依頼ヲ受ケ其ノ取引員ニ交付スヘキ證據金又ハ證據金代用トシテ現金又ハ有價證券ヲ受取リ業務上占有中ノ擅ニ取引員ニ對スル被告人ノ爲ノ株式短期取引委託ノ證據金又ハ證據金代用トシテ差入レ横領シタリト云フニ在ルコト明ニシテ是レ畢竟被告人ハ顧客ヨリ其ノ名義ヲ以テスル株式短期取引委託ノ取次ヲ依頼セラレ其ノ取引ノ證據金又ハ證據金代用トシテ現金又ハ有價證券ヲ受取リタルニ拘ラス其ノ委託ノ趣旨ニ背キ之ヲ被告人自身ノ爲ノ株式短期取引委託ノ證據金又ハ證據金代用トシテ取引員ニ差入レタルモノニ外ナラス被告人ハ表面取引委託者名義ト爲リシモ其ノ實客ノ取引ノ爲ニスル意思ニ出テタルモノナレハ横領ノ犯意存セストノ所論ハ原判決ノ認定ニ副ハサル主張ナリトス而シテ敍上原判示事實ハ原判決ノ舉示セル證據ニ

依リテ優ニ之ヲ證明スルニ足り刑法第二百五十三條第五十五條ノ業務上横領罪ヲ構成スルコト明白ナリ論旨理由ナシ又使途ノ定マレル金錢又ハ有價證券ノ寄託アリタル場合ニハ其ノ所定ノ使途ニ使用セラルル迄ハ此等ノ所有權ハ猶寄託者ニ保留セラルルモノト解スヘク之ヲ受寄者カ所定ノ使途以外ニ使用スルニ於テハ横領罪ヲ構成スルモノト謂ハサルヘカラス所論ハ畢竟原審ノ採用セサル證據ニ基キ又ハ原審ト相容レサル獨自ノ見解ニ立脚シテ原審ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨判斷延イテ事實ノ認定ヲ非難スルニ外ナラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事 榎田忠美 關與

○阿片法違反被告事件

(昭和九年(九)第一二七二號 棄却)  
(同年十一月二十二日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 吉田 清 辯護人 龜山 要

【第一審】 函館區裁判所 【第二審】 函館地方裁判所

○判示事項

生阿片ト阿片法第三條第二項

○判決要旨

阿片法第三條第二項ニ所謂阿片ニハ生阿片ヲモ包含ス

【參照】 阿片法第三條 阿片ハ政府ニ於テ醫藥用品及製藥用品ニ限リ封緘ヲ施シ之ヲ賣下ケ又ハ交付スルモノトス  
 阿片ハ政府ノ賣下ケタルモノ又ハ交付シタルモノニ非サレハ之ヲ賣買授受所有又ハ所持スルコトヲ得ス

生阿片ト阿片法第三條第二項

同法第九條 第三條第二項又ハ第三條ノ二ニ違背シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス  
阿片ヲ輸入シタル者ノ罰前項ニ同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役四月ニ處ス但シ未決勾留日數中四十日ヲ右本刑ニ算入ス押收ニ係ル阿片(證第一號)ハ之ヲ沒收スル旨ノ判決ヲ爲シタリ  
被告人ハ犯意繼續シテ

- 一、昭和九年一月十日頃函館市東雲町電車停留場附近路上ニ於テ渡邊清ヨリ阿片ノ賣却方ノ周旋ヲ依頼セラレ之カ見本トシテ政府ノ賣下ケ又ハ交付シタルモノニ非サル阿片約二匁ノ交付ヲ受ケ
- 二、同月十四日頃同市各地頭町七十五番地伊藤勇方ニ於テ三田映熙ニ對シ阿片ノ賣却方ヲ託シ之カ見本トシテ前記阿片約二匁ヲ交付シ
- 三、同月二十日前記伊藤勇方ニ於テ右三田ヨリ返還セラレタル前記阿片ノ中約一匁ヲ前同様見本トシテ伊藤勇ニ交付シ
- 四、同月三十日他ニ賣却スル爲同市相生町七十一番地西田某方ニ於テ前記渡邊清ヨリ政府ノ賣下ケ又ハ交付シタルモノニ非サル阿片約一貫六百匁ヲ受取り所持シ

タルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ阿片法第三條第二項第九條第一項刑法第五十五條ニ該當スルヲ以テ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役四月ニ處シ刑法第二十一條ニ則リ未決勾留日數中四十日ヲ右本刑ニ算入シ押收ニ係ル阿片(證第一號)ハ被告人カ阿片法第三條第二項ニ違背シテ所持スルモノナルヲ以テ同法第十條ニ依リ之ヲ沒收スヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人龜山要上告趣意書第一點ハ本件被告カ或目的ノ爲授受シ又所持シタル阿片ハ援用ノ證據(四)ニ依リテ推斷スレハ生阿片ナルコト明カナリ而シテ阿片法第三條第一、二項ノ阿片中ニハ所謂生阿片ヲ包含セサルモノトス其ノ理由ハ生阿片ハ醫藥用品ニ非ス又必スシモ製藥用品ニ非スト信ス故ニ生阿片カ阿片法ノ阿片中ニ包含スル旨判定スルニハ該生阿片ハ特ニ製藥用品タルコトヲ認定セサルヘカラス然ルニ斯カル認定ヲ爲サス漫然生阿片ヲ以テ製藥用品阿片ナリト看做シ之ニ阿片法第三條第二項ヲ適用シタル原判決ハ擬律錯誤理由不備ノ判決ナリト信スト云フニアレトモ

【要旨】

阿片法第三條第二項ニ所謂阿片トハ醫藥用品又ハ製藥用品ニ限ラス生阿片ヲモ包含スルモノト解釋ス

ヘキモノナルヲ以テ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事松坂廣政關與

○證憑湮滅教唆被告事件(昭和九年(九)第一一六四號 棄却)  
(同年十一月二十六日第一刑事部判決)

【上告人】 岡山地方裁判所檢事正 辯護人  
(赤松龜雄 登藏雄)  
【第一審】 岡山區裁判所 【第二審】 岡山地方裁判所

○判示事項

親族カ犯人ノ利益ノ爲ニ犯シタル證憑湮滅ト其ノ教唆又ハ間接正犯

○判決要旨

犯人ノ親族ヲ示唆僥倖シテ犯人ノ利益ノ爲ニ犯罪ノ證憑ヲ湮滅セシムルモ證憑湮滅罪ノ教唆犯又ハ間接正犯ヲ構成セサルモノトス

【參照】 刑法第四百四條 他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ偽造變造シ若クハ偽造、變造ノ證憑ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス  
同法第一百五條 本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲ニ犯シタルトキハ之ヲ罰セス

○事實

本件公訴事實ハ

被告人カ昭和九年六月九日其ノ知人タル岡山市上出石町檜原富次郎カ其ノ主宰スル和同講ナル日掛講ノ講金ヲ著服横領シタル事件ニ付岡山地方裁判所檢事局ニ於テ事件捜査中ナルコトヲ知悉シナカラ同入ヲ庇護スル目的ヲ以テ同市弓之町ナル被告人居宅ヨリ電話ヲ以テ前記富次郎ノ妻女光子事檜原仲ねニ對シ何時家宅搜索アルヤモ圖ラレサルニヨリ事件ニ不利ナル日記帳受取書等ヲ滅失シ置クヘキ様申告ケテ同入ヲ教唆シ因テ右仲ねヲシテ即日右事件ノ證憑トナルヘキ日記帳家計簿各約三冊受取書約二百枚ヲ自宅風呂竈ニ於テ燒却セシメタリ

ト云フニ在リテ第二審ハ證據ニ依リ左記理由中ニ記載スル如ク事實ノ認定ヲ爲シ正犯ノ所爲カ罪ト爲

親族カ犯人ノ利益ノ爲ニ犯シタル證憑湮滅ト其ノ教唆又ハ間接正犯

ラサル結果教唆犯ノ成立スヘキ餘地ナキモノトシテ被告人ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲シタリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

原審岡山地方裁判所檢察正植田三郎上告趣意書原判決ハ被告人淳一カ昭和九年六月九日午前八時頃其ノ知人ナル岡山市上出石町檜原富次郎カ其ノ主宰スル和同講ナル日掛講ノ講金ヲ著服横領シタル事件ニ付岡山地方裁判所檢察局ニ於テ事件捜査中ナルコトヲ知悉シナカラ同人ヲ庇護スル目的ヲ以テ同市弓之町ナル被告人居室ヨリ電話ヲ以テ前記富次郎ノ妻女光子事檜原侍ねニ對シ何時家宅搜索アルヤモ圖ラレサルニヨリ事件ニ不利ナル日記帳受取書等ヲ滅失シ置クヘキ様申告ケ因テ右侍ねヲシテ即日右事件ノ證憑トナルヘキ日記帳家計簿各三冊及受取書約二百枚ヲ前記富次郎方風呂竈ニ於テ燒却セシメタル事實ニ付被告人ノ右所爲ヲ前示侍ねニ對スル證憑湮滅ノ教唆ナリト認定シ前示侍ねノ所爲ハ刑法第百五條ニ依リ第百四條ノ證憑湮滅罪ヲ構成セサルヲ以テ之ヲ教唆シタル被告人ノ前示所爲ハ其ノ教唆犯トシテ成立スヘキ餘地ナシトノ理由ヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲シタリ然レトモ刑事責任能力者カ自ラ手ヲ下サス他人ヲ使喚シテ客觀的ニ犯罪ノ構成要素ヲ具備セル行爲ヲ爲サシメタル場合ニ於テ使喚者ハ其ノ直接ノ行爲者カ犯罪ノ主觀的要件ヲモ充スモノナルトキハ共犯ノ規定ニ依リテ共ニ罪責ヲ負

フヘク若シ然ラサルトキハ刑事責任無能力者ヲ使喚シ其ノ行爲ヲ利用シ又ハ他人ノ違法ナラサル行爲ヲ利用シテ罪ヲ犯シタルモノニ係リ所謂間接正犯トシテ罪責ヲ負フヘキモノトス依テ本件ヲ考察スルニ前示檜原侍ねノ行爲ハ刑法第百四條ノ客觀的構成要素ヲ具備スルコト明瞭ナルモ同法第百五條ニ依リ犯罪ヲ構成セサルモノナルコト原判決所論ノ如クニシテ是人情ニ對スル法律ノ劃一性ノ讓歩ニシテ妻ノ刑事責任ヲ免除シタルモノト解スヘク正ニ十四歳ニ滿タサル者カ總テノ行爲ニ對シ刑事責任ヲ負ハサルト何等異ルトコロナシ果シテ然ラハ本件被告人ノ行爲ハ刑事責任ナキ前示侍ねヲ使喚シ其ノ行爲ヲ利用シテ證憑湮滅ヲ敢行シタルモノ即チ證憑湮滅ノ間接正犯ナリト認定スヘク之ヲ侍ねニ對スル證憑湮滅ノ教唆ナリト認定シ無罪ノ言渡ヲ爲シタル原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アリト謂フヘク當然破毀ヲ免レサルモノトスト謂ヒ被告人辯護人赤堀龜雄答辯ノ要旨ハ刑法第百五條ノ規定ハ犯罪不成立ノ趣旨ヲ規定シタルモノニシテ單ニ刑ヲ免除ヲ規定シタルモノニアラサルコトハ刑法各條ノ規定ノ文詞ニ徴シ明ナリ而シテ犯罪不成立ナルトキハ其ノ教唆モ亦成立セサルモノニシテ教唆獨立説ハ刑法ノ解釋上之ヲ容ルルノ餘地ナシ檢事ハ本件ヲ教唆犯トシテ起訴シ原審又教唆犯トシテ事實ヲ認定シタルニ拘ラス教唆犯トシテ認定タシハ不當ナリトシテ上告スルモノニシテ檢事自ラ自己ノ起訴ヲ攻撃非難スルモノニ係リ上告ノ理由ト爲スコトヲ得サルト同時ニ起訴ノ範圍ヲ超越シテ論議スルノ非難ヲ免レサルナリ假リニ上告ノ理由ハ適法ナリトスルモ間接正犯ナルモノハ犯罪意識ナキ者ヲ器械的ニ使

用シ犯罪ヲ實行セシメタル場合ニ正犯ノ責任ヲ負擔セシムル謂ニシテ間接正犯ニ付テハ種々ノ論議見解アルカ如シト雖刑法上ニ於テハ間接正犯ニ關スル規定ナク犯罪ノ態様ニ依リ各刑罰規定ニ依リ處罰スヘキコト一般犯罪ト何等ノ差異ナキニ反シ教唆ハ常ニ刑法第六十一條ノ適用ヲ受クルモノニシテ間接正犯ト教唆トハ法條ノ適用ヲ異ニシ區別ノ存スルモノナリ故ニ同一事實カ或ル場合ニハ間接正犯トナリ或ル場合ニハ教唆トナルカ如キコトナキナリ上告理由ノ如クスレハ本件事實ニ於テハ實行本犯カ富次郎ノ親族ナルヲ以テ被告人ノ行爲ハ教唆犯トナルノ結論ヲ生スルノ外ナシ間接正犯ハ常ニ間接正犯タリ教唆犯ハ常ニ教唆犯タルヘク同一事實ニシテ間接正犯タリトスルカ如キハ不合理ニシテ結局檢事上告ノ間接正犯ノ主張ハ採用セラルヘキモノニ非スト謂ヒ 被告人辯護人平松市藏 万城登ノ答辯ノ要旨ハ間接正犯トハ責任無能力者又ハ犯罪故意ヲ有セサル他人ヲ機械的ニ利用シテ自己ノ目的タル犯意遂行ノ手段ト爲シタル場合ヲ指稱スルモノニシテ被利用者ニ犯罪ノ故意又ハ責任能力無キコトヲ其ノ特質ト爲スト共ニ又利用者ニ正犯ノ故意則チ犯意ノ積極的遂行ノ意思ヲ存スル要アルモノナリ本件ニ於テハ被告人ハ正犯ノ故意ヲ有セス即チ原判示檜原持ねニ對シ事件ノ證據タルヘキ家計簿日記帳等ハ滅失シ置クヘキ旨懲憑シ同人ハ該懲憑ニ基キ其ノ夫富次郎ノ利益ノ爲證據湮滅ヲ爲スヘキ決意ヲ爲シ且之ヲ實行シタルモノナレハ被告人ノ所爲ハ刑法上教唆ニ屬スルコト一點ノ疑ナキ所ニシテ教唆以上ニ檜原持ねヲ利用シテ自己ノ犯意ヲ遂行シタルモノニアラサルナリ又檜原持ねハ責任無

能力者ニ非ス又證據湮滅ノ故意ヲ缺キタル者ニアラス日記帳家計簿等カ夫富次郎ニ對スル刑事事件ノ證據タルヘキヲ充分認識シナカラ之ヲ燒却シタルモノナリ故ニ被告人ノ所爲ハ單ニ右持ねノ證據湮滅實行決意ノ動機ヲ與ヘタル從屬性ノモノタルニ過キスシテ間接正犯ノ觀念ヲ以テ律シ得サルハ明白ナリ上告趣意ハ原判決カ被告人ノ所爲ヲ以テ檜原持ねノ證據湮滅行爲ニ對スル教唆ナリト認定シタルハ重大ナル事實ノ誤認ニシテ正ニ間接正犯ナリト認定スヘキモノナリト謂フニ在ルモ原判決援用ノ證據中ニハ被告人カ檜原持ねヲ使嗾シ其ノ行爲ヲ利用シテ證據湮滅ヲ敢行シタルモノナルコトヲ認メシムルカ如キ點何等存スルコトナク其ノ他記錄ヲ精査スルモ被告人ノ所爲ヲ以テ檜原持ねヲ利用シ犯罪ヲ實行シタルモノト認ムヘキ證據毫モ存セス抑々刑法第一百五條ニ所謂「之ヲ罰セス」トハ同法第二百四十四條又ハ同第二百五十七條ニ所謂「其ノ刑ヲ免除ス」ト謂フトハ全然其ノ趣ヲ異ニスルモノニシテ後者ハ犯罪ノ成立ヲ認メテ其ノ處罰ヲ免除スル所謂處罰阻却理由ノ規定タリ前者ハ刑法第三十五條乃至第四十一條ニ夫々「之ヲ罰セス」ト規定セルト同シク犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ理由ノ規定ナリ故ニ刑法第四百條ノ罪ノ成立スルカ爲ニハ行爲者カ第五百條ノ定メタル要件ヲ充ササルモノナルコトヲ要シ之ヲ具備スル者ノ行爲ナルニ於テハ第四百條ノ罪ハ全然成立セサルモノニシテ單ニ其ノ處罰ヲ免セラルルノミニ止マラサルナリ是レ刑法第二百四十四條同第二百五十七條等ニ於テ特ニ第二項ノ規定存スルニ拘ハラス第五百條ニ之ヲ存セサル所以ナリ故ニ第二百四十四條第二百五十七條等ノ場合ニ於テ



ハ假令正犯者カ法律所定ノ身分ヲ有シ處罰セラレサル場合ニ於テモ身分ナキ教唆者又ハ幫助者ヲ處罰スルニ妨ケナカルヘシ然レトモ第五條ノ場合ニ於テハ正犯者ニシテ身分ヲ有スルモノナル限リ教唆者又ハ幫助者ハ身分ヲ有セサル場合ト雖尙其ノ教唆又ハ幫助行為ニ付教唆犯又ハ幫助犯ノ成立スルコトナキモノナリ斯カル理由ヨリスルモ本件ニ於テ檜原持ねニ付證憑湮滅罪成立セサルニ於テハ被告人ニ付テモ亦教唆犯ノ成立スヘキ餘地ナシトシテ無罪ノ判決ヲ爲シタル原判決ハ寔ニ正當ナリト謂フヘノ之ヲ右持ねニ對シ犯罪成立セサルトキハ恰モ刑事上ノ責任能力者ヲ使嗾シ其ノ行為ヲ利用シテ罪ヲ犯シタル場合ト等シク被告人ノ所爲ヲ間接正犯ナリト認定スヘキモノナリトナス上告論旨ノ理由ナキコト明白ナリト謂フニ在リ

依テ按スルニ犯人ノ親族カ犯人ノ利益ノ爲ニ爲シタル證憑湮滅ノ行為ハ之ヲ罰スヘキモノニアラサルコト刑法第五條ノ規定スル所ナリ而シテ法律カ右行為ヲ罰セサルハ犯罪ノ主觀的要素タル責任能力又ハ事實認識ヲ缺如スル爲ニアラサルハ勿論犯罪ノ客觀的要素タル行為自體ヲ適法ノモノト認メタルカ故ニモアラスシテ刑事政策上犯人自身カ自己ノ犯罪ノ證憑ヲ湮滅スルト同シク證憑湮滅罪ノ特別構成要件ヲ具備セサルモノトナシ之ヲ可罰行為外ニ放任シタルモノト解スルヲ相當トス詳言スレハ此ノ場合ニ於テハ犯人ノ親族ヲ以テ犯人ノ人格ノ延長トナシ其ノ行為ハ法律上ノ價值ニ於テ犯人自身ノ行為ト全ク同一ノモノト看做シ其ノ行為ヲ以テ證憑湮滅罪ノ構成要件ヲ充タス能ハサルモノト爲シ斯カ

## 【要旨】

ル特種ノ犯罪ニ付其ノ絶對的不可罰性ヲ認メントスル趣旨ニシテ犯意ナキ者又ハ責任無能力者ノ行為ニ於ケル如ク犯罪ノ主觀的要素ヲ具備セサル爲其ノ者ニ限リ相對的ニ不可罰行為ト爲ス場合ト其ノ趣ヲ異ニスルノミナラス又親族相盜ノ場合トモ嚴ニ之ヲ區別スヘキモノニシテ彼此混同セサルコトヲ要ス而シテ間接正犯ノ觀念ハ責任無能力者若ハ犯意ナキ者又ハ意思ノ自由ヲ抑壓セラレタル者ノ行為ヲ利用シテ或犯罪ノ特別構成要件タル事實ヲ實現セシムル場合ニ存スヘキモノナレハ犯罪ノ特別構成要件ヲ事實上又ハ法律上充足スルコトヲ得サル者ヲ利用シテ間接正犯ヲ成立セシムルノ餘地ナキモノトス從テ法律上證憑湮滅罪ノ構成要件ヲ充タス能ハサル犯人ノ親族ヲ利用シテ同罪ノ間接正犯ヲ遂行スルコトハ絶對ニ不能ナリト謂ハサルヘカラス加之不可罰行為ハ之ヲ利用スル行為ヲ罰スル特別規定存セサル限リ其ノ法律上ノ價值ニ於テ適法行為ト選フコトナキヲ以テ適法行為ニ對シ間接正犯ノ成立ヲ認ムヘカラスアルト同様不可罰行為ニ對シテモ間接正犯ノ成立ヲ認容スルヲ得サルモノト解スヘキモノニアラス何トナレハ親族ノ證憑湮滅行為ハ不可罰行為ニシテ犯罪ヲ構成セサルコト前述ノ如クナルヲ以テ正犯ノ成立ヲ條件トスル教唆犯ヲ認ムルニ由ナケレハナリ然リ而シテ親族相盜ニ關スル刑法第二百四十四條第一項ハ親族間ノ竊盜行為ハ之ヲ可罰行為トナシ單ニ其ノ刑ヲ免除スルニ過キササルヲ以テ非親族ノ共犯ハ之ヲ罰スヘキハ當然ナルモ尙且同條第二項ヲ以テ其ノ趣旨ヲ明カニシタルニ拘ラス親

族ニ依ル證憑湮滅行爲ニ付テハ同法第五百條ニ於テ之ヲ不可罰行爲トナシナカラ非親族ノ共犯ニ對シテ何等ノ規定ヲ設ケサルニ鑑ミレハ兩者ハ嚴然區別セラルヘキモノニシテ之ヲ同趣旨ノモノト爲スヘキニアラス此ノ點ヨリ見ルモ法律ハ親族ニ依ル證憑湮滅ヲ非親族タル第三者カ教唆スル場合ハ罪責ヨリ放任シ之ヲ罰セサル趣旨ナリト解スヘキモノトス

敎上ノ理由ニ依リ我刑法ノ下ニ於テハ孰レノ觀點ヨリスルモ責任能力アル親族ニ對シ犯人ノ利益ノ爲ニスル證憑湮滅ヲ第三者カ示唆懲惡スルモ之ニ對シ間接正犯ノ成立ヲ認ムヘキ餘地ナキハ勿論教唆罪モ亦其ノ成立ヲ認容スヘカラサルコトヲ知ルニ足ルヘシ只第三者カ責任能力ナキ親族又ハ責任能力アルモ犯人ノ利益ノ爲ニスル意思ナキ親族ヲ示唆懲惡スル場合ニ於テ親族ニ依ル證憑湮滅ノ間接正犯又ハ教唆罪ノ成立ヲ認メ得ヘキノミ尙第三者カ責任能力アル親族ノ證憑湮滅行爲ヲ示唆懲惡ニ依ル教唆ヲ爲スニ止マラス是ト共謀シ又ハ湮滅行爲ニ戮力アル場合ニ於テハ半面的共同正犯タル一種ノ直接正犯トシテ罰セラルヘキハ謂フヲ俟タサルナリ

然リ而シテ原判決カ證據ニ依リ認定シタル本件事實ハ被告人ハ元津山市視學兼課長ナリシトコロ瀆職罪ノ嫌疑ニ依リ昭和九年二月起訴セラレ岡山刑務所ニ收容セラレタルカ同年六月八日保釋出所シ即日肩書居宅ニ歸リタルニ遠縁ノ間柄ナル岡山市上出石町檜原富次郎カ其ノ主宰スル和同講ナル日掛講ノ講金ヲ横領シタル事件ニ付岡山地方裁判所檢事局ニ於テ事件捜査中ナルヲ聞知シ翌九日午前八時過頃

同人ヲ庇護スル目的ヲ以テ前記居宅ヨリ電話ヲ以テ前示檜原富次郎方ナル同人ノ妻光子事檜原信ねニ對シ「近キ内ニ家宅搜索アルヤモ圖ラレサルニ依リ用心セヨ自分ハ日記帳受取書等ヲ引キ上ケラレヒドイ目ニ會ヒタル故左様ナモノハ無イ様ニ片付ケルカ良イ」旨申向ケテ右富次郎ノ利益ノ爲ニ日記帳受取書等ヲ滅失スヘキ旨懲惡シ因テ右信ねヲシテ該懲惡ニ基キ其ノ夫富次郎ノ利益ノ爲即日右事件ノ證憑タルヘキ日記帳、家計簿各約三冊受取書約二百枚ヲ前示檜原富次郎方風呂竈ニ於テ燒却セシメタルモノニシテ且右信ねハ前示事件ニ付夫富次郎ノ外ニ共犯者アルコトヲ認識シ居ラサル事實明白ナリト謂フニアルヲ以テ被告人ハ判示檜原富次郎ノ横領事件ニ付責任能力アル同人ノ妻ヲ懲惡シテ其ノ夫富次郎ノ利益ノ爲ニ右事件ノ證憑ヲ湮滅セシムルノ意思ヲ生セシメタルモノニシテ教唆ニ該當スルモ其ノ罰スヘカラサルコト及間接正犯ヲ構成スル餘地ナキコト冒頭說示ノ趣旨ニ依リ明瞭ナリ又右認定事實ニ依レハ被告人ノ判示懲惡ノ事實ハ右證憑湮滅ノ通謀ニ達セサルコト明カナルノミナラス其ノ戮力行爲ニモアラサルコト勿論ナルヲ以テ被告人ノ行爲ヲ右證憑湮滅ノ直接正犯ト認ムヘカラサルコト謂フヲ俟タス然ラハ原審カ被告人ノ本件行爲ヲ以テ無罪ト爲シ敢テ教唆又ハ間接正犯ニ問擬セサリシハ正當ナリトス所論ハ間接正犯ノ觀念ヲ本件ノ如キ特殊ノ放任行爲ニ適用セントスルモノニシテ之ニ關スル明文ナキ現行法ノ下ニ於テハ不當ニ處罰範圍ヲ擴張スル結果トナルヲ以テ到底採用スルヲ得サルナリ而シテ記録ヲ精査スルモ原判決ニ重大ナル事實誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナ

ク又擬律錯誤ノ不法アルモノト爲スヲ得ス論旨理由ナシ  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事棚町丈四郎關與

○贈賄賄賂提供賄賂要求收賄被告事件 (昭和九年(九)第一一九二號 棄却)

【上告人】 被告人 佐伯 祐一 辯護人 今松 津田 井本 嘉重 幸三 殿  
外四名

【第一審】 西條區裁判所 【第二審】 松山地方裁判所

○判示事項

賄賂要求罪ノ成立ト被要求者ノ非應諾意思——町村長ノ助役推薦前  
ニ於ケル助役候補者ノ非公式豫選方法ノ適法性——助役決定ノ準備

ノ爲ニスル行爲ト町村會議員ノ職務——裁判公開ノ原則ト裁判書——  
將來ノ職務ニ關スル賄賂要求罪

○判決要旨

- 一 賄賂要求ノ罪ハ被要求者力之ニ應スル意思ナキ爲其ノ目的ヲ達  
スル能ハサル場合ニ於テモ成立スルモノトス【要旨第一】
- 二 町村長力助役ノ推薦ヲ爲スニ當リ豫メ町村會議員ヲ非公式ニ招  
集シ助役候補者ニ付投票議決セシムルハ法律上ノ效力ナシト雖  
之ヲ強制セサル限り違法ニ非ス【要旨第二】
- 三 町村會議員力町村會ニ於ケル助役決定ノ準備ノ爲豫メ非公式ニ  
招集セラレ助役候補者ニ付非公式ニ投票議決ヲ爲スハ其ノ職務  
ニ密接ナル關係ヲ有スル行爲ナリトス【要旨第三】
- 四 裁判公開ノ原則ハ裁判事件ニ付其ノ審理竝ニ裁判ノ言渡ヲ一般  
公衆ニ解放シタル公判廷ニ於テ爲スヘキコトヲ謂ヒ裁判書ノ内  
容ニハ關係ナキモノトス【要旨第四】
- 五 賄賂要求罪ハ公務員力其ノ地位ニ於テ將來執行スヘキ職務ニ關

賄賂要求罪ノ成立ト被要求者ノ非應諾意思——町村長ノ助役推薦前ニ於ケル助  
役候補者ノ非公式豫選方法ノ適法性——助役決定ノ準備ノ爲ニスル行爲ト町村  
會議員ノ職務ニ關スル賄賂要求罪

シ賄賂ヲ要求スル場合ニモ成立ス【要旨第五】

【參照】 刑法第九十七條

公務員又ハ仲裁人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲナササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルト能ハサルトキハ其價額ヲ追徴ス

町村制第六十三條第六項 町村長ハ町村會ニ於テ之ヲ選舉ス

助役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ定ム町村長職ニ在ラサルトキハ第一項ノ例ニ依ル

憲法第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人佐伯祐一 玉井勝次郎ヲ各懲役三月ニ被告人黒瀬本四郎 佐伯寅次郎 德永一義ヲ各懲役二月ニ處ス被告人德永一義ヨリ金三十三圓三十八錢被告人佐伯寅次郎ヨリ金二十一圓三十八錢被告人黒瀬本四郎ヨリ金一圓三十八錢ヲ各追徴スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人野口勇次郎ハ大正十一年三月以來愛媛縣周桑郡田野村助役トシテ勤務シ昭和九年三月二十四日

其ノ任期滿了ノ處同村長ノ推薦ニ依リ同月十六日同村村會ニ於テ助役ニ重任スルコトニ決議サレ右任期滿了後引續キ其ノ職ニ在リタルモノ被告人玉井勝次郎 黒瀬本四郎 德永一義 佐伯寅次郎 宇野清次郎並原審相被告人玉井勇次郎 渡部常三郎ハ同年一月十一日施行セラレタル同村村會議員選舉ニ於テ同議員ニ當選シ夫々其ノ職務ニ從事シ居リタルモノナル處右田野村ニ於テハ村長カ助役ヲ推薦スルニ當リテハ先ツ同村村會議員ヲ招集シ同議員等ヲシテ非公式ニ助役候補者中ヨリ助役ト爲スヘキ者ヲ投票又ハ多數決ニテ議決セシメ其ノ結果多數ノ得票アリタル者ヲ後任助役トシテ推薦シ之ヲ同村村會ニ於テ助役ニ決定スル慣習存スルモノナル處ヨリ

第一、被告人野口勇次郎ハ前示昭和九年三月二十四日助役任期滿了期ニ際シ更ニ後任助役トシテ重任セムコトヲ希望シ居リタルトコロ當時同村書記黒瀬友四郎ヲ後任助役タラシメムトスル一派ノ者アリ之ト被告人野口勇次郎ハ相對立シテ其ノ候補者タリシ爲被告人野口勇次郎ハ其ノ任期滿了前タル同年一月中同村村會ノ有力者タル被告人玉井勝次郎ニ對シ助役改選ノ際ハ盡力セラレ度キ旨懇請シ尙同村有力者ニシテ且友人タル被告人佐伯祐一ニ對シ其ノ後援方ヲ依頼シテ夫々其ノ承諾ヲ得タル後

(一) 被告人野口勇次郎 佐伯祐一ハ同村村會議員等ニ金品ヲ供與シ其ノ贊同ヲ得テ被告人野口勇次郎ヲシテ助役重任ノ目的ヲ達セムコトヲ同村ニ於テ共謀シ

賄賂要求罪ノ成立ト被要求者ノ非應讀意思 町村長ノ助役推薦前ニ於ケル助役候補者ノ非公式選舉方法ノ適法性 助役決定ノ準備ノ爲ニスル行爲ト町村會議員ノ職務 裁判公開ノ原則ト裁判書 將來ノ職務ニ關スル賄賂要求罪

(イ) 同年一月下旬被告人佐伯祐一ニ於テ被告人玉井勝次郎ト共ニ被告人佐伯祐一ノ肩書居宅ニ被告人黒瀬本四郎 佐伯寅次郎 徳本一義ヲ各招致シ其ノ席上同被告人等ニ對シ夫々助役改選ノ際ハ村會ニ於テ被告人野口勇次郎ヲ助役ニ重任セシムヘク盡力セラレ度キ旨ノ懇請ヲ爲シ其ノ盡力ニ對スル報酬トシテ被告人佐伯祐一ノ手ニヨリ即日同所ニ於テ本四郎 寅次郎 一義ニ各一人前金一圓三十八錢ニ相當スル酒食ヲ饗應シ

(ロ) 同年三月十二、三日頃被告人佐伯祐一ニ於テ居村大字長野料理店柳亭又ハ谷屋事玉井テツ子方ニ被告人徳永一義 宇野清次郎 竝原審相被告人渡部常三郎ヲ各招待シタル上同被告人等ニ對シ野口勇次郎ヲ助役ト爲ス盡力ニ對スル報酬趣旨ノ下ニ一人前金二圓ニ相當スル酒食ヲ饗應シ

(二) 被告人野口勇次郎 佐伯祐一 玉井勝次郎ノ三名ハ同村内ニ於テ右(一)冒頭記載ト同様ノ共謀ヲ爲シタル上同年二月十八日夜被告人佐伯祐一 玉井勝次郎ニ於テ被告人佐伯祐一 肩書居宅ニ被告人佐伯寅次郎 徳永一義 宇野清次郎 竝原審相被告人渡部常三郎 玉井勇次郎ヲ各招致シ同人等ニ對シ交々前記(一) (イ)ト同趣旨ノ請託ヲ爲シタル上同人等ノ盡力ニ對スル報酬金トシテ主トシテ勝次郎ノ指圖ニ基キ被告人佐伯祐一ノ手ニヨリ

(イ) 玉井勇次郎ニ對シ即時同所ニ於テ金二十圓ヲ

(ロ) 同月十九日被告人徳永一義ノ肩書居宅ニ於テ同人ニ對シ金三十圓ヲ

(ハ) 前同日被告人徳永一義ヲ通シ被告人宇野清次郎ノ肩書居宅ニ於テ同人ニ對シ金二十圓ヲ

(ニ) 前同日被告人佐伯祐一ノ肩書居宅附近ニ於テ渡部常三郎ニ對シ金二十圓ヲ

(ホ) 前同日渡部常三郎ヲ通シ同村役場附近ニ於テ被告人佐伯寅次郎ニ對シ金二十圓ヲ

各供與シ

(三) 被告人野口勇次郎 佐伯祐一ハ同村ニ於テ共謀ノ上被告人野口勇次郎カ助役ニ重任シタル後

同年四月上旬頃被告人佐伯祐一ニ於テ其ノ肩書居宅ニ於テ渡部常三郎ニ對シ同人及被告人佐伯寅

次郎カ村會ニ於テ被告人野口勇次郎ノ助役重任ニ付盡力シ吳レタル報酬趣旨ノ下ニ被告人佐伯寅

次郎ノ報酬ト合セテ金五圓ヲ供與シ

以テ夫々贈賄シ

第二、被告人佐伯祐一ハ同年二月上旬頃被告人黒瀬本四郎肩書居宅ニ到リ同被告人ニ對シ被告人野口勇

次郎カ助役ニ重任スル様村會ニ於テ盡力セラレ度之ニ對スル報酬トシテ同被告人ヨリ金百五十圓位ヲ

提供セシメタル上其ノ内ノ一部ヲ贈與スヘキ旨申込以テ賄賂ヲ提供シ

第三、被告人黒瀬本四郎 佐伯寅次郎 徳永一義ハ

(イ) 第一(一)(イ) 掲記日時場所ニ於テ被告人玉井勝次郎 佐伯祐一ヨリ前記ノ如ク夫々懇請ヲ

受ケタル上其ノ盡力ニ對スル報酬トシテ提供セラレタルモノナル情ヲ知リナカラ一人前各金一圓

賄賂要求罪ノ成立ト被要求者ノ非難諸意思 町村長ノ助役推選前ニ於ケル助役候補者ノ非公式推選方法ノ適法性 助役決定ノ準備ノ爲ニスル行為ト町村會議員ノ職務 裁判公開ノ原則ト裁判書 將來ノ職務ニ關スル賄賂要求罪

三十八錢ニ相當スル酒食ノ饗應ヲ受ケテ夫々其ノ村會議員タル職務ニ關シテ收賄シ

(ロ) 第一(一)(イ) 掲記日時場所ニ於テ當時被告人野口勇次郎ノ後任助役タラントスル意向アリタル同村役場書記黒瀬友四郎ニ對シ同人ヲ後任助役トシテ援助スルコトヲ條件トシ村會ニ於テ其ノ盡力ヲ爲ス報酬トシ金三百圓ヲ要求センコトヲ謀議シ茲ニ三名謀議ノ上其ノ頃被告人黒瀬本四郎ヲシテ同被告人居部落 黒瀬友四郎方ニ到ラシメ同人ニ對シ村會ニ於テ同人ヲ後任助役ニ決定スル様盡力スルニ付其ノ報酬トシテ金三百圓ヲ交付セラレ度キ旨申込マシメ以テ夫々其ノ村會議員タル職務ニ關シ賄路ヲ要求シ

第四、被告人徳永一義 宇野清次郎ハ第一(一)(ロ) 掲記日時場所ニ於テ被告人佐伯祐一ヨリ前記ノ如ク盡力ニ對スル報酬トシテ提供セラレタルモノナル情ヲ知リナカラ一人前各二圓ニ相當スル酒食ノ饗應ヲ受ケテ夫々其ノ村會議員タル職務ニ關シ收賄シ

第五、被告人徳永一義 宇野清次郎 佐伯寅次郎ハ第一(二) 前段記載ノ日時場所ニ於テ被告人佐伯祐一 玉井勝次郎ヨリ前記ノ請託ヲ受ケ其ノ盡力ニ對スル報酬トシテ提供セラレタルモノナル情ヲ知リナカラ第一(二) 後段(ロ)(ハ)(ホ) 各掲記ノ日時場所ニ於テ夫々前示各金員ノ供與ヲ受ケテ夫々其ノ村會議員タル職務ニ關シ收賄シ

タルモノニシテ(中略)右被告人佐伯祐一ノ各贈賄ノ所爲ト賄路提供ノ所爲被告人黒瀬本四郎ノ收賄ノ所爲ト賄路要求ノ所爲被告人佐伯寅次郎 徳永一義ノ各收賄ノ所爲ト賄路要求ノ所爲(中略)ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人佐伯祐一 玉井勝次郎ノ判示贈賄ノ各所爲ハ各刑法第六十條第九十八條第一項ニ被告人佐伯祐一ノ判示賄路提供ノ所爲ハ同法第九十八條第一項ニ被告人佐伯寅次郎 黒瀬本四郎 徳永一義ノ判示賄路要求ノ所爲ハ各同法第六十條第九十七條第一項前段ニ被告人佐伯寅次郎 黒瀬本四郎 徳永一義ノ判示各收賄ノ所爲ハ各同法第九十七條第一項前段ニ各該當スルトコロ被告人玉井勝次郎ヲ除ク其ノ餘ノ各被告人ノ以上各所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルヲ以テ各同法第五十五條ニ依リ尚被告人佐伯祐一 玉井勝次郎ニ付テハ其ノ所定期中有期懲役刑ヲ選擇シ各所定期範圍内ニ於テ各被告人ニ對シ主文掲記ノ刑ヲ量定處斷スヘク被告人佐伯寅次郎 徳永一義 黒瀬本四郎ノ收受シタル判示各賄路ハ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ同法第九十七條第二項後段ニ則リ主文掲記ノ如ク各其ノ價額ヲ追徴スヘキモノトス

主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

理 由

被告人黒瀬本四郎辯護人今井嘉幸上告趣意書第四點原審ニ於テハ被告人本四郎ニ付辯護人及本人ヨリ

賄路要求罪ノ成立ト被要求者ノ非應請意思 町村長ノ助役推選前ニ於ケル助役決定ノ準備ノ爲ニスル行爲ト町村役補者ノ非々式豫選方法ノ適法性 裁判書 將來ノ職務ニ關スル賄路要求罪 會議員ノ職務 裁判公開ノ原則ト裁判書 將來ノ職務ニ關スル賄路要求罪

左ノ事實主張アリタリ一、本四郎ノ推薦シタル黒瀨書記ハ多年憲兵隊ニ在リテ自ラ檢察事務ニ當リ到底本件ノ如キ瀆職行爲ヲ敢テスル者ニアラス之ニ對スル本四郎ノ賄賂要求ハ當初ヨリ殆ント不能ニ屬ス況ンヤ黒瀨書記ハ其ノ以前ニ於テ野口長次郎ヨリ相願アリ如何ナル運動ヲ爲スコトモ斷念シタリ之カ爲結局何レヨリ言フモ本四郎ノ要求ハ本來目的不能ニ屬ス(原審公判調書及辯護人提出辯明書御參照)二、本四郎ハ佐伯寅次郎等ノ勸誘ニ依リ友四郎ニ對シテ賄賂要求ノ意思ヲ傳達シタル旨ヲ告發狀ニ記載シ司法警察官ニ提出シタリ從テ右本四郎ノ行爲ハ賄賂要求ノ犯罪行爲ナリトスレハ其ノ行爲ニ付官憲ニ自首セルモノトス(告發書及公判調書御參照)右主張事實ハ共ニ法律上犯罪ノ成立ヲ阻止スヘキ原由又ハ刑ノ輕減ノ原由タルニ拘ラス原審判決ニ於テハ之ニ對スル判斷ヲ遺脱セルハ違法ナリト謂ヒ同被告人辯護人田坂貞雄上告趣意書第三點原判決ハ其ノ事實理由第三ノ(ロ)ニ於テ被告人本四郎カ黒瀨友四郎ニ對シ報酬金三百圓ヲ要求シタル事實ヲ認メタリ而シテ一部ノ證據ニ依レハ此ノ事實ノ外形ヲ認ムルニ足ルモ前點所論ノ如ク被告人ハ終始友四郎ヲ支持シ最後マテ同人ノ爲ニ努力盡瘁シタル事實被告人ハ友四郎カ絶對ニ運動費ヲ支出セスト聲明セルヲ知リ且其ノ性格上其ノ可能性ナキヲ知悉シ居リタル事實其ノ立場上自ラ反對者野口勇次郎ノ運動者玉井勝次郎 佐伯祐一等ノ行動ヲ偵察シ居リタル事實衷心村政ノ腐敗ヲ慨キ其ノ革正ヲ期シ居リタル事實(特ニ原審ニ顯ハレタル被告人等正義派ノ本件告發書御參照)其ノ本四郎ニ對スル要求ノ形式的ニシテ何等熱意ナカリシ事實等記錄

ニヨリテ首肯シ得ヘキ各點ニ照合セハ其ノ要求ノ心意ニ出テタルニ非スシテ一場ノ掛引方便ニ過キナルモノト認ムルヲ事件ノ真相ヲ得タルモノトスヘク假ニ然ラスシテ原審認定ヲ眞實ナリトセハ被告人本四郎ハ此ノ事實ヲ司法警察官ニ自首シタル事實アリ本件ハ昭和九年五月被告人本四郎外三名ノ告發ニ其ノ端ヲ發セルモノニシテ其ノ告發書第三項末段ヨリ第四項乃至第六項ニ互リ佐伯寅次郎ノ發意ニ依リ被告人ハ越智虎夫ト俱ニ黒瀨友四郎ニ對シ事ノ經過ヲ述ヘ運動費三百圓ノ支出ヲ申入タル旨ノ詳細ナル記載アリ之レ判示ニ所謂報酬要求ノ事實ニ外ナラス之ヲ事實ノ内容トスル該告發ハ即チ犯罪事實ヲ官憲ニ自首セルモノニシテ刑法第九十八條第二項ニ依リ刑ノ減免ヲ得ヘキ重要ナル事實ト云ハサルヘカラス之レ原審公判ニ於テ該告發書ノ提出ト共ニ辯護人ノ主張シタル所ナルニ拘ハラス此ノ點ニ關シ何等ノ判斷ヲ爲ササリシ原判決ハ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ違背セル違法ヲ免レス(告發書及原審最終公判調書援用)ト謂フニアレトモ

公務員カ其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ要求スルトキハ其ノ要求行爲自體ニ於テ瀆職ノ事實ヲ存スルモノナレハ被要求者カ之ニ應スル意思ナキ爲要求者カ其ノ目的ヲ達スル能ハサル場合ニ於テモ賄賂要求罪ノ成立ヲ認ムルニ妨ナキモノトス從テ賄賂要求ノ目的ヲ達スル能ハサリシ旨ノ主張ハ同罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由タル事實上ノ主張ニ該當スルモノニアラス又所論告發書ノ記載カ被告人ノ賄賂要求罪ノ自首ト認ムヘキモノナリトスルモ自首ニ因ル刑ノ減輕ハ裁判所ノ自由裁量ニ任セラレタル所ナルヲ以テ自

【要旨第一】

賄賂要求罪ノ成立ト被要求者ノ非應意思想 町村長ノ助役推薦前ニ於ケル助役候補者ノ非公式推選方法ノ適法性 助役決定ノ準備ノ爲ニスル行爲ト町村會議員ノ職務 裁判公判ノ原則ト裁判書 將來ノ職務ニ關スル賄賂要求罪

首ノ主張ハ法律ニ所謂刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張ト謂フヲ得ス從テ論旨孰レモ理由ナシ  
 同被告人辯護人今井嘉幸上告趣意書第六點原審判決ニ依レハ「田野村ニ於テハ村長カ助役ヲ推薦スル  
 ニ當リテハ先同村會議員ヲ招集シ同議員等ヲシテ非公式ニ助役候補者中ヨリ助役ト爲スヘキ者ヲ投票  
 又ハ多數決ニテ議定セシメ其ノ結果多數ノ得票アリタルモノヲ後任助役トシテ推薦シ之ヲ同村會ニ於  
 テ助役ニ決定スル慣例存スルモノナル旨」冒頭ニ判示シ本件ニ於テモ之ニ從ヒタルコトヲ云ヘルモ勝  
 次郎ノ原審供述ニ依レハ明カニ村長ヨリ村會開會ヲ宣シタル後ニ於テ村長ノ推薦前其ノ決議ヲ爲シタ  
 ルモノナリ斯ノ如キ決議ハ我町村制ノ認メサル議員職務外ノ行爲タルノミナラス我國自治制度ノ精神  
 ヲ沒却シ其ノ基礎ヲ破壞スル違法ノ行爲タリ抑々自治體吏員選任ノ方法ニハ(一)所謂官選(二)公  
 民ノ直接選舉(三)其ノ間接選舉(即チ村會選舉)(四)間接ノ又間接選舉(五)兩者ノ中間方法ノ五  
 種ヲ想像スヘシ我町村制第六十三條ニ依レハ村長ニ就テハ右ノ(三)ニ依リ一般吏員ニ就テハ(四)  
 ニ依リ而シテ助役ニ就テハ(五)即チ町村長ノ任意推薦シタル旨ヲ町村會ニ於テ決定ス然ルニ其ノ順  
 序ヲ轉倒シ其ノ町村會ノ決議ヲ先ニシ之ニ從テ町村長ノ推薦ニ供スルカ如キハ假令後更ニ村會決議ノ  
 形式ヲ取ルモ有名無實ニシテ之カ爲ニ町村長ノ意思ハ制肘セラレ所謂ぼつすノ勢力ヲ逞シウスヘキ弊  
 害ヲ誘導スルモノニシテ斯ノ如キ手續ノモノニ爲サレタル推薦竝ニ其ノ後ノ決議モ亦無効ノモノニ屬  
 ス本件ニ於テ野口勇次郎ノ選任ハ斯ノ如キ本來違法無効ノモノタルノミナラス被告本四郎ノ運動目標

ハ終始推薦前ノ所謂豫選ニ集注セラレタルコト原審公判廷ニ於テ同人ノ供述スル所ノ如シ然レハ同人  
 ノ本件判示ノ響應竝ニ賄路要求ニ關スル兩行爲ハ議員職務ノ範圍外ニ屬シ少クトモ同人ノ意思ハ職務  
 範圍外ノ事項ヲ目的トシ其ノ意思ニ因ル行爲ノ發動タル以上犯罪ノ意思ナキモノニシテ之ニ對シ刑法  
 第九十七條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ判決ナリト謂ヒ」同被告人辯護人田坂貞雄上告趣意書第五點  
 原判決ハ其ノ事實理由ニ於テ「被告人野口勇次郎ハ大正十一年三月以來愛媛縣周桑郡田野村助役トシ  
 テ勤務シ昭和九年三月二十四日其ノ任期滿了ノ處同村長ノ推薦ニヨリ同月十六日同村村會ニ於テ助役  
 ニ重任スルコトニ決議サレタル者……被告人玉井勝次郎 黒瀬本四郎 徳永一義 佐伯寅次郎 宇野清次  
 郎原審相被告人玉井勇次郎 渡部常三郎ハ孰レモ同村村會議員ニシテ其ノ職務ニ從事シ居リタルモノ  
 ナル處右田野村ニ於テハ村長カ助役ヲ推薦スルニ當リテハ先同村村會議員ヲ招集シ同議員等ヲシテ非  
 公式ニ助役候補者中ヨリ助役トナスヘキ者ヲ投票又ハ多數決ニテ議決セシメ其結果多數ノ投票アリタ  
 ルモノヲ後任助役トシテ推薦シ之ヲ同村々會ニ於テ助役ニ決定スル慣例存スル處ヨリ第一……(一)  
 被告人野口勇次郎 佐伯祐一ハ同村村會議員等ニ金品ヲ供與シ其ノ贊同ヲ得テ被告人野口勇次郎ヲシ  
 テ助役重任ノ目的ヲ達成センコトヲ同村ニ於テ共謀シ(イ)同年一月下旬頃被告人佐伯祐一ニ於テ被  
 告人玉井勝次郎ト共ニ被告人佐伯祐一ノ肩書居宅ニ被告人黒瀬本四郎 佐伯寅次郎 徳永一義ヲ各招集  
 シ其ノ席上同被告人等ニ對シ夫々助役改選ノ際ハ村會ニ於テ被告人野口勇次郎ヲ助役ニ重任セシムヘ

賄路要求罪ノ成立ト被要求者ノ非應諾意思 町村長ノ助役推薦前ニ於ケル助  
 役候補者ノ非公式選舉方法ノ適法性 助役決定ノ準備ノ爲ニスル行爲ト町村  
 會議員ノ職務 裁判公開ノ原則ト裁判書 將來ノ職務ニ關スル賄路要求罪



タ盡力セラレ度旨ノ懇請ヲ爲シ其ノ盡力ニ酬フル報酬トシテ被告人佐伯祐一ノ手ニヨリ同所ニ於テ本  
 四郎寅次郎一義ニ各一人前金一圓三十八錢ニ相當スル酒食ヲ饗應シ……第三被告人黒瀬本四郎佐  
 伯寅次郎徳永一義ハ(イ)第一(一)(イ)掲記日時場所ニ於テ被告人玉井勝次郎佐伯祐一ヨリ前記  
 ノ如ク夫々懇請ヲ受ケタル上其ノ盡力ニ對スル報酬トシテ提供セラレタルモノナル情ヲ知リナカラ一  
 人前各金一圓三十八錢ニ相當スル酒食ノ饗應ヲ受ケ以テ夫々其ノ村會議員タル職務ニ關シテ收賄シ  
 ト認定シ被告人本四郎ヲ收賄罪ニ問擬處斷シタリ然レトモ同罪ハ公務員其ノ職務ニ關シテ收賄ヲ收受  
 スルニ因リテ成立スルモノニシテ刑法上公務員トハ官吏公吏法令ニヨリ公務ニ從事スル議員委員其ノ  
 他ノ職員ヲ謂フモノナルコトハ刑法第七條ノ明規スル所ナルヲ以テ村會議員カ其ノ職務ニ關シテ賄賂ヲ  
 收受シタリト云フニハ町村制ノ規定ニ依ル村會議員ノ職務ニ關シテ賄賂ヲ收受シタル場合ナルコトヲ要  
 ス前叙原判決認定ノ事實ニ依レハ判示田野村ニテハ村長カ助役ヲ推薦スルニ當リテハ先同村村會ヲ招  
 集シ同議員ヲシテ非公式ニ助役候補者中ヨリ助役トナスヘキ者ヲ投票又ハ多數決ニテ議決セシメ其ノ  
 結果多數ノ得票アリタル者ヲ後任助役トシテ推薦スルノ慣例存スト云フニ在ルモ助役ノ決定ニ付村會  
 議員ノ職務トシテハ村長ノ推薦ニ依リ村會之ヲ定ムヘキモノニシテ村會カ推薦決定スヘキモノニアラ  
 サルコトハ町村制第六十三條第六項ノ明定スル所ニシテ非公式ニ助役トナスヘキ者ヲ選舉決定スルカ  
 如キハ法令ニ依ル村會議員ノ行爲ニアラス故ニ被告人本四郎カ判示趣旨ノ下ニ饗應ヲ受ケタリトスル

モ村會議員ノ職務ニ關スルモノニアラサルヲ以テ收賄罪ヲ構成スルモノニアラス然ルニ原判決ハ此ノ  
 點ヲ誤解シ被告人本四郎カ村會議員ノ職務ニ關シテ賄賂ヲ收受シタリトシテ收賄罪ニ問擬シタルハ擬律  
 錯誤ノ違法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト謂フニアレトモ

【要旨第二】

町村制第六十三條第六項ニ依レハ助役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ定ムルモノナレハ町村長及町  
 村會議員ハ其ノ町村ノ助役ヲ決定スル職務權限ヲ有スルコト明白ナリトス而シテ町村長カ助役ノ推薦  
 ヲ爲スニ當リ任意ニ豫メ町村會議員ヲ非公式ニ招集シ助役候補者中ヨリ助役ト爲スヘキ者ヲ投票又ハ  
 多數決ニテ議決セシムルカ如キハ町村長及町村會議員カ助役決定ノ職務ヲ圓滑ニ遂行スル準備手段ト  
 シテ適當ナル措置ナリト謂フヘク他ヨリ之レヲ強制セサル限リ毫モ違法ニアラス而シテ右ノ決議ハ固  
 ヲリ法理上ノ效力ヲ有セサルモ町村會議員カ町村會ニ於テ助役決定ノ職務ヲ實行スル準備行爲トシテ  
 該職務自體ト密接ニシテ離ルヘカラサル關係ニ在ルモノナレハ等シク職務ニ關スル行爲ナリト解スヘ  
 キモノナリトス加之原判決ハ被告人黒瀬本四郎カ判示村會議員トシテ正式ノ村會ニ於テ盡力ヲ爲スヘ  
 キ報酬トシテ原判決認定ノ第三ノ(イ)(ロ)ノ如ク饗應ヲ受ケ又ハ金員ヲ要求シタル事實ヲ認定シタ  
 ルモノニシテ所論判例ノ存スルコトハ右犯罪事實ノ經過事情ヲ敘述シタルモノニ外ナラサルカ故  
 ニ原審カ判示被告ノ行爲ニ付刑法第九十七條第一項ヲ適用シタルハ正當ニシテ擬律錯誤ノ違法アル  
 コトナシ從テ假ニ同被告人カ所論ノ如ク右助役推薦前ノ投票又ハ決議ハ其ノ職務ノ範圍外ノ行爲ナリ

【要旨第三】

賄賂要求罪ノ成立ト被要求者ノ非應諾意思  
 町村長ノ助役推薦前ニ於ケル助  
 役候補者ノ非公式選舉方法ノ適法性  
 町村長ノ爲ニスル行爲ト町村  
 會議員ノ職務ニ關スル賄賂要求罪  
 裁判公開ノ原則ト裁判書  
 將來ノ職務ニ關スル賄賂要求罪

トノ意思ヲ有シ居リタリトスルモ之カ爲ニ右各犯行ノ成立ニ影響ヲ及ホスヘキモノニアラス論旨孰レモ理由ナシ

被告人玉井勝次郎辯護人松本重敏 津田勝三上告趣意書第一點原判決ハ裁判理由不備ノ違法裁判ナリ判決書ハ事實及證據ノ全體ヲ完備スルニ依リテ構成スルモノナリ其レ故ニ判決書ノミニ依リテハ事實又ハ證據ヲ知悉スルコトヲ得ス豫審調書又ハ公判調書ニ對照スルニ依リテ之ヲ知ルヲ得ルモノナルトキハ其ノ判決書ハ未タ判決書タルモノニ非ス憲法第五十九條ニ裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開スルコトヲ規定シタルハ對審即チ審理ヲ公表スルハ勿論判決即チ裁判ヲ公表スルコトニシテ判決ノ公表ハ裁判ノ言渡ハ勿論裁判ノ内容ヲ公表スルコトナリ裁判ノ内容ハ判決書ニ依リテ裁判ヲ爲シタル理由ヲ公表スルコトナリ裁判ノ理由中ノ或部分(事實又ハ證據ノ或部分)ヲ裁判所祕藏ノ豫審調書又ハ公判調書中ニ之ヲ祕留シ置クトキハ其ノ判決書ニ依リテハ裁判理由ノ全部ヲ公表セサルモノナルヲ以テ憲法ノ該法條ニ違反シテ判決ヲ公開セサルモノトナルナリ憲法ノ該法條ハ刑事訴訟法第三百六十條第一項及同第四百十條十九號ノ規定ニ依リテ之ヲ確保スルモノナリ其レ故ニ裁判ノ理由ハ刑事訴訟法第三百六十條第一項ノ規定ニ依リテ事實及證據ノ全部ヲ遺脱又ハ祕留スルコトナク之ヲ判決書ニ説示スルコトニ依リテ完備シ判決書ハ完成スルモノナリ其ノ或部分ヲ遺脱又ハ祕留スルトキハ憲法ノ該法條ニ違反スルモノナルヲ以テ刑事訴訟法第四百十條第十九號ノ規定ニ依リ裁判ニ理由ヲ附セサルモノトシテ上告

ノ理由トナルナリ(一)原判決證據説示中諸所ニ「判示同趣旨ノ供述」ナル文字ヲ用ヒテ其ノ判示同趣旨ノ供述ノ存否ハ公判調書ヲ對照スルニ非サレハ原判決書ニ依リテ之ヲ知悉スルコトヲ得ス公判調書ハ裁判所ニ祕藏スルモノナルヲ以テ之ヲ對照スルニ由ナシ左レハ原判決書ハ裁判理由ノ或部分ヲ祕留スルモノナルヲ以テ判決ヲ公開シタルモノトナラス從テ原判決ハ刑事訴訟法第三百六十條第一項ノ規定ニ適合セサル未完成ノモノナルヲ以テ刑事訴訟法第四百十條第十九號ノ規定ニ依リテ破毀セラヘキモノナリ(二)又原判決證據説示中諸所ニ「除外部分」ナル文字アリテ何事ナルカヲ知悉スルコト不可能ナリ之レ事實及證據ヲ説示セサル爲ニシテ裁判ニ理由ヲ付セス少クモ理由不完備ノ違法裁判タリト謂ヒ同第四點原審判決ハ證據ニ依ラスシテ事實ヲ認定シタル違法裁判ナリ事實ノ認定ハ刑事訴訟法第三百三十六條ノ規定ニ基キ證據ニ依リテ之ヲ行ハサルヘカラス事實ヲ認定シタル證據ハ必ス之ヲ判決書ニ證據ヲ表示スルニハ判決書ノミニ依リテ證據ノ全貌ヲ知悉シ得ルモノナラサルヘカラス原審判決書ニハ證據ハ檢事聽取書公判調書ノ中ニ存在スルモノナルコトヲ記シテ其ノ證據ヲ判決書ニ表示セサルモノナルカ故ニ原審判決ニ於ケル事實ノ認定ハ證據ニ依リテ之ヲ行ヒタルモノト言フコトヲ得ス仍テ原審判決ハ刑事訴訟法第三百三十六條違反ノ裁判タルヲ免レサルナリト謂フニアレトモ裁判公開ノ原則ハ裁判事件ノ審理並ニ裁判ノ言渡ヲ一般公衆ニ解放シタル公判廷ニ於テ爲スヘキコトヲ謂ヘルモノニシテ所論ノ如ク裁判書ノ内容ニ關スルモノニアラス而シテ有罪ノ言渡ヲ爲ス裁判書ニ

【要旨第四】

賄賂要求罪ノ成立ト被要求者ノ非應諾意思 町村長ノ助役推應前ニ於ケル助役候補者ノ非公式推選方法ノ違法性 助役決定ノ準備ノ爲ニスル行為ト町村會議員ノ職務 裁判公開ノ原則ト裁判書 將來ノ職務ニ關スル賄賂要求罪

ハ罪ト爲ルヘキ事實ヲ記載シ及之ヲ認メタル理由ヲ證據ニ依リ説明スルコトヲ要スルモ此ノ證據説明ヲ記載スルニ當リテハ引用證據カ書證物證人證等何レノ種類ニ屬スルヤ又是等ノ證據ニシテ記録中ニ存在スルモノニ付テハ其ノ内容如何ニ付テハ記録ノ記載ヲ援用スレハ足り一々其ノ具體的内容ヲ記録ヨリ移記スルコトヲ要スルモノニアラス而シテ原判決ヲ閱スルニ對スル原判決認定事實ニ對スル證據説明トシテ所論ノ如ク「公判廷ニ於ケル判示同趣旨ノ供述」ナル文詞ヲ用ヒタル部分アルモ是レ當該供述カ公判廷ニ於テ爲サレタルコトヲ說示シタルモノニシテ當該供述ノ存在カ公判調書ノ記載ニ依リ認メ得ル以上何等證據説明ニ違法不備アルモノト爲スヲ得ス又右認定事實ニ對スル證據説明トシテ檢事ノ聽取書ヲ援用シタルモノアレトモ所論ノ如ク其ノ具體的内容ヲ示サシテ證據ニ供シタルモノアルコトナシ尙又原判決證據説明中ニ所論ノ如ク「除外部分」ナル文詞ヲ使用シアレトモ其ノ意味判文上明白ニシテ所論ノ如キ不都合アルコトナシ從テ原判決ニ理由不備ノ違法アルモノト爲スヲ得ス論旨何レモ理由ナシ

被告人黒瀬本四郎辯護人田坂貞雄上告趣意書第六點原判決其ノ第三事實トシテ「被告人黒瀬本四郎佐伯寅次郎徳永一義ハ(ロ)第一(一)(イ)掲記日時場所ニ於テ當時被告人野口勇次朗ノ後任助役タラントスル意向アリタル同村役場書記黒瀬友四郎ニ對シ同人ヲ後任助役トシテ援助スルコトヲ條件トシテ村會ニ於テ其ノ盡力ヲ爲ス報酬トシテ金三百圓ヲ要求センコトヲ謀議シ茲ニ三名共謀ノ上其ノ

頃被告人黒瀬本四郎ヲシテ同被告人居部落黒瀬友四郎方ニ到ラシメ同人ニ對シ村會ニ於テ同人ヲ後任助役ニ決定スル様盡力スルニ付其ノ報酬トシテ金三百圓ヲ交付セラレ度キ旨申込マシメ以テ夫々其ノ村會議員タル職務ニ關シ賄賂ヲ要求シト認定シ被告人本四郎ヲ賄賂要求罪ニ問擬處斷シタリ然レトモ前點ニ於テ述ヘタル如ク町村助役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ定ムヘキコトハ町村制ノ明定スル所ニシテ助役ハ村會議員ノ選舉スヘキモノニ非サルヲ以テ被告人本四郎カ黒瀬友四郎ニ對シ村會ニ於テ同人ヲ後任助役ニ決定スル様盡力スル旨申入レタリトスルモ未タ村長ヨリ同人ヲ助役トシテ推薦シ居ラサル以上被告人本四郎等ノ申込ハ其ノ村會議員ノ職務ニ關スル事項以外ニ於テ一個人トシテノ盡力ヲ約シ之カ報酬ヲ要求シタルコトトナリ賄賂罪ヲ構成スヘキモノニアラス從テ被告人本四郎ノ本件行爲ヲ同罪ニ問擬スルニハ當時判示村村長ヨリ判示黒瀬友四郎ヲ助役ニ推薦シ村會ノ決定ヲ求メ居リタルコトヲ事實理由ニ明示スルコトヲ要ス然ルニ此ノ事實ヲ理由ニ明示セス輒ク被告人本四郎ヲ賄賂要求罪ニ問擬處斷シタルハ理由不備ノ違法アルカ又ハ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ破毀スヘキモノト信スト謂フニ在レトモ

【要旨第五】 賄賂要求罪ハ公務員カ其ノ地位ニ於テ將來執行スヘキ職務行爲ニ關シテ賄賂ヲ要求スル場合ニモ成立スルモノニシテ職務行爲ノ内容タル事實カ賄賂要求ノ當時ニ現存スルコトハ同罪ノ成立要件ニ屬セサルカ故ニ原審カ所論判示事實ヲ認定シ之ニ對シ刑法第九十七條第一項ノ賄賂要求罪ニ問擬シタルハ

賄賂要求罪ノ成立ト被要求者ノ非應請意思  
町村長ノ助役推薦前ニ於ケル助役候補者ノ非公式像選方法ノ適法性  
助役決定ノ準備爲ニスル行爲ト町村會議員ノ職務裁判公開ノ原則ト裁判書  
將來ノ職務ニ關スル賄賂要求罪

正當ニシテ擬律錯誤又ハ事由不備ノ違法アルモノト爲スヲ得ス論旨ハ理由ナキニ歸ス

同第七點原判決ハ第三事實トシテ 被告人黒瀬本四郎 佐伯寅次郎 徳永一義ハ〇〇〇〇〇〇(ロ)第一(一)(イ)掲記ノ日時場所ニ於テ當時被告人野口勇次郎ノ後任助役タラントスル意向アリタル同村役場書記黒瀬友四郎ニ對シ同人ヲ後任助役トシテ援助スルコトヲ條件トシテ村會ニ於テ其ノ盡力ヲ爲ス報酬トシテ金三百圓ヲ要求セムコトヲ謀議シ茲ニ三名共謀ノ上其ノ頃被告人黒瀬本四郎ヲシテ同被告人人居部落黒瀬友四郎方ニ到ラシメ同人ニ對シ村會ニ於テ同人ヲ後任助役ニ決定スル様盡力スルニ付其ノ報酬トシテ金三百圓ヲ交付セラレタキ旨申込マシメ以テ夫々其ノ村會議員タル職務ニ關シ賄賂ヲ要求シト認定シタリ然ルニ其ノ證據説明ノ部分ニハ「黒瀬友四郎ニ對スル司法警察官聽取書ニ〇〇〇〇〇〇其ノ頃更ニ黒瀬本四郎外一名カ來リ本四郎ヨリ佐伯祐一方ニ於テ助役問題ノ話カ出テ結局私ヲ推ストスルナレハ金三百圓ヲ出セ其ノ金ハ野口勇次郎カ失職スルカラ見舞金ニモ遣ルシ又其ノ晩集マツタ村會議員佐伯寅次郎 玉井勝次郎 徳永一義等ニ分配スルノテアルカ此ノ金ヲ出シテ貰ヒタイト申込ミマシタトノ供述記載」ト説明シアリ之ニヨレハ被告人本四郎ハ黒瀬友四郎ニ對シ「黒瀬友四郎ヲ助役ニ推スコトニスルナレハ三百圓出セ」ト申入レタリト云フニ止リ前級原判決認定ノ如ク被告人本四郎等ハ友四郎ニ對シ「村會ニ於テ同人ヲ後任助役ニ決定スル様盡力スルニ付其ノ報酬トシテ金三百圓ヲ交付セラレタキ旨申込ミ」タリトノ證據ハ之ヲ舉示スル所ナシ而シテ被告人本四郎ハ村會ニ於テ

(村長ノ助役推薦村會) 黒瀬友四郎ヲ後任助役ニ決定スル様盡力スヘキ旨申入レ其ノ報酬ヲ要求シタリトスレハ賄賂要求罪ヲ構成スヘキモ原判決證據説明ノ如ク單ニ黒瀬友四郎ヲ助役ニ推ストスルナレハ三百圓ヲ出セト云フノミニシテ未タ以テ村會議員ノ職務ニ關スルモノト謂フ能ハサルヲ以テ同罪ヲ構成セサルコトトナル然ラハ原判決ハ同罪ノ成否ニ關スル重要ノ事項ニ關シ證據ニ基カスシテ事實ヲ認定シタル違法アルモノニシテ破毀スヘキモノト信スト謂フニアレトモ

原判示第三ノ(ロ)ノ事實ニ對スル證據トシテ原判決ノ舉示シタル黒瀬友四郎ニ對スル司法警察官ノ聽取書中ニ所論ノ供述記載アリテ其ノ趣旨ハ村會議員トシテ黒瀬友四郎ヲ助役ニ推スコトヲ條件トシテ金員ヲ要求シタリト謂フニアルモ如斯或職務ニ關スル事項ヲ行フコトヲ條件トシテ金員ノ交付ヲ求ムルコトハ以テ賄賂ノ要求ト爲スニ妨ナキ所ナルカ故ニ原審カ右供述記載ニ依リ判示賄賂要求罪ヲ認定シタルハ當然ニシテ之ヲ以テ證據ニ依ラスシテ事實認定ヲ爲シタル違法アリト爲スヲ得ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事平井彦三郎關與

賄賂要求罪ノ成立ト被要求者ノ非應諾意思 町村長ノ助役推薦前ニ於ケル助役候補者ノ非公式豫選方法ノ適法性 助役決定ノ準備ノ爲ニスル行為ト町村會議員ノ職務 裁判公開ノ原則ト裁判書 將來ノ職務ニ關スル賄賂要求罪

○再審請求棄却決定ニ對スル再抗告事件

(昭和九年(三)第三三三號  
同年十一月二十九日第一刑事部決定 棄却)

【被告人】 草野 猛

【原 審】 宮城控訴院

○判示事項

第二審トシテ判決ヲ爲シタル地方裁判所ノ再審請求棄却決定ニ對スル抗告ト管轄裁判所

○決定要旨

地方裁判所カ第二審トシテ爲シタル判決ニ對スル再審請求ニ付棄却ノ決定ヲ爲シタル場合ニ於テハ之ニ對スル抗告裁判所ハ控訴院

ニ非スシテ大審院ナリトス

【參照】 裁判所構成法第五十條第一ノ(ロ) 大審院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 終審トシテ

(イ) (省略)

(ロ) 地方裁判所ノ第二審トシテ爲シタル決定及命令並ニ控訴院ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

○事實

福島地方裁判所カ第二審トシテ爲シタル判決ニ對シ抗告人ヨリ同裁判所ニ再審ノ請求ヲ爲シ同裁判所ハ其ノ請求ヲ理由ナシトシテ棄却ノ決定ヲ爲シタルニ依リ抗告人ハ之ヲ不服トシ宮城控訴院へ即時抗告ヲ爲シタルモ同控訴院ハ之カ管轄權ナシトシテ該抗告棄却ノ決定ヲ爲シタルトコロ抗告人ハ之ニ對シ更ニ本院ニ即時抗告ヲ爲シタルモノナリ

○主 文

本件抗告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

案スルニ福島地方裁判所カ第二審トシテ抗告人ニ對シ爲シタル各判決ニ對シ同人ヨリ同裁判所ニ再審ノ請求ヲ爲シタルトコロ同裁判所ハ執レモ其ノ請求ヲ理由ナシトシテ棄却ノ決定ヲ爲シタルヲ以テ抗

第二審トシテ判決ヲ爲シタル地方裁判所ノ再審請求棄却決定ニ對スル抗告ト  
管轄裁判所

【要旨】

告人ハ之ニ對シ宮城控訴院へ即時抗告ヲ爲シタルモノナルコトハ記録ニ徴シ明瞭ナリ然リ而シテ再審請求ハ各審級ノ確定判決ニ對シ事實認定ノ不當ヲ理由トシテ爲ス攻撃方法ナルカ故ニ之ニ關スル裁判ハ原則トシテ再審ヲ求メラレタル判決ノ審級ト同一ナリトス本件ハ福島地方裁判所カ第二審トシテ爲シタル判決ニ對スル再審ノ請求ナレハ之ニ付同裁判所ノ爲シタル決定ハ右ノ理由ニ依リ第二審トシテ爲サレタル裁判ナリト謂フヘク從テ該裁判ニ對スル抗告裁判所カ裁判所構成法第五十條第一ノロノ規定ニ依リ大審院ナルコトハ疑ヲ容レサルコトコロニシテ宮城控訴院ハ本抗告事件ニ付管轄權ヲ有セサルモノトス刑事訴訟法第四百六十九條第三號ニ於テ再審ノ請求ニ付テノ決定ニ對スル抗告ニ付更ニ即時抗告ヲ爲スヲ許容シタルコト洵ニ所論ノ如シト雖右規定ハ上級審ヲ有スル場合ニ限ルモノニシテ大審院カ抗告裁判所トシテ決定ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ適用ヲ見サル法意ナルコトハ本院ノ夙ニ判例トシテ肯認スルトコロナリ然レハ右規定アルノ故ヲ以テ地方裁判所カ第二審トシテ爲シタル判決ニ對スル再審請求ニ付同裁判所ノ爲シタル決定ハ所論ノ如ク第一審トシテ爲サレタル裁判ナリト斷定セサルヘカラサル理由ナク又裁判所構成法ノ前記規定中ニハ本件ノ場合ヲ包含スルモノナルコト疑ノ餘地ナキヲ以テ此ノ點ニ關スル所論モ亦理由ナキモノトス然レハ則宮城控訴院ハ本件抗告ニ付管轄權ヲ有セサルモノニシテ之ト同趣旨ニ出テタル原決定ハ正當ナリ仍テ本件抗告ヲ理由ナシトシ刑事訴訟法第四百六十六條第一項後段ニ則リ主文ノ如ク決定ス

檢事佐々波與次郎關與

○放火及放火未遂被告事件

(昭和九年(九)第一二七三號 棄却)  
(同年十二月三十日第四刑事部判決)

【上告人】 被告人 松宮藤治郎 辯護人 塩原 徹  
 【第一審】 大阪地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

放火罪ノ既遂

○判決要旨

人ノ住居ニ使用スル建造物ヲ燒燬スル罪ノ既遂タルニハ火力犯人ノ供用シタル媒介物ヨリ建造物ノ一部ニ延燒シ爾後該媒介物ノ火力ヲ借ラサルモ獨立シテ建造物燒燬ノ作用ヲ繼續シ得ル状態ニ在

放火罪ノ既遂

ルヲ以テ足ルモノトス

一六三三三 (1101)

【参照】 刑法第八條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物汽車電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役四年ニ處シ訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ心神耗弱者ナル處父峯松ノ家業タル米穀商ヲ手傳ヒ居タルモ近時營業振ハス昭和八年四月頃内縁ノ妻龜子ヲ離別スルノ止ムナキニ至リ其ノ實家ヨリ諸種ノ言掛ヲセラレ加之嚴格度ニ過クル父峯松ヨリ日毎ニ叱責ヲ受ケ心中怏々タルモノアリシ折柄

第一、昭和八年十一月三日午前零時半頃酒氣ヲ帶ヒテ歸宅スル途中豫テヨリ不仲ノ間柄ニシテ不快ノ念ヲ懷キ居タル肩書居町木炭商吉田金治郎方南側街路ニ差蒐リタル際偶同家ニ放火シテ燒燬セムコトヲ思ヒ著キ喫煙用燐寸ヲ取出シ同家南側軒下ニ積ミアリタル炭俵ニ點火シタルモ家人等ニ消止メラレタル爲炭俵ノ一部ヲ燒キタルニ止マリ右住宅燒燬ノ目的ヲ遂ケス

第二、被告人方營業ノ振ハサルニ反シ同町三百三十番地ノ一木炭米穀商多賀井敬次方ノ營業繁昌シ居ルヲ豫テヨリ嫉視シ居リタルカ同月九日午前二時過頃酒氣ヲ帶ヒテ歸宅スル途中偶同人方前街路

ニ差蒐リ反感ニ驅ラレ同家ニ放火シテ燒燬セムコトヲ決意シ所携ノ燐寸ヲ以テ同家北側軒下ニ積ミアリタル炭俵ニ點火シ因テ同家ノ柱、庇及庇受ノ一部ヲ燃燒セシメテ同住宅ヲ燒燬シ

三、密ニ放火スルコトニ興味ヲ覺ヘ人ノ住宅燒燬ノ結果ヲ豫見シナカラ

(イ) 同月十二日午前一時半頃酒氣ヲ帶ヒテ歸宅スル途中同市同區春日出町下二丁目三番地木炭商門積戸三郎方表軒下ニ積ミアリタル炭俵ニ所携ノ燐寸ヲ以テ點火シタルモ偶通行中ノ他人ニ發見セラレ附近ノ人ニ消止メラレタル爲炭俵ヲ燒キタルニ止マリ右住宅燒燬ニ至ラス

(ロ) 同月二十九日午前一時頃酒氣ヲ帶ヒテ歸宅スル途中右同丁目二番地本炭商牧野ステ方表入口ニ積ミアリタル炭俵ニ所携ノ燐寸ヲ以テ點火シタルモ隣人等ニ消止メラレタル爲炭俵ヲ燒キタルニ止マリ右住宅燒燬ニ至ラス

(ハ) 同年十二月六日午前一時頃酒氣ヲ帶ヒテ歸宅スル途中同市同區春日出町二百七十四番地人家ニ隣接セル建築材料置場ノ鉋屑ニ所携ノ燐寸ヲ以テ點火シ森新吉所有ニ係ル鉋屑及建築用材木ノ一部ヲ燒キ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタルモノニシテ

以上ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示第一、第三ノ(イ)(ロ)ノ各所爲ハ刑法第一百十二條第八條ニ判示第二ノ所爲ハ同法第八條ニ判示第三ノ(ハ)ノ所爲ハ同法第一百十條第一項ニ各該當シ以上ハ連續犯ナルヲ

以テ同法第五十五條第十條ニ則リ重キ同法第八條ノ刑ニ從ヒ其ノ所定ノ有期懲役刑ヲ選擇シテ處斷スヘキトコロ心神耗弱者ノ行爲ナルヲ以テ同法第三十九條第二項第六十八條第三號ニ則リ減輕シタル刑期內ニ於テ被告人ヲ懲役四年ニ處スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人田村堅三上告趣意書原判決ハ上告人ニ對シ懲役四年ノ實刑ヲ科シタルハ刑ノ量定甚シク過重ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノトス凡ソ限定責任者ニ對スル科刑ハ單ニ社會的侵害ノ豫防ニ加フルニ主觀的ニ犯人ノ個人的事情ヲ深ク考慮シコレカ危險ノ隔離ト惡性ノ改善治療トヲ其ノ目的トナスハ論ヲ俟タス本件ニ於テ原判決ハ上告人カ心神耗弱者ナルコトヲ認メナカラ猶懲役四年ヲ以テ處斷シタルハ其ノ犯行數回ニ互レルタメナラント思料セラルル處ナレトモ上告人ノ犯罪ハ普ネ未遂ニシテ既遂ト認メラレタル事實ト雖幸ニ其ノ損害極メテ少ナク全部ヲ通シ本件犯罪ニヨル法益ノ侵害甚タ輕微ナリト謂ハサルヘカラス且其ノ犯情ニ付原判決ノ示ストコロニヨレハ「被告人ハ心神耗弱者ナル處父峯松ノ家業タル米穀商ヲ手傳ヒ居タルモ近時營業振ハス昭和八年四月頃內縁ノ妻龜子ヲ離別スルノ

止ムナキニ至リ其ノ實家ヨリ諸種ノ言掛ヲセラレ加之嚴格度ニ過クル父ノ峯松ヨリ日毎ニ叱責ヲ受ケ心中怏々タルモノアリシ折柄云々」トアリ遂ニ一時的的精神異狀ニ基因シ本件犯行ニ出テタリトセラルルモ更ニ上告人ハ其ノ父ノ系統ニ精神病ノ遺傳ヲ有スルコトハ原審公判ニ於ケル證人松宮峯松ノ證言ニヨリ推知スルニ難カラス遺傳精神病ノ再現ヲ上告人ニ付認ムヘキ證憑亦記録ヲ通シ群ヲナシテ存在ス加フルニ上告人ノ犯行ハ常ニ飲酒酩酊ノ際ニ行ハレ酒精ノ作用ニ影響セラルルコト多ク就中第三事實ノ行爲ノ如キハ全然一種ノ病的作用ト認ムルノ外ナシ更ニ上告人ノ精神狀態ニ付テハ原判決ハ其ノ證據説明中「被告人カ心神耗弱者ナル點ハ現在精神低格者(魯鈍)ナリト思考サレ昭和八年十一月三日頃ヨリ同年十二月六日頃ニ至ル期間モ同様ノ狀態ニ在リシコトハ明ナルモ特ニ當時被告人ノ精神狀態ハ現在ヨリモ不良ナリシカ如シ」トアルニ徵シ右鑑定書ニヨレハ現在モ精神耗弱ノ狀況ニアルコトヲ認メラレ又犯行當時ノ精神狀態ハ現在ヨリモ不良ナリシコトヲ認メラル然ルニ原審公判ニ於ケル上告人ノ供述ヲ按スルニ「私ハ刑務所ニ收容セラレテカラ間モナク夜寢テモ寢ラレマセヌシ夢モ見マスシ脱腸モ惡クアリマスカラ先生ニ相談シマスト病監ニ來イト言フノテ病監ニ連レ行カレタノテアリマス尙監房テ寢テカラ大聲ヲ出スカラト言フテ同房ノ者カラ注意サレタ様ナ事モアリマシタ」トアルニ徵シ現在上告人ノ體力又ハ精神力ヲ以テセハ未決監ニ於テ通常監房內ノ生活ニ堪ヘ得サルコト明ナリ果シテ然ラハ現在ヨリモ不良ナリシ本件犯行當時ニ於ケル上告人ノ精神障礙程度カ實際上心神喪失狀



態ニ近カリシモノナルヲ窺知スルニ難カラス上告人ノ家庭ハ貸家ヲ始メ相等不動産ヲ有スル資産家ニテ上告人ハ其ノ長男ナルコト記録ノ示ストコロナリ從テ今後上告人ニ對スル保護監督竝ニ醫療ノ方法ヲ講スヘキ十分ノ準備ヲ有セリ然ルニ拘ラス其ノ體力ト精神力トヲ以テセハ現ニ病監ニ收容セサルヘカラサル上告人ニ對シ既ニ原審カ精神障礙ヲ認メナカラコレカ治療改善ノ途ヲ閉シ刑罰ノ負擔ニ堪エサル者ニ對シ長期間ニ互ル刑罰ノ慘ヲ以テ臨マントナスハ其ノ理由ヲ發見スルニ苦シム所ニシテ刑ノ目的ニ副ハサルコト甚シト謂ハサルヘカラス此ノ點ニ於テ原判決ハ到底破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

記録ヲ精査スルニ被告人カ心神喪失者ナリトハ認メ難ク又諸般ノ情狀ヲ案スルニ原判決ノ被告人ニ對スル科刑甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルヲ見ス論旨理由ナシ

辯護人鹽原徹上告趣意書第一點原判決事實理由ヲ查スルニ其ノ第一第三ノ(イ)(ロ)(ハ)ノ各所爲ハ何レモ放火未遂ヲ以テ問擬セルモ第二ニ付テハ之テ既遂トシテ所斷シ而シテ其ノ事實トシテ「被告人方營業ノ振ハサルニ反シ同町三百三十番地ノ一木炭米穀商多賀井敬次方ノ營業繁昌シ居ルテ豫テヨリ嫉視シ居リタルカ同月九日午前二時過頃酒氣ヲ帶ヒテ歸宅スル途中偶同人方前街路ニ差蒐リ反感ニ驅ラレ同家ニ放火シテ燒燬セムコトヲ決意シ所携ノ燐寸ヲ以テ同家北側軒下ニ積ミアリタル炭俵ニ點火シ因テ同家ノ柱、庇及庇受ノ一部ヲ燃燒セシメテ同住宅ヲ燒燬シ」ト判示シ而シテ之ニ刑法第八條ヲ適

用シタリ右認定ノ事實ニ依レハ其ノ損害ノ程度極メテ輕微ナルモノト云フヘク建物トシテノ效用ニ何等影響ナキ程度ノモノト然ルニ之ヲ既遂トシテ斷セルハ擬律錯誤ノ違法アリ破毀セラルヘキモノト信ス抑モ放火犯ノ既遂要件ニ關シテハ目的物ノ效用ヲ喪失セシムルヲ要ストナス說(效用毀滅說)ト火力媒介物ヲ離レテ目的物ニ延燒シ獨立シテ燃燒ヲ繼續シ得ル狀態ニ達スレハ足ルトナス說(獨立燃燒說)トアリ御院從來ノ判例ハ大體後說ヲ採用セラルル如キモ前說ヲ正當ト信ス尤モ御院大正十五年(レ)第一一七五號御院刑事第一部ノ判決ニハ「……又其ノ火勢既ニ人ノ住居セサル建物燒毀罪ノ程度ニ達シタルトキト雖右建物ハ住宅燒毀ノ媒介タルニ過キササルヲ以テ住宅ニ延燒シ且ツ之カ燒燬ノ程度ニ至ラサル限りハ猶住宅燒燬罪ノ未遂罪ヲ構成スルニ過キスシテ……」トアリ目的物ニ延燒スルモ未遂ノ場合アルコトヲ肯定セラレタルハ不肖ノ諍同スル處ナリ蓋シ法文ノ解釋ハ其ノ時代ニ於ケル文字ノ普通ノ用法ニ從フヲ原則トス刑法第八條以下ニハ「火ヲ放テ……」ト燒燬シタルモノハ……」ト規定セリ燒燬トハ燃燒作用ニヨル物ノ毀滅ヲ意味ス「燬」ノ字義ニ付テハ二、三ノ意義アル如キモ明治十八年出版石川鴻齋編日本大玉篇ニ依レハ「許燬切音毀火焚壞也」トアリ火ニヨル毀壞ナリトナス之ニヨラサルモ文字ノ構造ヨリシテ何人モ火力ニヨル物ノ燬滅ノ意ニ解スルヲ相當トシ立法者モ亦此意義ニ用キタルコトハ容易ニ推斷シ得ヘキ處ニ屬ス或ハ放火ノ公共危險性ヨリ我國ノ如キ建物ノ大部分カ可燃質物ヨリ成ル現情ニアリテハ獨立燃燒說ヲ可ナリトナサンモ斯クシテハ刑法力第八條ト第十

條トヲ區別シタル趣旨ニ反スル結果ヲ見ルト同時ニ放火犯ノ未遂ノ範圍ヲ過當ニ縮少シ時トシテハ媒介物カ強力ノ引火性ノ物質ナレハ假令目的物ニ延燒セサルモ却テ危險性著シキヲ以テ既遂トセサルヘカラサル不都合ヲ生セン歐米諸國ニアリテハ建物ノ構造カ多ク不燃性ナルヲ以テ其ノ一部分ニ獨立燃燒ヲ始ムル程度ヲ以テ既遂トシ敢テ不合理ナラサルモ我國ニ於テハ住宅放火罪ノ未遂ヲ想定スルコトヲ得ス刑法第百十條ノ既遂トナル場合多ク刑法カ住宅放火罪ヲ重ク規定シタル趣旨ニモ反ス以上ノ理由ニヨリ原判決カ些少ナル損害ノ事實即チ建物トシテノ效用ヲ失ハサル程度(明示セサルモ)ノ事實ヲ認定シナカラ之ヲ既遂トセルハ法ノ適用ヲ誤マレルモノナリトスト云フニ在レトモ

【要旨】

人ノ住居ニ使用スル建造物ヲ燒燬スル罪ノ既遂タルニハ必スシモ該建造物ノ全部若ハ其ノ主要部分ヲ燒失シ建造物トシテノ效用ヲ喪失セシムルヲ要セス犯人ノ供用シタル媒介物ヨリ建造物ノ一部分ニ延燒シ爾後該媒介物ノ火力ヲ借ラサルモ獨立シテ建造物燒燬ノ作用ヲ繼續シ得ル狀態ニ在ルトキヲ以テ放火罪ノ既遂ナリト謂フヲ得ヘシ蓋火ハ建造物ノ一部分ニ延燃シ爾後獨立シテ燒燬ノ作用ヲ繼續スルニ於テハ該建造物ヲ烏有ニ歸セシムルコト必然ナルヲ以テ此ノ狀態ヲ出現シタルトキハ即チ公共的の法益ヲ侵害スルモノニ外ナラサレハナリ原判決第二ノ事實ハ論旨所掲ノ如クニシテ措辭妥當ヲ缺ク憾ナキニ非スト雖建造物ノ柱、庇及庇受ノ一部ヲ燃燒セシメタル事實ノ判示アリ火ハ獨立シテ建造物燒燬ノ作用ヲ繼續セルモノナルコト其ノ引用シタル證據ニヨリ之ヲ推知スルヲ得ヘキヲ以テ原院カ住宅放火罪

ノ既遂トシテ刑法第百八條ヲ適用シ未遂ヲ以テ論セサリシハ正當ナリ論旨引用ノ本院判例ハ本件ニ適切ナラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事柴領文關與

○有價證券虛偽記入行使詐欺背任業務上橫領被告事件

(昭和九年(九)第一二九七號  
同年十二月三日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 金森 俊 二 辯護人 相澤 隼人  
外一名 伊藤 嘉信

【第一審】 安濃津地方裁判所 【第二審】 名古屋控訴院

○ 判 示 事 項

詐欺ニ因ル荷爲替割引金ヲ當座預金ニ振替ヘシメタル行爲ノ擬律

詐欺ニ因ル荷爲替割引金ヲ當座預金ニ振替ヘシメタル行爲ノ擬律  
○ 判決要旨

虚偽記入ヲ爲セル貨物引換證ヲ真正ナルモノノ如ク装ヒ銀行員ヲ欺罔シ之ヲ擔保トシテ荷爲替ヲ取組ミ其ノ割引金ヲ同銀行ニ於ケル當座預金ニ振替ヘシメタル行爲ハ刑法第二百四十六條第二項ニ該當ス

【參照】 刑法第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

○ 事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人俊二ヲ懲役一年二月被告人清一ヲ懲役一年ニ處ス各被告人ニ對シ第一審ニ於ケル未決拘留日數中六十日ヲ各本刑ニ算入ス押收ニ係ル證第二號ノ一竝ニ證第五十一號ノ各虚偽記入ノ部分ハ孰レモ之ヲ沒收ス訴訟費用中豫審ニ於ケル證人大平泰玉崎徳太郎須藤萬夫第二審證人松岡仁市安島判三ニ給與シタル分ハ被告人金森俊二ノ單獨負擔トシ其ノ餘ハ全部被告人兩名ノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人金森俊二ハ昭和二年三月頃三重縣桑名郡桑名町省線桑名驛前ノ桑名合同運送株式會社ノ取締役ニ選任セラレ爾來事實上專務取締役トシテ(其ノ後專務取締役トナル)又昭和四年十一月ヨリ同會社内ニ事務所ヲ有スル伊勢電鐵運送株式會社ノ專務取締役ニ選任セラレ爾來右兩會社ノ業務一切ヲ監督處理スルノ任務ヲ擔當シ被告人近藤清一ハ大正十年頃ヨリ肩書住居ニ於テ製油業ヲ開始シタルモ大正十五年頃失敗ヲ爲シ取引銀行ヨリ荷爲替取組ヲ拒絶セラレ營業ノ繼續困難ト爲リタル處昭和二年六月頃其ノ取引先ナル岐阜市油民商會事林民治ノ紹介ニ依リ被告人俊二ニ依頼シ同人ノ監督援助ヲ受クルニ至リ漸ク其ノ營業ヲ持續スルヲ得タリシモ昭和四年末頃政府カ金解禁ノ豫告ヲ爲スニ及ヒ爲替相場ノ變動ト物價ノ低落ニ因リ著シク損失相嵩ミ營業資金ニ窮シタル結果

第一、橫領事實省略

第二、被告人兩名ハ共謀ノ上虚偽ノ貨物引換證ニヨリ金融ヲ圖ランコトヲ企テ行使ノ目的ヲ以テ

(一) 昭和六年六月三十日桑名合同運送株式會社ニ於テ被告人俊二ハ同會社ノ貨物引換證用紙ヲ使用シ被告人清一ヨリ正荏油五百罐ノ託送ナキニ拘ラス右荷物ノ託送ヲ受ケタル旨ノ同會社名義ノ貨物引換證(證第五十一號)一通ヲ作成シテ貨物引換證ニ虚偽ノ記入ヲ爲シ即日被告人清一ハ之ヲ株式會社大垣共立銀行桑名支店ニ持參シ恰モ真正ナル貨物引換證ノ如ク装ヒ之ヲ擔保トシテ同銀行支店ニ交付シ同支店ト荷爲替取組ヲ爲シテ行使シ因テ同銀行支店員ヲ欺罔シテ割引名義ノ下

詐欺ニ因ル荷爲替割引金ヲ當座預金ニ振替ヘシメタル行爲ノ擬律

ニ金二千三百七十五圓ヲ自己等(桑名合同運送株式會社名義)ノ當座預金ニ振替ヘシメテ之ヲ騙取シ

(二) 同年九月十五日右會社ニ於テ前同様被告人俊二ハ被告人清一ヨリ正佳油五百六十罐ノ託送ナキニ拘ラス右荷物ノ託送ヲ受ケタル旨ノ同會社名義ノ貨物引換證(證第二號ノ一)一通ヲ作成シテ有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シ即日被告人清一ハ四日市銀行桑名支店ニ於テ前同様ノ方法ニテ同支店ニ交付シテ之ヲ行使シ因テ同銀行支店員ヲ欺罔シ割引名義ノ下ニ金二千五百二十圓ヲ自己等(被告人金森俊二名義)ノ當座預金ニ振替ヘシメテ之ヲ騙取シ

第三、背任事實省略

法律ニ照スニ被告人金森俊二ノ所爲中判示第一ノ各業務上横領ノ點ハ各刑法第二百五十三條ニ判示第二ノ各貨物引換證ニ各虛偽ノ記入ヲ爲シタル點ハ各同法第六十二條第二項第一項ニ各其ノ行使ヲ爲シタル點ハ各同法第六十三條第一項ニ各詐欺ノ點ハ各同法第二百四十六條第一項ニ判示第三ノ各背任ノ點ハ同法第二百四十七條ニ夫々該當スルトコロ判示第二第三ノ各所爲ハ各共犯ニ付各同法第六十條ヲ適用シ尙右各業務上横領各有價證券虛偽記入各其ノ行使各詐欺並各背任ハ夫々連續犯ナルカ故ニ各同法第五十五條ヲ適用シ又判示第二ノ右虛偽記入ノ有價證券ノ行使ハ其ノ虛偽記入ノ結果ニシテ詐欺ノ手段タル關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ其ノ最モ重キ判示第二ノ(二)ノ

虛偽記入有價證券行使罪ノ刑ニ從フヘク而シテ以上業務上横領罪、有價證券虛偽記入行使詐欺罪並背任罪ハ同法第四十五條前段ニ該ル併合罪ナルヲ以テ右背任罪ニ付テハ所定ノ懲役刑ヲ選擇シ同法第四十七條本文第十條ニ基キ其ノ最モ重キ虛偽記入有價證券行使罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役一年二月ニ處スヘク被告人近藤清一ノ所爲中判示第二ノ各貨物引換證ニ各虛偽ノ記入ヲ爲シタル點ハ各刑法第六十二條第二項第一項ニ各其ノ行使ヲ爲シタル點ハ各同法第六十三條第一項ニ各詐欺ノ點ハ各同法第二百四十六條第一項ニ判示第三ノ各背任ノ點ハ各同法第二百四十七條ニ夫々該當スルトコロ右各背任ノ點ハ他人ノ爲ニ其ノ事務ヲ處理スル被告人金森俊二ノ各犯罪行為ニ加功シタルモノニ付各同法第六十五條第一項ヲ其ノ他ハ各共犯ニ係ルヲ以テ各同法第六十條ヲ夫々適用シ又右各有價證券ノ虛偽記入各其ノ行使各詐欺並各背任ハ夫々連續犯ナルカ故ニ各同法第五十五條ヲ適用シ尙右虛偽記入有價證券ノ行使ハ其ノ虛偽記入ノ結果ニシテ詐欺ノ手段タル關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ其ノ最モ重キ判示第二ノ(二)ノ虛偽記入有價證券行使罪ノ刑ニ從フヘク而シテ右有價證券行使詐欺罪ト背任罪トハ同法第四十五條前段ニ該ル併合罪ナルヲ以テ後者ニ付キテハ所定ノ懲役刑ヲ選擇シ同法第四十七條本文第十條ニ基キ其ノ重キ虛偽記入有價證券行使罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役一年ニ處スヘク尙各被告人ニ對シテハ同法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル未決勾留日數中夫々六十日ヲ右本刑ニ算入スヘク押收物

詐欺ニ因ル荷爲替割引金ヲ當座預金ニ振替ヘシメタル行為ノ擬律

件中主文特記ノモノハ本件虚偽記入有價證券行使罪ノ組成物件ニシテ何人ノ所有ニモ屬セサルカ故ニ同法第十九條第一項第一號第二項ニ基キ孰レモ之ヲ沒收シ訴訟費用中豫審ニ於ケル證人大平泰 玉崎 德太郎 須藤萬夫當審證人松岡仁市 安島判三ニ給與シタル分ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ被告人金森俊二ヲシテ之ヲ負擔セシメ其餘ハ同法第二百三十七條第一項第二項第二百三十八條ニ則リ被告人兩名ヲシテ連帶シテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人相澤隼人 六鹿了上告趣意書第三點原判決ハ法律ノ適用ヲ誤リタル違法アリ一、原審第八回公判調書ニ依レハ昭和九年七月十四日名古屋控訴院刑事部法廷ニ於テ云々裁判長ハ判決言渡期日ヲ來ル八月十三日午前九時ニ延期スト告ケ關係人ニ出頭ヲ命シ閉廷シタリ(中略)裁判長判事西岡國吉トアレトモ昭和九年八月十三日判決ヲ言渡サレタル形跡ナシ而シテ第九回公判調書ニ依レハ判決言渡期日ニ非サル昭和九年八月二十日裁判長トシテ以前ニ變ル判事齋藤省一郎判事大野幸雄判事影山正雄列席ノ上期日變更ノ手續ヲ爲サス直ニ判決ヲ言渡シタルモノナリ右ハ法律上違法ナルヲ免レス二、原判決ハ判示第一事實ニ關シ金森俊二ノ業務上横領罪ナリトシテ之ヲ認定シタレトモ判示ノ如ク右ハ何レモ近藤

清一ノ爲ニ開カレタル金森名義ノ當座ニ振込マレ一部ハ近藤清一ノ用途ニ一部ハ桑名合同運送株式會社自身ノ用途ニ使用セラレタルモノニシテ財産上ノ利益ハ清一及合同運送會社ニ歸シタル事判文ノ趣旨自體ニ徴シテ明白ナリ然ルニ横領罪ハ自己ノ占有スル他人ノ財物ヲ不正ニ領得スルノ所爲ナルヲ以テ横領罪ノ成立ニハ不正領得ノ犯意アルコトヲ要ス然ルニ本件記録ヲ通シテ金森俊二自身カ領得スルテフ犯意ノ認ムヘキモノナク第三者タル近藤清一ノ利益ヲ圖リタル本件ニ於テハ横領罪ノ成立スヘキ謂ナシ然ルニ原審カ右金森俊二ノ行爲ニ對シ業務上横領ト認メ刑法第二百五十三條ヲ適用シタルハ擬律ヲ誤リタル違法アルモノトス(昭和八年(レ)第九號同年三月十六日判決) 三、原判決ハ第二一ノ(一)(二)ニ於テ金森俊二ヲ詐欺罪ニ問擬シ刑法第二百四十六條第一項ヲ適用シタレトモ所謂虚偽記入ノ貨物引換證ヲ大垣共立銀行又ハ四日市銀行桑名支店ニ提出行使シ割引名義ノ下ニ騙取シタリト稱セララルル金員ハ金森俊二カ交付ヲ受ケタルモノニ非ス近藤清一ノ爲ニ開キタル金森名義ノ當座預金ニ振込マレタル事實ナル事ハ原審判決ノ認ムル處ナリ然ラハ刑法第二百四十六條第一項ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ違法アリ以上ノ違法アルヲ以テ原判決ハ此ノ點ニ付テモ破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在レトモ

所論ノ昭和九年八月十三日午前九時ノ判決言渡期日ハ同月十日同月二十日午前九時ト變更セラレ同期日ニ於テ判決言渡アリタルコト記録上明白ナレハ同月十三日ニ判決ヲ言渡シタル形迹ノ存セサルハ蓋

シ當然ニシテ論旨一ハ其ノ理由ナク又原判決第一事實ハ被告人俊二ハ其ノ業務上保管ニ係ル判示ノ國庫債券ヲ自己ノ債務ニ對スル擔保ニ供シ尙同業務上保管ニ係ル判示會社ノ現金及銀行預金中ヨリ小切手ニ依リ引出シタル判示ノ金員ヲ被告人俊二自己及被告人清一ノ各債務ノ支拂ニ充テタル事實ヲ判示シタルモノニシテ即被告人俊二ハ其ノ業務上占有スル他人ノ物ヲ不正ニ自己ニ領得シ之ヲ債務ノ擔保ニ供シ又自己及被告人清一ノ債務ノ支拂ニ充テタルモノナレハ該行爲カ業務上橫領罪ヲ構成スルコト言フ俟タス原判決カ刑法第二百五十三條ニ問擬シタルハ正當ニシテ擬律錯誤ノ違法アルモノニ非ス論旨ニ引用シタル昭和八年(レ)第九號ノ判例ハ他人ノ爲ニ事務ヲ處理スル者カ其ノ占有ニ係ル本人ノ金員ヲ第三者ノ利益ヲ圖リ本人ノ計算ニ於テ不正ニ處分シ本人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ關スルモノナレハ之ヲ本件ニ適用セントスルハ當ラス論旨ニモ其ノ理由ナク尙原判決第二事實ハ其ノ(一)(二)共ニ被告人兩名共謀ノ上何等貨物ノ託送ヲ受ケタルコトナキニ之ヲ受ケタル旨虛偽記入ヲ爲セル貨物引換證ヲ作成シ之ヲ銀行ニ持參シ恰モ真正ナル貨物引換證ナルカ如ク裝ヒ銀行員ヲ欺罔シ之ヲ擔保トシテ銀行ニ交付シ荷爲替ヲ取組ミ割引名義ノ下ニ夫々判示ノ金員ヲ同銀行ニ於ケル被告人等ノ當座預金ニ振替ヘシタル事實ヲ認定シタルモノニシテ敍上被告人等ノ行爲ハ刑法第二百四十六條第二項ノ犯罪ヲ構成スルモノトス而シテ原判決ハ右事實ニ對シ同條第一項ヲ適用シタルモ同條第一項第二項ハ同一罪質ニシテ同一ノ罪アルヲ以テ(明治四十四年(レ)第八五二號同年五月二十三日刑事聯合部判決

【要旨】

理由第二參照) 右原審カ第一項ヲ適用シタルカ爲ニ擬律ヲ誤リタルモノト爲スヘカラサルモノニシテ論旨三モ亦其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス) 右理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス 檢事佐々波與佐次郎關與

○瀆職被告事件 (昭和九年(レ)第一一七四號 同年十二月四日第四刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 星  
 外四名 辯護人  
 內 正 田 井 井 赤 花 内  
 二 忠 大 幸 辛 井 井 田  
 要 總 明 大 幸 井 井 田  
 人 明 大 幸 井 井 田  
 外七名

【第一審】 東京地方裁判所 【第二審】 東京控訴院  
 ○ 判 示 事 項

稅務署屬ノ轉動ト賄賂交付罪ノ成立

稅務署屬ノ轉動ト賄賂交付罪ノ成立

○判決要旨

甲稅務署ニ在勤セル稅務署屬ニ對シ其ノ職務ニ關シ請託ヲ爲シ同上屬カ乙稅務署ニ轉動後右請託ニ對スル謝禮トシテ同人ニ金品ヲ交付シタル行爲ハ賄賂交付罪ヲ構成ス

【參照】 刑法第九十七條

公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要

求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當

ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スル

コト能ハサルトキハ其價額ヲ追徵ス  
明治三十五年勅令第二百四十二號稅務署官制第一條 稅務署ハ大藏大臣ノ管理ニ屬

シ内國稅ニ關スル事務ヲ執行ス  
同法第五條 屬ハ署長タル者ヲ除クノ外上官ノ指揮ヲ承ケ庶務及檢査ニ從事シ技手

ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從事ス  
同法第六條 稅務署ノ名稱及管轄區域ハ別表ニ依ル  
(管轄表省略)

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人星一ヲ罰金三百圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間右被告人ヲ勞役場ニ留置ス被告人小林利壽 林重 菅原仁壽ヲ各懲役三月ニ被告人井上福二郎ヲ懲役二月ニ處ス被告人小林利壽 林重 菅原仁壽及井上福二郎ニ對シ孰レモ本裁判確定ノ日ヨリ二年間右各刑ノ執行ヲ猶豫ス被告人小林利壽ヨリ金百圓ヲ被告人林重及菅原仁壽ヨリ各七十圓ヲ被告人井上福二郎ヨリ金二十圓ヲ夫々追徵ス訴訟費用中豫審ニ於ケル證人栗原鍾三ニ支給シタル分ハ被告人星一 熊谷慧及林重ノ連帶負擔同證人齋藤和三郎 栗原信作(豫審第一、二回)ニ支給シタル分ハ被告人星一 熊谷慧及小林利壽ノ連帶負擔同證人棚山ヨシ 清水誠一 富井リヨ 吉田善次郎 北郷三郎 根岸茂英 長井敏明 芝康吉 眞野直一 早矢仕勝四郎 山内與一及平田米次郎ニ支給シタル分ハ被告人星一及熊谷慧ノ連帶負擔(中略) 原審公判ニ於ケル證人高木貞剛ニ支給シタル分ハ被告人星一ノ負擔同證人東山兼松ニ支給シタル分ハ被告人井上福二郎ノ負擔當審ニ於ケル證人藤田信近ニ支給シタル分ハ被告人星一 熊谷慧及井上福二郎ノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人星一ハ明治四十四年頃ノ創立ニ係リ製藥其ノ他ノ一般化學工業品ノ製造販賣ヲ目的トシ元東京府在原郡大崎町大字桐ヶ谷三百二十六番地ニ本店ヲ有スル星製藥株式會社ノ設立以來ノ取締役社長ニシテ被告人熊谷慧ハ大正七年右會社ノ事務員トナリ昭和二年中ヨリ昭和六年四月末日迄同會社ノ財産

稅務署屬ノ轉動ト賄賂交付罪ノ成立

課長トシテ同會社ノ財産ノ管理債務及滯納税金ノ整理等ノ事務ヲ擔當シ居リタルモノナルトコロ  
 第一、右會社ニ於テハ財政窮乏ノ結果大正十五年六月三日現在金十一萬二千百餘圓ノ直接國稅(以下直稅ト略記ス)ノ滯納ヲ生シ同日所轄品川稅務署ヨリ同會社所有ノ元東京府荏原郡荏原町大字戸越所在星商業學校ノ講堂ニ對シ差押ヲ受ケタルカ其ノ後昭和四年頃迄ノ間ニ更ニ直稅ノ滯納相當増額シ之カ爲或ハ右稅務署ヨリ前示差押財産ニ付競賣ヲ實行セラレ且更ニ其ノ財産ヲモ亦差押ヘラルルヤモ圖リ難シト思惟シテ被告人星ハ其ノ頃被告人熊谷ニ命シ同被告人ヲシテ當時品川稅務署庶務課長トシテ其ノ管内ニ於ケル内國稅ノ徵收及滯納處分等ニ關スル事務ヲ分掌スル同課ノ事務ヲ掌理シ兼テ其ノ事務ヲ分擔シ居リ其ノ後同年八月宇都宮稅務署ニ轉勤シタル稅務署屬小峰右一郎ニ對シ前示會社ノ爲競賣及差押ヲ延期セラレ度キ旨ノ請託ヲ爲サシメタルカ該請託ニ對スル謝禮トシテ右小峰右一郎ニ對シ相當ノ金品ヲ供與センコトヲ決意シ當時之ヲ被告人熊谷ニ謀リ其ノ都度兩名ニテ協議ノ上被告人熊谷ニ於テ右會社ノ社費ヲ以テ右小峰右一郎ニ對シ執レモ前示請託ニ對スル謝禮トシテ昭和四年七月下旬元東京府荏原郡品川町大字南品川五百三十番地柵山ヨシ方ニ於テ同人ヲ通シ額面金二十圓ノ商品券一枚ヲ其ノ翌日頃同町所在品川稅務署内ニ於テ現金三百圓ヲ各交付シテ之ヲ供與シ次テ同年十二月下旬右小峰右一郎ノ當時ノ勤務先タル宇都宮市所在宇都宮稅務署内同人宛小包郵便ヲ以テ額面金百圓ノ商品券一枚ヲ送付シテ其ノ頃之ヲ供與シ以テ右被告人等兩名共謀ノ上公務

員タル前示小峰右一郎ニ對シ其ノ職務ニ關シ各賄賂ヲ交付シ

第二、(一)右會社ニ於テハ昭和二年三月頃ヨリ協力商品券ナルモノヲ發行シ之ヲ以テ社債ノ利拂等ニ充當シ來リタルカ該商品券ハ其ノ所持者カ同會社ノ商品ヲ買受クルニ當リ之ヲ以テ其ノ買受代金ノ二割ヲ支拂ヒ得ルニ過キサレモノニシテ一種特異ノ性質ヲ有スルモノナルトコロ所轄品川稅務署ニ於テハ右商品券ニ依ル社債ノ利拂ニ對シ該商品券ノ實質ヲ顧慮セス其ノ券面額ヲ標準トシテ直稅タル第二種所得稅及甲種資本利子稅ノ課稅額ヲ決定セントスル意向ナリシヲ以テ被告人星ハ昭和四年三、四月頃被告人熊谷ニ命シ同被告人ヲシテ當時品川稅務署直稅課長トシテ其ノ管内ニ於ケル直稅ノ賦課減免及檢査等ニ關スル事務ヲ分掌スル同課ノ事務ヲ掌理シ兼テ其ノ事務ヲ分擔シ居リタル稅務署屬被告人小林利壽及當時同課第二主任(法人主任)トシテ其ノ管内ニ於ケル第二種所得稅甲種資本利子稅法人營業收益稅及法人營業稅等ニ關スル事務ヲ主掌シ且同課長ヲ補佐シテ直稅事務全般ノ企劃刷新ニ參劔シ居リタル稅務署屬栗原信作ノ兩名ニ對シ右商品券ノ前示特質ヲ詳細説明セシメタル上該商品券ニ係ル社債ノ利拂ニ付テハ其ノ券面額ヲ標準トスルコトナク其ノ實質ニ從ヒ前示會社ノ爲メ有利ナル課稅額ヲ決定セラレ度キ旨請託ヲ爲サシメタルカ被告人星ハ右ノ請託ニ對スル謝禮トシテ被告人小林利壽及前示栗原信作ノ兩名ニ對シ夫々相當額ノ商品券ヲ供與センコトヲ決意シ適時之ヲ被告人熊谷ニ謀リ其ノ都度兩名ニテ協議ノ上被告人熊谷ニ於テ右會社ノ社費ヲ以テ



(イ) 被告人小林利壽ニ對シテハ昭和四年十月上旬元東京府荏原郡目黒町大字中目黒千四百四十五番地同被告人居宅ニ於テ前示請託ニ對スル謝禮トシテ額面金百圓ノ商品券一枚ヲ交付シテ之ヲ供與シ

(ロ) 前示栗原信作ニ對シテハ前示ノ請託ニ對スル謝禮其ノ他トシテ元東京府南葛飾郡小松川町二丁目三十五番地同人宛小包郵便ニ依リ昭和四年七月下旬額面金二十圓ノ商品券一枚ヲ以テ同年十二月下旬額面五十圓ノ商品券一枚ヲ各送付シテ其ノ頃之ヲ供與シ以テ被告人星及熊谷ノ兩名共謀ノ上公務員タル被告人小林利壽及前示栗原信作ニ對シ同人等ノ職務ニ關シ各賄賂ヲ交付シ

被告人小林利壽ハ品川稅務署直稅課長トシテ前示(一)冒頭ニ記載ノ如キ職務權限ヲ有シタルモノナルトコロ被告人星ヨリ被告人熊谷ヲ通シ同上冒頭ニ記載ノ如キ請託ヲ受ケ同上(イ)記載ノ日時場所ニ於テ被告人熊谷ヲ經テ被告人星及被告人熊谷ノ兩名ヨリ同被告人等カ右請託ニ對スル謝禮トシテ供與スルモノナルコトヲ知リナカラ額面金百圓ノ商品券一枚ノ交付ヲ受ケ以テ公務員トシテ其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ

### 第三、

(一) 右會社ニ於テハ所轄品川稅務署ヨリ間稅ノ査定ヲ受ケ間稅課稅物件タル酒精含有飲料ノ製造及販賣ヲ爲シ居リタルトコロ被告人星ハ昭和三、四年頃被告人熊谷ニ命シ同被告人ヲシテ當時品川稅務署間稅課長トシテ其ノ管内ニ於ケル間稅ノ賦課減免檢査及査定等ニ關スル事務ヲ分掌スル

同課ノ事務ヲ掌理シ兼テ其ノ事務ヲ分擔シ居リ其ノ後昭和四年九月東京稅務監督局ニ轉勤シタル稅務署屬被告人井上福二郎及當時品川稅務署間稅課員トシテ同課ノ事務ヲ分掌シ居リタル稅務署屬田中龜藏及同別所竹雄ニ對シ同會社ノ製造ニ係ル間稅課稅物件ニ付テハ同會社ノ便宜ヲ計リ急速ニ間稅ノ査定アリ度キ旨ノ請託ヲ爲サシメ隨時同人等ヨリ便宜ノ取扱ヲ受ケタルカ被告人星ハ該請託ニ對スル謝禮トシテ被告人井上福二郎前示田中龜藏及前示別所竹雄ノ三名ニ對シ夫々相當額ノ商品券ヲ供與センコトヲ決意シ適時之ヲ被告人熊谷ニ謀リ其ノ都度兩名ニテ協議ノ上被告人熊谷ニ於テ右會社ノ社費ヲ以テ孰レモ前示請託ニ對スル謝禮トシテ

(イ) 被告人井上福二郎ニ對シテハ昭和四年七月下旬元東京府荏原郡品川町所在品川稅務署内ニ於テ額面金二十圓ノ商品券一枚ヲ交付シテ之ヲ供與シ

(ロ) 前示田中龜藏ニ對シテハ孰レモ元東京府荏原郡六郷町同人宛小包郵便ニ依リ昭和四年七月下旬額面金十圓ノ商品券一枚ヲ次テ同年十二月下旬額面金三十圓ノ商品券一枚ヲ各送付シテ其ノ頃之ヲ供與シ

(ハ) 前示別所竹雄ニ對シテハ昭和四年七月下旬元東京府荏原郡荏原町大字戸越千三百二十三番地同居居宅ニ於テ同家人松井すてヲ通シ額面金十圓ノ商品券一枚ヲ交付シテ之ヲ供與シ次テ同年十二月下旬同所ニ於テ同家人ヲ通シ額面金三十圓ノ商品券一枚ヲ供與スヘク之ヲ提供シ

以テ被告人星及被告人熊谷ノ兩名共謀ノ上公務員タル被告人井上福二郎竝前示田中龜藏及前示別所竹雄ニ對シ同人等ノ職務ニ關シ各賄賂ヲ交付又ハ提供シ

(二) 被告人井上福二郎ハ品川稅務署間稅課長トシテ前示

(一) 冒頭ニ記載ノ如キ職務權限ヲ有シタル者ナルトコロ、被告人星ヨリ被告人熊谷ヲ通シ同上冒頭記載ノ如キ請託ヲ受ケ同上(イ)記載ノ日時場所ニ於テ被告人熊谷ヲ經テ被告人星及熊谷ノ兩名ヨリ同人等カ右請託ニ對スル謝禮トシテ供與スルモノナルコトヲ知リナカラ額面金二十圓ノ商品券一枚ノ交付ヲ受ケ公務員トシテ其ノ職務ニ關シ各賄賂ヲ收受シ

第四、(一) 右會社ニ於テハ其ノ財政窮乏ノ結果昭和三年十月二十五日現在金十七萬八千五百四圓ノ東京府稅ノ滯納ヲ生シ同日東京府荏原郡稅務出張所ヨリ同會社所有ノ第三部工場財團ニ對シ差押ヲ受ケタルカ其ノ後昭和四年頃迄ノ間ニ更ニ同府稅ノ滯納相當増額シ之カ爲或ハ同出張所ヨリ前示差押財產ニ付競賣ヲ實行セラレ且更ニ他ノ財產ヲモ差押ヘラルヤモ圖リ難シト思惟シテ被告人星ハ被告人熊谷ニ命シ同被告人ヲシテ當時東京府荏原郡稅務出張所長トシテ其ノ管内ニ於ケル同府稅ノ賦課徵收及滯納處分等ニ關スル事務ヲ掌理シ同所員ヲ指導監督シ居リタル東京府主事被告人林重ニ對シ前示會社ノ爲競賣及差押ヲ延期セラレ度キ旨ノ請託ヲ爲サシメタルカ該請託ニ對スル謝禮トシテ被告人林重ニ對シ相當額ノ商品券ヲ供與センコトヲ決意シ適時之ヲ被告人熊谷ニ謀リ其ノ都度

兩名ニテ協議ノ上被告人熊谷ニ於テ右會社ノ社費ヲ以テ被告人林重ニ對シ執レモ前示請託ニ對スル謝禮トシテ昭和四年七月下旬元東京府北豐島郡板橋町元瀧野川二千五百二十六番地同被告人居住宅ニ於テ同被告人ノ妻イツヲ通シ額面金二十圓ノ商品券一枚ヲ次テ同年十二月下旬同所ニ於テ同人ヲ通シ額面金五十圓ノ商品券一枚ヲ各交付シテ之ヲ供與シ以テ被告人星及熊谷ノ兩名共謀ノ上公務員タル被告人林重ニ對シ其ノ職務ニ關シ各賄賂ヲ交付シ

(二) 被告人林重ハ東京府荏原郡稅務出張所長トシテ前示(一)ニ記載ノ如キ職務權限ヲ有シタル者ナルトコロ、被告人星ヨリ被告人熊谷ヲ通シ同上記載ノ如キ請託ヲ受ケ同上記載ノ各日時及場所ニ於テ執レモ被告人熊谷ヲ經テ被告人星及熊谷ノ兩名ヨリ同人等カ右請託ニ對スル謝禮トシテ供與スルモノナルコトヲ知リナカラ同上記載ノ如キ各商品券ノ交付ヲ受ケ以テ公務員トシテ其ノ職務ニ關シ各賄賂ヲ收受シ

第五、昭和四年三月以降東京府ニ於テハ自動車ノ所有者中同府稅タル自動車稅及市町村稅タル自動車附加稅ヲ納付シ市町村長ヨリ其ノ納付濟證明書ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シテノミ其ノ所有自動車ニ付鑑札ノ取換ヲ爲シタルトコロ右會社ハ數臺ノ自動車ヲ所有シナカラ前示稅金ノ支拂ニ窮シ之カ納付ヲ怠リタルカ爲所轄大崎町長ヨリ其ノ納付濟證明書ノ交付ヲ受クルコト能ハス從テ其ノ所有自動車ニ付東京府ヨリ鑑札ノ取換ヲ受ケ得サル窮狀ニ立至リタルヲ以テ被告人星ハ被告人熊谷ニ命シ

稅務所屬ノ轉動ト賄賂交付罪ノ成立

同被告人ヲシテ昭和四年四月頃ヨリ同年六月頃迄ノ間數回ニ互リ當時大崎町役場稅務掛長トシテ同町内ニ於ケル諸税金ノ賦課徵收及滯納處分等稅務ニ關スル諸般ノ事務ヲ掌理シ居リタル同町書記原審相被告人竹之内力之助ニ對シ前示會社ノ便宜ヲ計リ前示税金ノ完納前其ノ納付濟證明書ヲ交付セラレ度キ旨ノ請託ヲ爲サシメタルカ該請託ニ對スル謝禮トシテ右竹之内力之助ニ對シ相當額ノ商品券ヲ供與センコトヲ決意シ其ノ頃之ヲ被告人熊谷ニ謀リ兩名協議ノ上被告人熊谷ニ於テ右會社ノ社費ヲ以テ竹之内力之助ニ對シ前示請託ニ對スル謝禮トシテ昭和四年七月十二日頃元東京府荏原郡大崎町大字桐ヶ谷百八十三番地ナル同居宅ニ於テ同人ノ三男弘ヲ通シ額面金五十圓ノ商品券一枚ヲ供與スヘク之ヲ提供シ以テ被告人星及被告人熊谷ノ兩名共謀ノ上公務員タル被告人竹之内力之助ニ對シ其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ提供シ

第六、(一) 右會社ニ於テハ其ノ財政窮乏ノ結果所轄大崎町ニ對スル各種税金ノ支拂ヲ滯リタル外警視總監ノ囑託ニ依リ同町ニ於テ其ノ徵收事務ヲ取扱ヒ居リタル健康保險料ノ支拂ヲ怠リ昭和三年度分迄ニ右町稅及督促手數料合計金十三萬六千餘圓右健康保險料合計金二萬百餘圓ノ各滯納ヲ生シ之カ爲昭和四年七月三日同月八日同月三十日及同年八月七日ヨリ四回ニ互リ右大崎町ヨリ同會社所有ノ財產タル元東京府荏原郡大崎町大字桐ヶ谷所在ノ工場建物合計十五棟竝第一部工場財團及第四部工場財團ニ付夫々差押ヲ受クルニ至リ之ヲ競賣ニ付セラレルヤモ圖リ難シト思料シテ被告人星

ハ其ノ頃被告人熊谷ニ命シ同被告人ヲシテ當時大崎町有給助役トシテ同町ヲ統轄シ且同町ヲ代表スル同町長ノ事務ヲ補助シ殊ニ昭和四年五月九日以降同年九月二十日迄同町長ノ缺員中其ノ事務ヲ代行シ居リタル被告人菅原仁壽及當時同町稅務掛長トシテ前示第五ニ記載ノ如キ職務權限ヲ有シタル同町書記原審相被告人竹之内力之助ニ對シ前示會社ノ爲前示差押財產ノ競賣ヲ延期セラレ度キ旨ノ請託ヲ爲サシメタルカ該請託ニ對スル謝禮トシテ被告人菅原仁壽及原審相被告人竹之内力之助ノ兩名ニ對シ夫々相當額ノ商品券ヲ供與センコトヲ決意シ適時之ヲ被告人熊谷ニ謀リ其ノ都度兩名ニテ協議ノ上被告人熊谷ニ於テ右會社ノ社費ヲ以テ孰レモ前示請託ニ對スル謝禮トシテ

(イ) 被告人菅原仁壽ニ對シテハ昭和四年七月下旬元東京府荏原郡大崎町大字桐ヶ谷百八十三番地同居宅ニ於テ額面金二十圓ノ商品券一枚ヲ次テ同年十二月下旬同所ニ於テ同被告人ノ妻ムビヲ通シテ額面金五十圓ノ商品券一枚ヲ各交付シテ之ヲ供與シ

(ロ) 前記竹之内力之助ニ對シテハ孰レモ元東京府荏原郡大崎町大字桐ヶ谷百八十三番地同居宅ニ於テ昭和四年七月下旬額面金十圓ノ商品券一枚ヲ次テ同年十二月下旬額面金二十圓ノ商品券一枚ヲ各交付シテ之ヲ供與シ

以テ被告人星及被告人熊谷ノ兩名共謀ノ上公務員タル被告人菅原仁壽及被告人竹之内力之助ニ對シ同被告人等ノ職務ニ關シ各賄賂ヲ交付シ

(二) 被告人菅原仁壽ハ大崎町有給助役トシテ前示(一)冒頭ニ記載ノ如キ職務權限ヲ有シタル者ナルトコロ被告人星ヨリ被告人熊谷ヲ通シ同上冒頭ニ記載ノ如キ請託ヲ受ケ同上(イ)ニ記載ノ各日時及場所ニ於テ執レモ被告人熊谷ヲ經テ被告人星及被告人熊谷ノ兩名ヨリ同人等カ右請託ニ對スル謝禮トシテ供與スルモノナルコトヲ知リナカラ同上(イ)ニ記載ノ如キ各商品券ノ交付ヲ受ケ以テ公務員トシテ其ノ職務ニ關シ各賄賂ヲ收受シ

タルモノニシテ被告人星(中略)ノ前掲賄賂交付及賄賂提供ノ各所爲竝被告人林及菅原前掲賄賂收受ノ各所爲ハ夫々同被告人等ノ各犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人星一ノ各賄賂交付及賄賂提供ノ所爲ハ執レモ刑法第九十八條第一項第六十條第五十五條ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ所定額ノ範圍内ニ於テ同被告人ヲ罰金三百圓ニ處スヘク若シ同人ニ於テ該罰金ヲ完納シ能ハサルトキハ同法第十八條ニ依リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間同人ヲ勞役場ニ留置スヘク被告人小林利壽及被告人井上福二郎ノ各賄賂收受ノ所爲ハ何レモ同法第九十七條第一項前段ニ被告人林重被告人菅原仁壽ノ各賄賂收受ノ所爲ハ執レモ同法第九十七條第一項前段第五十五條ニ各該當スルヲ以テ各其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人小林利壽被告人林重及被告人菅原仁壽ヲ各懲役三月ニ被告人井上福二郎ヲ懲役二月ニ處スヘク被告人星一ヲ除ク他ノ各被告人ニ對シテハ情狀ニ照シ刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ同法第二十五條刑事訴訟法第三百五十八條

第二項ニ依リ執レモ本裁判確定ノ日ヨリ二年間各右刑ノ執行ヲ猶豫スヘク被告人小林利壽被告人井上福二郎被告人林重及被告人菅原仁壽カ收受シタル各判示ノ各商品券ハ同被告人等ニ於テ費消シ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ刑法第九十七條第二項ニ從ヒ同被告人等ヨリ主文掲記ノ如ク其ノ價額ヲ夫々追徴スヘク訴訟費用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十八條第二百三十七條第一項ヲ適用シ被告人等ヲシテ夫々主文掲記ノ如ク之ヲ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ執レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人星一辯護人鶴澤總明上告趣意書第六點原判決ハ擬律錯誤ノ違法アリ原判決ハ第一事實ニ於ケル被告人星カ被告人熊谷ト協議ノ上元品川稅務署庶務課長ニシテ昭和四年八月宇都宮稅務署ニ轉勤シタル稅務署屬小峯右一郎ニ對シ同年十二月下旬小峯右一郎ノ當時ノ勤務先タル宇都宮稅務署内同人宛小包郵便ヲ以テ額面金百圓ノ商品券一枚ヲ送付供與シタル事實ヲモ贈賄罪ニ問擬處斷シタリ然レトモ同罪ハ公務員ノ職務ニ關シ賄賂ヲ交付スルニ因リテ成立スルモノニシテ假令公務員ナリト雖其ノ職務ヲ有セサルモノニ金品ヲ贈與スルモ同罪ヲ構成スルモノニアラス只公務員カ其ノ職務ヲ有スル時代ニ於テ賄賂ヲ約束シ其ノ職務ヲ退キテ後賄賂ヲ交付シタル場合ハ賄賂約束罪ヲ構成スルニ過キサルモノト

稅務所屬ノ轉勤ト賄賂交付罪ノ成立

ス從テ公務員ニ對シ其ノ職務ニ關シ或ル請託ヲ爲シ轉勤シテ其ノ職務ヲ去リタル後右請託ニ對スル謝禮ノ意味ニテ金品ヲ贈與シタリトスルモ法ハ公務員ノ職務ニ關シト規定シ現在ノ職務ニ關スルコトヲ要求スルカ故ニ過去ノ職務ニ關スル場合ハ賄賂罪ヲ構成セサルモノトス前敍原判決ノ認定ニ依レハ星製藥株式會社ハ直接國稅滯納ノ爲品川稅務署ヨリ同會社所有ノ星商業學校ノ講堂ヲ差押ヘラレ右稅務署ヨリ前示差押財產ニ付競賣ヲ實行セラレ且更ニ他ノ財產ヲモ差押ヘラルルヤモ圖リ難シト思惟シ之カ延期方ヲ當時右稅務署ノ庶務課長タリシ小峯右一郎ニ請託シ其ノ謝禮トシテ同人カ宇都宮稅務署ニ轉勤(轉勤ハ昭和四年八月)後タル同年十二月判示商品券ヲ送付供與シタリト云フニ在リテ右商品券送付ノ際ハ小峯右一郎ハ判示會社ノ國稅滯納處分ニ付何等職務關係ヲ有スルニアラサルヲ以テ其ノ品川稅務署在勤當時賄賂ノ約束アリタリトノ點ニ付何等ノ認定ナキ本件ニ於テハ贈賄罪ノ構成セサルハ勿論賄賂約束罪ヲモ構成スヘキモノニアラサルナリ然ルニ原判決ハ此ノ事實關係ヲ無視シ被告人星ヲ此ノ事實ニ付テモ贈賄罪ニ問擬處斷シタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ到底破毀ヲ免レサルモノト思料スト云フニ在レトモ

稅務署官制第一條ニ稅務署ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ內國稅ニ關スル事務ヲ執行ス第五條ニ屬ハ署長タル者ヲ除クノ外上官ノ指揮ヲ承ケ庶務檢査ニ從事シ云々トアルヲ以テ稅務署ノ屬ハ署長タル者ヲ除クノ外上官ノ命ヲ承ケ內國稅ニ關スル事務ノ執行上庶務及檢査ニ從事スヘキ職務ヲ有スルコト明ナリ而

## 【要旨】

シテ同官制第六條ニハ全國各地ニ稅務署ヲ設置シ其ノ管轄區域ノ定メアルモ是レ唯所屬職員ノ職務執行上土地ノ管轄ヲ定メタルニ過キサレハ前記稅務署屬ノ職務ハ所屬ノ稅務署ヲ異ニスルモ之カ爲異同ヲ生スヘキモノニアラス隨テ甲稅務署ニ在勤セル稅務署屬ニ對シ其ノ職務ニ關シ請託ヲ爲シ同上屬カ乙稅務署ニ轉勤後右請託ニ對シ謝禮トシテ同人ニ金品ヲ交付シタル行爲ハ賄賂交付罪ヲ構成スルモノトス原判示ニ依レハ被告人星一ハ星製藥株式會社ノ取締役社長ニシテ同會社カ直接國稅ヲ滯納シタル爲所轄品川稅務署ヨリ判示物件ヲ差押ヘラレ引續キ之カ競賣及他ノ財產差押ノ實行ヲ見ルニ至ルヤモ圖リ難シト思惟シ原審共同被告人熊谷慧ニ命シ同人ヲシテ當時品川稅務署庶務課長トシテ其ノ管内ニ於ケル內國稅ノ徵收及滯納處分等ニ關スル事務ヲ分掌スル同課ノ事務ヲ掌理シ兼テ其ノ事務ヲ分擔シ居リタル稅務署屬小峯右一郎ニ對シ其ノ職務ニ關シ判示ノ如ク請託ヲ爲サシメ前示熊谷慧ト共謀シ該請託ニ對スル謝禮トシテ右小峯右一郎ニ對シ二回ニ金品ヲ交付シ同人カ宇都宮稅務署轉勤後前同様ノ趣旨ヲ以テ商品券ヲ供與シタルモノナレハ其ノ行爲ハ前段說示ノ趣旨ニ從ヒ賄賂交付罪ヲ構成スルモノトス原判決ハ右ト同趣旨ニ出テ正當ナリ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事佐々波與佐次郎關與

○贈收賄恐喝被告事件(昭和九年(九)第一二八三號)棄却

(同年十二月五日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 青木 是親 辯護人

外五名

塚崎直義  
赤井幸夫  
野上孫市  
三苦眞九郎  
熊谷直太郎  
外二名

【第一審】 福岡地方裁判所 【第二審】 長崎控訴院

○判示事項

證人ノ身分關係調査ノ遺脱ト證言ノ證據力

○判決要旨

豫審判事力證人ヲ訊問スルニ當リ當時既ニ起訴セラレタル牽連事件ノ被告人トノ間ニ於ケル身分關係ノ調査ヲ爲サシテ證人訊問

證人ノ身分關係調査ノ遺脱ト證言ノ證據力

ヲ爲シタル場合該證言ハ其ノ遺脱シタル被告人ニ對スル關係ニ於テハ證據力ヲ有セサルモノトス

【參照】 刑事訴訟法第八十四條 裁判所ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外何人ト雖

證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

同法第九十五條 證人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキカ否及第百八十六條第一項ニ

規定スル關係アル者ナリヤ否ヲ取調フヘシ

第百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ニハ證言ヲ拒ムコトヲ得ル旨ヲ告クヘシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人青木是親同荒木茂ヲ各懲役五月ニ同野口虎雄ヲ懲役三月ニ同岡野兵衛ヲ懲役六月ニ同會我祐夫同藤崎常吉ヲ各懲役八月ニ處ス但シ未決勾留日數中被告人青木是親同野口虎雄ニ對シ各五十日同會我祐夫同岡野兵衛同藤崎常吉ニ對シ各百五十日ヲ夫々右本刑ニ算入ス被告人野口虎雄ニ對シテハ二年間同荒木茂ニ對シテハ各三年間夫々右刑ノ執行ヲ猶豫ス被告人野口虎雄ヨリ金百五十四圓四十六錢六厘ヲ同荒木茂ヨリ金三百十八圓七十五錢九厘ヲ同會我祐夫ヨリ金七百八十一圓九十一錢九厘ヲ各追徴ス訴訟費用中證人柴藤タカ 伊藤豐吉及上野友吉ニ各支給シタル部分ハ被告人青木是親ノ負擔トシ證人友惠センニ支給シタル部分ハ被告人青木是親

及原審相被告人伊藤豐吉ノ連帶負擔トシ證人早船正三郎及萩尾定造(第一回)ニ支給シタル部分ハ被告人青木是親及原審相被告人德丸甚太郎同伊藤豐吉同上野友吉ノ連帶負擔トシ證人森ミネ及山元ヨシエニ支給シタル部分ハ被告人荒木茂同會我祐夫ノ連帶負擔トシ證人吉原福次郎同秋根昌世同岩倉音熊同平田爲次郎同光安義雄ニ支給シタル部分ハ被告人谷山熊太同荒木茂同會我祐夫及原審相被告人森卯作同藤野儀三郎竝ニ小串正太郎ノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 被告人青木是親ハ昭和八年四月一日福岡市ニ合併編入セラレタル元福岡縣早良郡姪濱町町長トシテ昭和五年九月就任シタルカ曩之同町當局ハ自町カ財源ニ乏シク從來一般町民ニ對シ過重ナル負擔ヲ課シ來リタルモ猶該町收入ハ極メテ僅少ニシテ緊要ナル町施設ヲモ施行スルコト能ハス之ヲ放置スルトキハ愈々町財政ノ破綻ヲ來シ町ノ滅亡ヲ見ルコト顯カナリシヲ以テ同町ヲ福岡市ニ合併編入セシムル他ニ救町ノ方策ナキモノト思惟シ昭和三年末頃合併實現運動ヲ企テタルモ遂ニ不成功ニ終リタルヲ以テ被告人ハ昭和七年三月頃再ヒ合併運動ヲ主唱シ居町ニ於ケル合併機運ノ醸成ニ力メタルモ當時福岡市側ニ於テハ一部市會議員間ニ同町ノ如キ貧弱町ノ合併ニ依リ徒ニ市ノ負擔ヲ加重セラルヘキコトヲ虞レ時期尙早論ヲ唱ヘ容易ニ實現ヲ期待シ難キ狀勢ナリシヲ以テ其ノ目的達成ノ爲同年十月頃居町町會議員德丸甚太郎 伊藤豐吉 上野友吉外八名ヲ合併交渉委員ニ舉ケ福岡市初音旅館ニ合併事務所ヲ設置シ自ラ右合併交渉委員ヲ督勵シテ同市市會議員ヲ歴訪セシメ合併問題ニ對

證人ノ身分關係調査ノ脱遺ト證言ノ證據力

スル諒解運動ヲ爲シタルモ市側ノ狀勢遽ニ好轉セザリシヲ以テ合併實現ノ促進方ヲ焦慮シ遂ニ同合併問題ニ付議決スヘキ職務ヲ有スル同市會議員ニ對シ贈賄シ以テ速ニ其ノ目的ヲ達成センコトヲ企圖シ

(一) 原審相被告人伊藤豐吉ト共謀ノ上昭和七年十二月下旬福岡市市會議員大石八郎治ヲ同市東中洲料亭「巴」ニ招キ同人ニ對シ前記合併問題ニ付特ニ贊助方ヲ懇請シ其ノ謝禮ノ趣旨ノ下ニ金十圓七十七錢六厘ニ相當スル酒食ノ饗應ヲ爲シ

(二) 前記伊藤豐吉及原審相被告人德丸甚太郎 上野友吉ト共謀シ右上野友吉 德丸甚太郎ノ手ニテ昭和八年一月中旬頃同市住吉櫻町ナル前記大石八郎治ノ居宅ニ於テ前同趣旨ノ下ニ同人ニ對シ現金五百圓ヲ交付シ

(三) 前記德丸甚太郎ト共謀シ同市市會議員野口虎雄ニ對シ前同様贊助方ヲ懇請シ前同趣旨ノ下ニ(イ) 德丸甚太郎ノ手ニテ昭和七年十二月下旬同市西新町ナル前記野口虎雄ノ居宅ニ於テ現金五十圓ヲ交付シ

(ロ) 德丸甚太郎ト共ニ昭和八年二月三日同市綱場新道料亭「勢起」ニ於テ金四圓四十六錢六厘ニ相當スル酒食ノ饗應ヲ爲シタル上即時同所ニ於テ德丸甚太郎ノ手ニテ現金百圓ヲ交付シ  
(四) 同市市會議員曾我祐夫ニ對シ前同様贊助方ヲ懇請シ前同趣旨ノ下ニ

(イ) 昭和七年十月末日頃同市水茶屋料亭「常盤館」ニ於テ金六圓八十三錢ニ相當スル酒食ノ饗應ヲ爲シタル上即時同所ニ於テ現金二百圓ヲ交付シ

(ロ) 同年十一月末日頃同市住吉町先新屋ナル右曾我祐夫ノ居宅ニ於テ現金二百圓ヲ交付シ  
(ハ) 同年十二月末日頃前同所ニ於テ現金百圓ヲ交付シ  
(ニ) 昭和八年二月中旬頃前同所ニ於テ現金百圓ヲ交付シ

以テ福岡市市會議員タル前記大石八郎治 野口虎雄 曾我祐夫ノ職務ニ關シ夫々贈賄シ

第二 被告人野口虎雄ハ福岡市市會議員ニシテ制規上同市ノ町村合併ヲ議決スヘキ職責ヲ有スルモノナルトコロ相被告人青木是親及原審相被告人德丸甚太郎カ前記姪濱町ト福岡市トノ合併問題ニ付自己ニ之カ贊助方ヲ懇請シ其ノ謝禮ノ趣旨ノ下ニ贈賄スルモノナルコトヲ諒シ同人等ヨリ前顯第一ノ(三)掲記ノ如ク現金百五十圓ノ交付及金四圓四十六錢六厘ニ相當スル酒食ノ饗應ヲ受ケ以テ自己ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ

第三 被告人谷山熊太ハ昭和八年四月一日福岡市ニ合併編入セラレタル元福岡縣筑紫郡席田村ニ居住シ從來同村村長助役等ニ歷任シ昭和四年四月同村村會議員ニ就任シタルカ同村ハ福岡市ニ隣接シ且同市都市計畫地區ニ編入セラレ居ルニ拘ラス豫テ財政窮迫シ緊要ナル施設ヲモ爲スコト能ハサリシヲ以テ同村ヲ救済スルニハ一ニ同村ヲ福岡市ニ合併セシムル他ニ方策ナシトシ同村當局ハ曩ニ大正



十五年頃ヨリ合併機運ノ醸成ニ努メ昭和六年八月ニ至リ同村村會ニ於テ合併決議ヲ爲シ之ヲ福岡市ニ通告シタルモ同市側ニ於テハ同村ノ合併ハ時期尙早ナリトシ容易ニ合併ノ實現ヲ期待シ難キ狀勢ナリシヲ以テ同村村長白垣龍五郎等ト共ニ合併運動ヲ企テ自ラ他ノ村會議員十名ト共ニ合併委員トナリ被告人常岡卯兵衛及藤崎常吉ハ村民代表トシテ各合併委員ニ加ハリ更ニ同市在住ノ同鄉會員吉原福次郎 秋根昌世 平田爲次郎等ニ對シ同市市會議員ニ對スル直接運動方ヲ懇請シ被告人ハ右合併委員藤野儀三郎 小串正太郎 森卯作等ト共ニ常設委員トシテ同市所在ノ同村合併事務所ニ據リ互ニ聯絡シ市會議員ニ對スル諒解運動ヲ爲シタルモ同市側ノ狀勢遽カニ好轉セザリシヲ以テ遂ニ該合併問題ニ付決議スヘキ職務ヲ有スル同市市會議員ニ對シ贈賄ヲ爲シ以テ所期ノ目的ヲ達成セムコトヲ企圖シ

(一) 原審相被告人森卯作及藤野儀三郎並ニ前記合併委員タリシ小串正太郎等ト共謀シ前敍ノ如ク福岡市市會議員荒木茂ニ對シ右合併實現ニ付贊助方ヲ懇請シ其ノ謝禮等ノ趣旨ノ下ニ

(1) (イ) 前記森卯作ノ手ニテ昭和七年五月六日頃福岡市大字西堅粕ナル右荒木茂ノ居宅ニ於テ現金五十圓ヲ交付シ

(ロ) 前記小串正太郎ノ手ニテ同年六月十八日頃前同所ニ於テ現金百圓ヲ交付シ

(ハ) 前記森卯作ノ手ニテ同年六月二十七日頃福岡市祇園町山田屋旅館ニ於テ現金三百圓ヲ交

付シ

(2) 原田村同鄉會員トシテ右合併運動ニ從事セル前記秋根昌世 吉原福次郎 平田爲次郎等モ亦市會議員ニ對シ響應ヲ爲シ以テ右合併問題ニ付贊助方ヲ懇請セムコトヲ共謀シ被告人及前記幹部委員並右秋根等同鄉會員トハ犯意共通ノ上

(イ) 昭和七年六月十一日頃同市西門橋通り料亭「ふじ本」ニ於テ右秋根昌世 吉原福次郎ノ手ニテ金九圓一錢三厘ニ相當スル酒食ノ響應(會我祐夫同席)ヲ爲シ

(ロ) 同年十二月十六日頃同市網場新道待合「大和」ニ於テ右秋根昌世 吉原福次郎 平田爲次郎等四、五名ニテ金九圓七十四錢六厘ニ相當スル酒食ノ響應ヲ爲シ

(二) 福岡市市會議員會我祐夫ニ對シ前同様合併問題ニ對スル贊助方ヲ懇請シ前同趣旨ノ下ニ前顯(一)ノ(2)記載ノ如ク前記料亭「ふじ本」ニ於テ金九圓一錢三厘ニ相當スル酒食ノ響應(荒木茂同席)ヲ爲シ

(三) (省略)

(四) 相被告人常岡卯兵衛及原審相被告人白垣龍五郎ト共謀シ右常岡卯兵衛 白垣龍五郎ノ手ニテ昭和八年一月中旬頃福岡市新柳町料亭「あたご山」ニ於テ前記大石八郎治ニ對シ同人ノ還曆祝ニ藉口シ前同趣旨ノ下ニ現金百圓ヲ交付シ

以テ福岡市市會議員タル前記荒木茂 會我祐夫 大石八郎治ノ職務ニ關シ夫々贈賄シ

第四 被告人常岡卯兵衛ハ相被告人谷山熊太及原審相被告人白垣龍五郎ト共謀シ前顯第三ノ(四)記載ノ如ク前記大石八郎治ニ對シ現金百圓ヲ交付シ

以テ福岡市市會議員タル大石八郎治ノ職務ニ關シ贈賄シ

第五 (一) 被告人荒木茂ハ福岡市市會議員ニシテ制規上同市ノ町村合併ニ付之ヲ議決スヘキ職責ヲ有スルモノナルトコロ相被告人谷山熊太及原審相被告人森卯作竝ニ小串正太郎等カ前記席田村ト福岡市トノ合併問題ニ付自己ニ之カ贊助方ヲ懇請シ其ノ謝禮ノ趣旨ノ下ニ贈賄スルモノナルコトヲ諒シ前顯第三ノ(一)掲記ノ如ク現金四百五十圓ノ交付及金十八圓七十五錢九厘ニ相當スル酒食ノ饗應ヲ受ケ以テ自己ノ前記職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ

(二) 福岡市市會議員會我祐夫ニ對シ席田村合併問題ニ付贊助方ヲ懇請シ其ノ謝禮ノ趣旨ノ下ニ

(イ) 昭和七年六月二十四日頃同市東中洲待合「綾杉」ニ於テ金五圓六十七錢六厘ニ相當スル酒食ノ饗應ヲ爲シ

(ロ) 同年七月八日前同所ニ於テ金十圓四十錢ニ相當スル酒食ノ饗應ヲ爲シ

(ハ) 同年六月二十七日頃前同所ニ於テ金百五十圓ノ小切手一通ヲ交付シ

以テ前記會我祐夫ノ職務ニ關シ贈賄シ

第六 被告人會我祐夫ハ福岡市市會議員ニシテ同市ノ町村合併ニ付之カ議決ヲ爲スヘキ職責ヲ有スル

モノナルトコロ相被告人谷山熊太及荒木茂等カ前記席田村合併問題ニ付相被告人青木是親カ前記姪濱町合併問題ニ付夫々贊助方ヲ懇請シ其ノ謝禮ノ趣旨ノ下ニ贈賄スルモノナルコトヲ諒シ

(一) 相被告人谷山熊太及前記秋根昌世等ヨリ前顯第三ノ(二)記載ノ如ク金九圓一錢三厘ニ相當スル酒食ノ饗應ヲ受ケ

(二) 相被告人荒木茂ヨリ前顯第五ノ(三)記載ノ如ク二回ニ互リ合計金十六圓七錢六厘ニ相當スル酒食ノ饗應及金額百五十圓ノ小切手一通ノ交付ヲ受ケ

(三) 相被告人青木是親ヨリ前顯第一ノ(四)記載ノ如ク金六圓八十三錢ニ相當スル酒食ノ饗應及四回ニ互リテ合計金六百圓ノ交付ヲ受ケ

以テ前記職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ

第七 被告人常岡卯兵衛及藤崎常吉ハ前敘ノ如ク前記席田村ニ於ケル福岡市合併運動ニ際シ村民代表トシテ昭和七年六月頃其ノ合併委員ニ推舉セラレ同村村會議員ヲ以テ組織セラレタル合併委員ト共ニ該運動ニ從事中該委員中幹部タル相被告人谷山熊太原審相被告人藤野儀三郎及前顯小串正太郎等ニ於テ自己等ヲ嫌疑疎外シテ差別的待遇ヲ爲シタルヲ以テ同人等ノ右所爲ヲ憤リ居リタル折柄同人等カ右合併運動ニ關シ福岡市市會議員ニ對シ買收運動ヲ爲シ居ルノミナラス該運動資金ヲ遊興費等

ニ濫費シ居リタルヲ奇貨トシ右非行ヲ捉ヘテ同人等ヲ恐喝シ以テ金員ヲ交付セシメムコトヲ共謀シ同年十月中旬頃同村合併運動事務所ナル同市博多驛前旅館福壽館ニ於テ前記谷山藤野小串等ニ對シ前敍ノ如キ非行ヲ難詰シ且事態斯クノ如クナル以上俱ニ該合併運動ニ携ハルコト能ハサルヲ以テ斷然合併委員ヲ辭任シ村民大會ヲ開催シテ前敍ノ如キ醜惡ナル内情ヲ暴露スル旨申向ケ同人等カ光安義雄ヲ介シテ其ノ讒意方ヲ勸説スルヤ留任ヲ拒絶シナカラ相當多額ノ金員ヲ提供スルニ非サレハ前記ノ如ク決行スヘキ旨暗示シ因テ同人等ヲ介シ前顯森卯作ヲシテ被告人等ノ右要求ニ應セサルニ於テハ右言明ノ如ク村民大會ニ於テ幹部委員ノ内情ヲ暴露セラレ其ノ名譽ヲ毀損セラルルノミナラス延テ刑事問題等ヲ惹起シ結局右合併運動ハ不成功ニ終ル外ナシト畏怖セシメ同人等ヲシテ其ノ共同保管ニ係ル合併運動資金ヨリ金三百圓ヲ出金セシメ前記光安義雄ノ手ヲ經テ同月二十一日同市東中洲町料亭樂天閣ニ於テ該金員ヲ交付ヲ受ケ以テ所期ノ目的ヲ遂ケタルモノニシテ被告人青木是親同野口虎雄(中略)同荒木茂同曾我祐夫ノ判示所爲ハ夫々同被告人等ノ犯意繼續ニ出テタルモノトス

法律ニ照スニ被告人青木是親ニ對スル判示第一ノ所爲ハ刑法第九十八條第一項第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ被告人野口虎雄ノ判示第二ノ所爲ハ刑法第九十七條第一項前段第五十五條ニ該當シ被告人荒木茂ニ對スル判示第五ノ所爲中同判示(一)ノ點ハ刑法第九十七條

第一項前段ニ同判示(二)ノ所爲ハ同法第九十八條第一項ニ各該當スルヲ以テ後段所爲ニ付所定刑中懲役刑ヲ選擇スヘク以上ハ同被告人ノ犯意繼續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條第十條ニ則リ重キ前段收賄罪ノ刑ニ從ヒ被告人曾我祐夫ニ對スル判示第六ノ所爲ハ刑法第九十七條第一項前段第五十五條ニ該當シ被告人常岡卯兵衛ニ對スル判示第四ノ點ハ刑法第九十八條第一項懲役刑ニ判示第七ノ點ハ刑法第二百四十九條第一項ニ各該當スルトコロ以上ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ニ係ルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ從ヒ重キ恐喝罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シ被告人藤崎常吉ニ對スル判示第七ノ所爲ハ刑法第二百四十九條第一項ニ該當スルヲ以テ各其ノ所定刑期範圍内ニ於テ被告人青木是親同荒木茂ヲ各懲役五月ニ同野口虎雄ヲ懲役三月ニ同常岡卯兵衛ヲ懲役六月ニ同曾我祐夫同藤崎常吉ヲ各懲役八月ニ各處シ被告人青木是親同野口虎雄同曾我祐夫同常岡卯兵衛同藤崎常吉ニ對シテハ刑法第二十一條ニ則リ各未決勾留日數ノ一部分ヲ主文掲記ノ如ク夫々右本刑ニ算入シ被告人野口虎雄同荒木茂ニ對シテハ刑法第二十五條ニ從ヒ各主文掲記期間右懲役刑ノ執行ヲ猶豫スヘク尙被告人野口虎雄同曾我祐夫ニ於テ各收受シタル判示賄賂全額及被告人荒木茂ニ於テ收受シタル賄賂中被告人曾我祐夫ニ交付スヘキ負擔ノ趣旨ニ從ヒ交付セリト認ムヘキ判示第三ノ(一)ノ(ハ)ノ三百圓ノ中小切手ヲ以テ交付(判示第五ノ(二)ノ(ハ))セル金百五十圓ヲ控除シタル殘額ハ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ各刑法第九十七條第二項後段ヲ適用シ夫々該價格ヲ追徴シ訴訟費用中主文掲記ノ分ハ刑事訴

証法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ從ヒ當該主文掲記被告人等ヲシテ夫々主文特記ノ如ク之ヲ負擔セシムヘキモノトス

甲ニ對スル贈賄被告事件ニ付豫審判事ハ乙ヲ證人トシテ宣誓セシメタル上訊問ヲ爲シタルトコロ先是其ノ收賄者タル丙ニ對シ收賄事件ノ起訴アリタルニ拘ラス豫審判事ハ前示ノ如ク乙ヲ證人トシテ訊問スル際丙ト證人トノ間ニ刑事訴訟法第八十六條ノ關係アルヤ否ヲ調査セサリシ然ルニ原審ハ丙ノ犯罪ヲ認ムルニ當リ右乙ノ證人訊問調書ヲ判斷ノ資料ニ供シタリ

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人曾我祐夫辯護人塚崎直義上告趣意書第三點原判決ハ第一ノ(四)及第六ノ(三)事實ノ證據トシテ證人柴藤タカニ對スル豫審判事訊問調書(記録第二冊一一六六丁以下)ヲ援用シタリ然ルニ同豫審判事書ヲ閱スルニ「青木是親ニ對スル贈賄業務上横領徳丸甚太郎 上野友吉ニ對スル贈賄野口虎雄ニ對スル收賄伊藤豊吉ニ對スル贈賄横領被告事件ニ付同證人ニ對シ宣誓セシメタル旨」記載アリ而シテ同證人ニ對スル訊問ハ昭和八年八月十六日ナルモ之ヨリ先キ昭和八年七月十四日曾我祐夫ニ對シ收賄事件(右證人ニ對スル事實ニ關スル事件)ノ起訴アリタルコトハ記録八冊ノ一四八九丁ノ豫審請求書及記

録二冊ノ一一〇〇丁ノ豫審請求書謄本ニ依リ明カナルニ同證人ニ對シ被告人曾我祐夫ノ收賄事件ニ付宣誓セシメタル事迹ナシ刑事訴訟法第九十六條ニハ「證人ニハ宣誓ヲ爲サシムヘシ」ト規定シアリテ證人トシテ訊問スルニハ其ノ訊問セントスル被告事件ニ付當時起訴セラレタル全被告人ノ爲ニ宣誓ヲ爲サシメサルヘカラサルモノナリトス然ルニ前示證人柴藤タカニハ被告人曾我祐夫ノ爲メ宣誓ヲ爲サシメスシテ訊問シタルハ右法條ニ違背シ被告人曾我祐夫ノ爲ニハ證據ト爲スコトヲ得サルモノトス然ルニ之ヲ採ツテ被告人曾我祐夫ニ對スル斷罪ノ資料(判示第六ノ(三)及第一ノ(四)事實)ニ供シタルハ採證ノ法則ニ違背シ破毀ヲ免レサルモノト信ス(昭和四年(れ)第八九一號四年九月二十七日第一刑事部決定參照)ト云ヒ」同辯護人赤井幸夫上告趣意書第二點原判決ハ證據トシテ(曾我祐夫ニ對スル判示第六事實ニ對スルモノ判示第一ノ四事實認定ニ引用シタル證據)柴藤タカニ對スル豫審判事ノ訊問調書(記録第二冊一一六六丁以下)ヲ引用シタリ仍テ同調書ヲ見ルニ其ノ冒頭ニ「青木是親ニ對スル贈賄業務上横領徳丸甚太郎 上野友吉ニ對スル贈賄野口虎雄ニ對スル收賄伊藤豊吉ニ對スル贈賄横領被告事件ニ付昭和八年八月十六日福岡地方裁判所ニ於テ豫審判事ハ證人資格審査ヲ爲シタル上宣誓ヲ命シテ訊問ヲ爲シタル旨ノ記載アリ然レトモ記録ヲ閱スルニ右證人カ訊問ヲ受ケタル事項ニ付上告人曾我祐夫ハ其ノ以前タル昭和八年七月十四日收賄罪トシテ起訴セラレタルモノナルヲ以テ右證人ニ就キテハ右曾我祐夫トノ關係ニ於テモ宣誓ヲ命シタル上訊問ヲ爲ササルヘカラサリシモノナリト

證人ノ身分關係調査ノ遺脱ト證言ノ證據力

ス然ルニ豫審判事ハ事茲ニ出テサリシコト前示ノ如クナルヲ以テ該訊問調書ノ記載ハ上告人曾我祐夫ノ關係ニ於テハ無効ナリ(御院昭和七年(レ)第八二六號同年七月九日第二刑事部言渡判決昭和四年(レ)第八九一號同年九月二十七日第一刑事部言渡判決各理由參照)從ツテ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ違法ニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

## 【要旨】

按スルニ贈收賄事件ニ付贈賄者收賄者ニ對シ各別ニ豫審請求アリタル場合豫審判事カ同事件ニ付第三者ヲ證人トシテ訊問スルニハ刑事訴訟法第九十五條ノ規定ニ從ヒ同法第八十六條第一項即チ被告人ト證人トノ間ニ於ケル身分關係ヲ調査シ宣誓資格ノ有無ヲ確メサルヘカラス而シテ此ノ調査ハ證人訊問當時既ニ起訴セラレ居リタル共同被告人ノ全部ニ付之ヲ爲ササルヘカラス勿論ニシテ豫審判事カ之カ調査ヲ遺脱シ證人訊問ヲ爲シタルトキハ其ノ宣誓ヲ爲サシメタルト否ヲ問ハス調査ヲ遺脱シタル被告人ニ對スル關係ニ於テハ證言タルノ效力ヲ有セサルモノニシテ若シ之ヲ其ノ被告人ノ爲罪證ニ供シタルトキハ探證法則ニ違反スルモノナルコト從來本院判例ノ趣旨トスル所ナリ所論豫審調書ニ依レハ曾我祐夫ニ對スル贈收賄被告事件ニ付同被告人ト證人トノ間ノ身分關係ヲ調査シ宣誓資格ヲ確メタル事迹ナシ而シテ一面記録ヲ調査スルニ曾我祐夫ニ對スル收賄被告事件ハ所論ノ如ク昭和八年七月十四日ニ起訴セラレ在リ當該訊問事項ハ同被告人ニ對スル收賄事件ニ關係ヲ有スルコト勿論ナルニ不拘豫審判事カ同被告人トノ間ノ身分關係ノ調査ヲ缺キタリシハ冒頭説明ノ理由ニ照シ證人訊問ノ手

續ニ違反シタルモノト云フヘク之ニ基キ爲シタル證人ノ供述ハ其ノ被告人ニ對スル關係ニ於テハ證據カヲ否定セサルヘカラス故ニ原判決カ所論證人柴藤タカニ對スル豫審判事ノ訊問調書ヲ曾我被告人ノ罪證ニ供シタルハ不法ナリ然レトモ原判文ヲ閱スルニ該證據ヲ除外スルモ原判示ノ犯罪事實ハ其ノ舉示セル爾餘ノ證據ヲ綜合スルコトニ依リテ之ヲ認メ得ヘキカ故ニ斯ノ如キ場合敍上ノ違法ハ原判決ニ影響ヲ及ホササルコト明白ナルモノトシ原判決破毀ノ理由トナラサルモノトス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
 檢事棚町丈四郎關與

## ○治安維持法違反被告事件

(昭和九年(レ)第一二二號  
 同年十二月六日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 市川 正一

【第一審】 東京地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

治安維持法第一條國體變革ノ目的ノ範圍

○判示事項

治安維持法第一條國體變革ノ目的ノ範圍

○判決要旨

究極ノ目的タル共產主義社會ノ實現ヲ期スル爲其ノ經過的目的トシテ君主制ノ廢止ヲ企圖スルニ於テハ治安維持法第一條第一項ニ所謂國體ノ變革ヲ目的トスルモノニ該當スルモノトス

【參照】治安維持法第一條第一項 團體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ情ヲ知リテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期懲役又ハ禁錮ニ處ス

○事實

第二審ハ被告人カ日本共產黨ハ國際共產黨ノ日本ニ於ケル支部ニシテ暴力革命ニ依リ共產主義社會ヲ實現セシムルコトヲ究極ノ目的トシ其ノ目的達成ノ手段トシテ我國建國ノ大本タル君主制ヲ廢止シ私有財産制度ヲ否認シテ労働者農民ノ政府ヲ作りプロレタリアート獨裁制度ヲ樹立スルコトヲ當面ノ目的トスル非合法結社ナルコトヲ知リナカラ之ニ加入シテ其ノ役員トナリ以テ黨ノ廣汎ナル活動ニ從事シ黨組織ノ整備擴大ヲ圖リ其ノ目的遂行ノ爲ニ努力シタル事實ヲ認定シ右所爲中國體ヲ變革スルコト

ヲ目的トスル結社ニ加入シ其ノ役員タリシ點ニ付昭和三年勅令第二百二十九號ヲ以テ改正セラレタル治安維持法第一條第一項前段ヲ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスル結社ニ加入シタル點ニ付同法條第二項ヲ適用シ尙以上ハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ重キ前者ノ罪ノ刑ニ從フヘキモノトシ所定刑中無期懲役刑ヲ選擇シタル上被告人ヲ無期懲役ニ處シ訴訟費用中豫審ニ於テ證人島田彌平同清水漸ニ支給シタル分ヲ被告人ニ負擔セシメタリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人市川正一上告趣意書第一點原判決ハ日本共產黨ノ目的ヲ以テ「暴力革命ニ依テ我國體ヲ變革シ私有財産制度ヲ否認シプロレタリアート獨裁ノ社會ヲ樹立シ因テ以テ共產主義社會ノ實現ヲ企圖スル結社」トナセルモ之本事件ニ關スル最重大ナル事實ノ誤認ナリ其ノ理由下ノ如シ日本共產黨ハ資本主義ノ支配ノ顛覆トプロレタリアートノ獨裁ノ樹立(當面)階級ノ廢絶即人ニ依ル人ノ搾取ノ廢絶ト共產主義社會ノ建設(究極)ヲ以テ目的トスルカ「國體ノ變革」トカ「私有財産制度ノ否認」トカ謂フ様ナモノハ其ノ目的中ニ影モ形モ存セス又其ノ政綱政策其ノ他何處ニモ存スルコトナシ殊ニ(一)日本

共產黨カ君主制ヲ廢シプロレタリアイト獨裁ノ政治ヲ樹立セントスルハ一時經過的ノ手段ニシテ其ノ究極ノ目的ニアラス(二)君主制ヲ廢シプロレタリアイト政治ヲ樹立スルハ政體ノ變革ニ過キサカ故ニ同黨ノ目的ハ治安維持法ニ所謂國體變革ノ目的ニ該當スルモノニ非ス又(三)同黨ハ資本家の及地主的私有財産ヲ廢絶シ之ヲプロレタリア所有トスルコトヲ目的トスルモノニシテ而カモ私有財産制度ハ暴力的革命又ハ革命手段ニ依リ之ヲ廢絶シ得ヘキモノニ非サルカ故ニ同黨ハ社會主義的經濟ノ發展ニ依リ自然的ニ右變動ヲ期待スルニ過キサカ故ニ私有財産制度ヲ否認スルコトハ同黨ノ目的トスルトコロニアラス然ルニ原判決カ同黨ノ目的ヲ誤認シ被告ノ行爲ニ付テ治安維持法ヲ適用シタルハ大ナル事實ノ誤認アルモノナリト云フニ在レトモ

原判示事實中日本共產黨カ暴力革命ニ依リテ我國體ヲ變革シ私有財産制度ヲ否認シプロレタリアイト獨裁ノ制度ヲ樹立シ因テ以テ共產主義社會ヲ實現ヲ企圖スルコトヲ目的トスル結社ナルコトハ原判決ニ證據トシテ引用セル佐野學 鍋山貞親 高橋貞樹及杉浦啓一ニ對スル治安維持法違反三田村四郎ニ對スル治安維持法違反並傷害各被告事件ノ原審第一回公判調書中ノ佐野學ノ其ノ旨ノ供述記載ニ依リテ洵ニ明瞭ナリ記錄ヲ精査スルモ此ノ點ニ關シ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ヲ發見セス所論ハ畢竟原審ト相容レサル獨自ノ見解ニ基キ又ハ原審ノ採用セサル第一審第二審ニ於ケル被告人等ノ供述ヲ云爲シテ原審ノ專權ニ屬スル證據ノ取捨判斷延イテ事實ノ認定ヲ非

## 【要旨】

議スルニ歸シ採用スヘカラス而シテ(一)我國ハ萬世一系ノ天皇君臨シ統治權ヲ總攬シ給フコトヲ以テ其ノ國體ト爲スモノナレハ我國ニ於テ君主制ヲ廢止シテプロレタリアイト獨裁政治ヲ樹立セントスルコトハ國體ノ變革ヲ目的トスルモノナルコト多言ヲ要セサルトコロナリトス所論ハ日本共產黨ノ究極ノ目的ヲ以テ共產主義社會ヲ實現ヲ期スルニ在リテ君主制廢止及プロレタリアイト獨裁制度樹立ハ唯當面ノ目的タルニ止マルモノニシテ究極目的達成ノ爲ニスル經過的闘争ノ一タルニ過キス從テ君主制廢止ヲ以テ同黨ノ目的ト爲スヘカラスト主張スルモ已ニ同黨カ當面ノ目的トシテプロレタリアイト獨裁制度ヲ樹立スル爲君主制ノ廢止ヲ企圖スル以上其ノ企圖カ究極目的ナルト經過的ノ目的ナルトハ治安維持法ノ適用上結論ヲ異ニスヘキモノニ非サルカ故ニ之ニ關スル所論ハ採用ノ限ニ在ラス(二)前述ノ如ク我國ニ於テハ君主制ノ廢止ハ治安維持法ニ所謂國體ノ變革ニ該當スルモノニシテ所論ノ如ク之ヲ以テ單ナル政體ノ變動ニ過キスシテ國體ノ變革ニ非スト爲スヲ得ルナリ縷々敘述スル所論ハ畢竟原審ト相容レサル獨自ノ見地ニ立脚シテ徒ニ原審ノ事實認定ヲ非議スルニ歸シ採用スヘカラス(三)日本共產黨カ私有財産制度ノ否認ヲ企圖スル結社ナルコトハ前掲原判決認定ノ事實ニ依リテ之ヲ認ムルコトヲ得ヘク所論ノ如ク同黨カ資本家の私有財産及地主的私有財産ヲ廢絶セントスル以上ハ此ノ點ニ於テ私有財産制度否認ノ目的ヲ存スルカ故ニ更ニ全勞働人民ニ依ルカ共有ヲ目的トスルコトアルモ之カ爲ニ敍上目的ヲ阻却スルモノニ非ス而シテ同黨カ所論ノ如ク社會主義的經濟ノ自然

發展ニ依リテ右目的ヲ達セントスルモノナルコトハ原判決ノ認メサルトコロナルカ故ニ所論ハ到底採用シ難シ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事棚町丈四郎關與

○治安維持法違反被告事件(昭和九年(九)第一二二二號  
同年十二月六日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 今野健夫

【第一審】 東京地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

私有財産制度ノ要素ヲ破壊スル場合ト大正十四年法律第四十六號  
第一條第一項ノ適用

○判決要旨

現在ノ資本家所有ノ大土地ヲ非合法的ニ無償沒收シ之カ所有權ヲ無視スルカ如キハ我國法ノ認許セル私有財産制度ノ重要ナル成素ヲ破壊スル結果ヲ來スヘキモノニシテ治安維持法ニ所謂私有財産制度ノ否認ニ該當スルモノトス

【參照】 大正十四年法律第四十六號治安維持法第一條 國體ヲ變革シ又ハ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ組織シ又ハ情ヲ知リテ之ニ加入シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス  
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役七年ニ處ス但シ原審ニ於ケル未決勾留日數中四百日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ  
日本共産黨ハ我カ建國ノ大本タル君主制ヲ撤廢シ私有財産制度ノ基調トスル資本主義社會ヲ顛覆シ「プロレタリアート」獨裁ノ制度ヲ樹立シ之ニ依リテ共產主義社會ヲ實現セシムルコトヲ企圖スル非合法結社ナルトコロ

被告人ハ東京合同勞働組合常任委員長關東地方評議會中央委員等ヲ爲シ大正十三年以來各種爭議ヲ指  
私有財産制度ノ要素ヲ破壊スル場合ト大正十四年法律第四十六號第一條第一項  
ノ適用 一六八三 (一四七)



導シ社會運動ニ從事シ共產主義ヲ信奉スルニ至リシモノナルカ大正十五年四月頃東京市本所區大平町東京合同労働組合本部事務所内渡邊政之輔ノ居室ニ於テ同人ヨリ共產黨ニ加入スヘキ旨ノ勸誘ヲ受クルヤ之ヲ承諾シ其ノ後大島英夫等ト屢々秘密ニ會合シテ雜誌マルクス主義、無産者新聞等ノ論說ニ付テノ研究等ヲ重ネ居ル内昭和二年四月ニ至リ右會合ハ日本共產黨ノ細胞會議ニシテ自己カ既ニ同黨員ト爲リ居ルコトヲ認識シ且同黨ハ前記ノ如キ目的ノ秘密結社ナルコトヲ知リナカラ爾來其ノ目的ヲ遂行センカ爲

第一 昭和二年五月頃ヨリ同年十二月頃迄ノ間大島英夫 直井武夫 佐藤安衛 (後ニ松尾直義 喜入虎太郎加ハル) 等ト同黨ノ細胞ヲ構成シ該期間中東京市牛込區早稻田鶴卷町大島英夫方其ノ他ニ於テ秘密ニ開カレタル細胞會議ニ數回出席シ右細胞員等ト共謀ノ上勞農一派中ノ優秀分子ト意思疎通ヲ圖リ若シ不成功ノ場合ハ果敢ナル理論闘争ニ依リテ左翼運動ヨリ除外スヘキコト工場新聞ヲ發行スルコト等ニ付協議決定シ

第二 昭和三年二月初旬頃ヨリ同月下旬頃迄ノ間南喜一 島上善五郎 上田茂樹 森岡嘉門次 内屋博等ト同黨ノ所謂市電龜澤町車庫工場細胞ノ構成員トナリ該期間中同市小石川區竹早町内屋博方ニ於テ秘密ニ開カレタル細胞會議ニ出席シ右細胞員等ト共謀ノ上市電自治會本部車庫従業員ノ誠首問題ニ對スル對策工場新聞發行ノ件其ノ他ノ事項ニ付協議決定シ

第三 同年一月下旬頃關東地方委員會所屬出版局員ヲ命セラレ同年四月五日頃迄ノ間同市芝區三田四國町關東地方評議會本部其ノ他ニ於テ平井直 村尾薩男其ノ他ノ者ヨリ交付ヲ受ケタル原稿其ノ他ニ基キ同市小石川區小石川小日向町皆川某方其ノ他ニ於テ

- (一) 「五十四議會の解散總選舉に對して聲明す」
- (二) 選舉方針書並同方針書增補訂正
- (三) 「十日夜の演說會示威運動敢行に當り全關東の黨員諸君並戰闘的労働者諸君に檄す」
- (四) 「革命的労働者農民に對する黨候補者演說要旨」
- (五) 労働黨中央「フラクション・ビューロー」指令第二號
- (六) 「共產黨の政策」
- (七) 「大山氏を擁して東京驛から芝へ大衆的示威運動を執行せよ」
- (八) 日本共產黨關東地方「ビューロー」ノ署名アル「昨年の金融の恐慌の時」云々ト冒頭セル檄文
- (九) 赤旗第五號同志第一、二號
- (十) 「總選舉に當つて労働者貧農大衆に檄す」
- (十一) 日本共產黨中央委員會ノ署名アル「全國の労働者農民諸君」云々ト冒頭セル檄文

私有財産制度ノ要素ヲ破壊スル場合ト大正十四年法律第四十六號第一條第一項  
ノ適用 一六八五 (一四九)

- (十二) 「大衆的威力で資本家を叩き伏せ労働者の利益を奪取せよ」
- (十三) 「日本共産黨の檢舉瀕々と相續き全國で無慮七百名の闘士拘引さる」
- (十四) 「田中反動内閣は暗黒裡に共産黨の彈壓を策し労働者農民の精銳を續々拘留す」
- (十五) 「政府は我共産黨を彈壓せんとして全國に互り労働者農民一千名を檢束拘留す」
- (十六) 「日本共産黨ノ署名アル「共産主義的學生諸君」ト冒頭セル檄文  
等諸種ノ黨文書各數百部ノ印刷ヲ爲シ該期間中數回ニ右村尾薩男其ノ他ノ者ニ交付シタルモノナリ」

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ犯時法ニ從ヘハ大正十四年法律第四十六號治安維持法第一條第一項後段ニ該當スルトコロ同法ハ犯罪後タル昭和三年六月二十九日勅令第二百二十九號ニ依リ改正セラレタルヲ以テ刑法第六條第十條ニ則リ新舊兩法ヲ比照シ輕キニ從ヒ處斷スヘキモノナルニ依リ之ヲ新法ニ照スニ判示國體ヲ變革スルコトヲ目的トスル結社加入ノ點ハ同法第一條第一項後段ノ加入罪ニ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスル結社加入ノ點ハ同法第二項ノ加入罪ニ各該當シ以上ハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ重キ前者ノ罪ノ刑ニ從フヘキモノトス仍テ前示法條ニ則リ新舊法ヲ比照スルニ舊法ノ刑輕キヲ以テ之ニ從ヒ其ノ懲役刑ヲ選擇シ所定期間範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役七年ニ處シ尙刑法第二十一條ニ基キ原審ニ於ケル未決勾

留日數中四百日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人今野健夫上告趣意書ノ要領ハ(一) 原判決ハ日本共産黨カ治安維持法違反ナリトノ前提ニ基キテ爲サレアリ此ノ前提カ正當ナリヤハ裁判官ノ決定スルトコロナリトハイヘ同法ヲ適用シ得サル共産黨ニ對シ之ヲ適用スルハ正當ニ非ス被告人ハ檢事又ハ裁判官カ考フル如キ共産黨ニ關係スルモノニ非サレハ被告人ノ行爲ヲ同法ニ依リテ處斷スルハ不當ニシテ被告人ハ斯ノ如キ裁判ニ對シ根本的ニ且全體的反對シ更ニ正當ナル裁判ヲ要求スルナリ法律的ニ云ヘハ日本共産黨ハ國體ノ變革私有財産制度否認ヲ以テ目的トスル秘密結社ニ非サルニ拘ラス檢事ハシカク解釋シテ起訴シタルモ豫審終結決定書ニ於テハ夫レカ區々トナリ居リ第一審裁判長ハ其ノ判決ニ於テ日本共産黨カ右ノ如キ目的ヲ有スル秘密結社ナリト認定セサルニ拘ラス之ニ治安維持法ヲ適用シテ其ノ理由ヲ示サス第二審判決亦之ヲ明確ナラシメサルナリ共産黨ノ如何ナルモノナルヤヲ明確ナラシムルニハ統一公開ノ裁判ニ據ラサルヘカラサルニ原審ハ反對ニ分割的個別的ニ裁判ヲ爲セルハ失當ナリ日本共産黨ヲ治安維持法ニ該當セシムルコトハ同黨彈壓ナル階級的闘争ヲ合理化合法化スルモノニシテ共産黨事件ノ裁判ハブルジョア階級

私有財産制度ノ要素ヲ破壞スル場合ト大正十四年法律第四十六號第一條第一項ノ適用

ノ階級闘争ヲ合理化シ合法化スルコトヲ目的トスルコトニ外ナラス(二)裁判官ハ日本共産黨カ治安維持法ニ違反スルハ國體ヲ變革シ私有財産制度ヲ否認スルカ故ナリト云フ其ノ國體ノ變革ト爲スモノハ同黨カ君主制ノ廢止或ハ天皇制ノ廢止ト云フスローガンヲ掲ケタリト云フニ在リ檢事ノ論告ハ君主制ノ廢止即チ國體ノ變革ニシテ國體ハ國民ノ歴史的確信ニ基クモノナリト云フモ斯克ノ如キ歴史的確信カアリ得サルカ故ニ共産黨カ君主制廢止ノスローガンヲ掲ケルハ決シテ檢事ノ論告ニ於ケル意味ノモノニ非ラス共産黨ハ勞働者農民ノソビエツト權力ノ樹立トシテノ闘争ヲスローガントシテ此ノ君主制廢止ト云フスローガンヲ掲ケルモノニシテ檢事論告ノ如キ單ナル國體ノ變革ト云フ一方の無政府的ノモノニ非サルナリ司法省當局ノ解説ニ依レハ國體ノ變革トハ具體的ニ云ヘハ君主制ヲ共和制度又ハソビエツト制度ト爲スコトナリトアリ然レトモ君主制ヲ廢シテ共和制等ニスルコトハ本質的變革ニ非スシテ單ニ政治形態ノ變革ニ過キササルナリ(三)次ニ日本共産黨カ治安維持法違反ナリトスル理由ハ私有財産制度ノ否認ト云フコトナリ其ノ具體的證據ハ共産黨カ大土地ノ無償沒收或ハ大土地所有ノ廢止ト云フスローガンヲ掲ケタルコトニ過キス大土地ヲ無償沒收シ大土地所有制ヲ廢止シタノミニテハ決シテ私有財産制度ノ否認トナラス何トナレハ大工場鑛山銀行等所謂大産業ハ依然トシテブルジョア階級ノモノナレハナリ又土地ヲ沒收スルモ之ヲ農民ニ分配スルナラハ之ヲ以テ決シテ私有財産制ノ否認トハナラス殊ニ中小農ノ土地ヲ無償沒收シタリ土地所有制ヲ廢止シタリ爲ササル限り未ダ同制度ノ

否認ト云フヲ得サルナリ(四)檢事ノ論告ニ社會ノ基礎タル私有財産制度云々トアリタリ然レトモ社會ヲ以テ數百萬ヲ算スル勞働者又ハ農民或ハ中小小工業者其ノ他サラリマン等即チ人民ノ大多數者ヲ指シテ云フモノトスレハ明ニ是等ノ大多數者ハ私有財産ヲ所有セサル無產者ニシテ私有財産制度ハ此等ノ社會ノ基礎ヲ爲ササルナリ同制度ノ否認トハブルジョア私有財産制度ノ否認ニ過キスシテ斯カル制度ノ否認ハ社會ノ基礎ヲ破壊スルモノニ非ス(五)裁判官カ共産黨ハ治安維持法違反ナリト判決スルモ被告人ハ全然之ニ反對スルモノナリト論シ獨自ノ見解ヨリ日本共産黨ノ主義精神ヲ説明シテ反覆理論闘争ヲ試ミ被告人等ノ行動ハ同法違反ニ非サルニ依リ無罪即時解放ヲ要求スルモノナリ然ルニ原審ハ被告人ヲ以テ同黨ニ加入シ其ノ活動ヲ爲シタルモノナリト認メ同法ニ依リ懲役七年未決勾留日數四百日通算ノ判決ヲ爲シタリト雖モ六箇年以上ノ未決勾留ニ對シ四百日ノ通算ハ過少ナルノミナラス七年ノ懲役ハ過重ナリ仍テ上告ニ及フト云フニ在レトモ

(一) 原判示事實ハ原判決舉示ノ證據ニ依リテ優ニ之ヲ證明スルニ足ル之ニ依レハ被告人ハ日本共産黨カ我國建國ノ大本タル君主制ヲ撤廢シ私有財産制度ノ基調トスル資本主義社會ヲ顛覆シプロレタリアト獨裁制度ヲ樹立シ之ニ依リテ共產主義社會ヲ實現セシムルコトヲ企圖スル非合法結社ナルコトヲ知リナカラ之ニ加入シ原判示ノ如キ同黨ノ目的遂行ノ行爲ヲ爲シタルモノナルコト明白ニシテ右ハ大正十四年法律第四十六號治安維持法第一條第一項後段ニ該當スル犯罪ヲ構成スルモノトス記録ヲ精

私有財産制度ノ要素ヲ破壊スル場合ト大正十四年法律第四十六號第一條第一項

査スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルヲ認メス又裁判所カ共同被告事件ヲ分離シテ審判スルト否トハ其ノ職權ニ屬スルモノナルカ故ニ原審カ當該事件ヲ分離シテ個別的ニ審判シタリトスルモ毫モ違法ノ處置ニ非ス所論ハ畢竟原審ト相容レサル獨自ノ見解ニ基キテ原審ノ職權ニ屬スル事實認定ヲ非議シ以テ被告人ノ行動ヲ以テ同法ニ問擬處斷シタルハ不可ナリト做スモノニ外ナラス其ノ他ノ第一審判決等ニ對スル非難ノ如キハ元來第二審ノ判決ニ對スル不服申立ノ方法ナル上告理由トシテハ適法ナルモノニ非ス(二)我國ハ萬世一系ノ天皇君臨シ統治權ヲ總攬シ給フコトヲ以テ其ノ國體ト爲シ治安維持法ニ所謂國體ノ意義毫モ之ニ異ラス而シテ我君主制ヲ廢止スルコトハ即チ右ニ云フトコロノ國體ノ變革ヲ招來スルモノニ外ナラサルカ故ニ右君主制ヲ撤廢シプロレタリアイト獨裁制度ヲ樹立シ之ニ依リテ共產主義社會ヲ實現セシムルコトヲ企圖スル非合法的結社ハ即チ同法ニ所謂國體ノ變革ヲ目的トスル結社ニ該當スルモノトス所論ハ畢竟原審ト相容レサル獨自ノ見解ニ基キテ日本共產黨ハ治安維持法ノ結社ニ該當セスト爲シテ原判決ヲ攻撃スルニ歸シ採用スヘカラス(三)現行法ノ下ニ在リテハ資本階級所有ノ大土地ト雖固ヨリ法律ノ保護ヲ受クヘキモノニシテ斯カル土地ヲ非合法的ニ無償沒收シ之カ所有權ヲ無視スルカ如キハ我國法ノ認許セル私有財產制度ノ重要ナル成素ヲ破壞スル結果ヲ來スヘキモノナレハ治安維持法ニ所謂私有財產制度ノ否認ニ外ナラサルカ故ニ日本共產黨カ右ノ如キ所有權ノ廢止ヲ爲シ延イテプロレタリアイト獨裁ヲ樹立シ共產主義社會ノ實現ヲ企圖スル以上私有財產制度

## 【要旨】

否認ヲ目的トスル結社ナルコト言ヲマタサルトコロニシテ他日沒收土地ヲ農民ニ分配スルト否トハ右制度否認ノ觀念ニ消長ヲ來スモノニ非ス所論採用スヘカラス(四)所論ハ専ラ檢事ノ論告ニ對スル攻撃ナルモ上告ハ原判決ニ關スル不服申立ノ方法ナレハ右ノ如キハ適法ナル上告理由ニ非サルナリ(五)被告人ノ原判示行爲カ前記治安維持法第一條第一項後段ニ該當スル犯罪ナルコトハ敍上(一)ニ於ケル説明ニ依リテ明瞭ナリトス要之所論ハ原審ト相容レサル獨自ノ見解ニ基キテ日本共產黨ノ主義目的ヲ縷述シテ被告人ノ所爲ハ同法ノ支配ヲ受クヘキモノニ非スト爲スヲ以テ主眼トスルモ日本臣民タル者ハ何人ト雖日本法律ニ服從スヘク之カ服從義務ヲ否定スルカ如キハ國法ノ許ササルトコロナリ更ニ記録ヲ精査シ犯行其ノ他諸般ノ情狀ヲ考量スルモ原審ノ量刑甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルヲ認メス爾餘ノ所論ハ現行法ノ規定ニ照シ原裁判ノ違法ナル點ヲ指摘攻撃スルモノニ非サルカ故ニ上告ノ適法ナル理由ト爲スヲ得ス論旨總テ理由ナシ右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事棚町丈四郎關與

○背任被告事件(昭和九年(九)第一三二二號 事實審理)

一六九二 (一五)

【上告人】 被告人 樋口要吉 辯護人 (中井一夫)

【第一審】 神戸地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

取締役個人ノ債務ニ對スル會社ノ連帶保證ト取締役ノ背任罪ノ成否  
株式ノ名義變更ニ對スル承認ノ有無ト背任罪ノ成否

○決定要旨

- 一 株式會社ノ取締役個人ノ金錢債務ニシテ會社ト何等ノ交渉ヲ有セサルモノニ付取締役力會社ヲ代表シテ其ノ連帶保證ヲ爲シ債權者ニ對シ其ノ旨ノ私署證書ヲ差入ルルモ之力爲ニ會社ハ保證責任ヲ負擔スルモノニ非ス【要旨第一】
- 二 株式會社ノ定款ニ株式ハ取締役會ノ承認ヲ經ルニ非サレハ之ヲ賣買讓渡スルコトヲ得サル旨ノ規定アル場合ニ其ノ取締役會ノ一員タル取締役力會社ヲ代表シ株式ノ質權者ニ對シ質權實行ノ

場合ニ名義變更承認手續ヲ爲スヘキコトヲ引受ケ若シ取締役會ニ於テ名義變更手續ヲ拒否シタルトキハ其ノ損害ノ賠償ヲ爲スヘキコトヲ約諾シタル事實ヲ判示シタルノミニテハ背任罪ノ成否ハ不明ニシテ判示トシテハ理由不備ナリトス【要旨第二】

【參照】 商法第二百二十條第一號 發起人ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名スルコトヲ要ス

一 目的

同法第二百六十五條 商人カ其營業ノ爲メニスル行爲ハ之ヲ商行爲トス

商人ノ行爲ハ其營業ノ爲メニスルモノト推定ス

同法第七十七條 取締役力其任務ヲ怠リタルトキハ其取締役ハ會社ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス

取締役力法令又ハ定款ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキハ株主總會ノ決議ニ依リタル場合ト雖モ其取締役ハ第三者ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス

同法第四十九條 株式ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ承諾ナクシテ之ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得但第四百一十一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記

ヲ爲スマテハ之ヲ讓渡シ又ハ其讓渡ノ豫約ヲ爲スコトヲ得ス

同法第七十條第二項 定款又ハ株主總會ノ決議ヲ以テ取締役中會社ヲ代表スヘキ

者ヲ定メス又ハ數人ノ取締役力共同シ若クハ取締役力支配人ト共同シテ會社ヲ代

取締役個人ノ債務ニ對スル會社ノ連帶保證ト取締役ノ背任罪ノ成否 株式ノ名

義變更ニ對スル承認ノ有無ト背任罪ノ成否

表スヘキコトヲ定メサルトキハ取締役ニ各自會社ヲ代表ス  
 第三十條ノ二第二項及ヒ第六十二條ノ規定ハ取締役ニ之ヲ準用ス  
 同法第六十二條第二項 會社ヲ代表スヘキ社員ハ會社ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上  
 又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス  
 民法第四十四條第一項及ヒ第五十四條ノ規定ハ合名會社ニ之ヲ準用ス  
 民法第四十四條第一項 法人ハ理事其他ノ代理人カ其職務ヲ行フニ付キ他人ニ加ヘ  
 タル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人要吉ヲ懲役八月ニ處ス但シ二年間其ノ刑ノ執行ヲ猶豫スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人樋口要吉ハ昭和七年十二月十四日松井和吉ト共ニ神戸市兵庫區新在家町神戸市中央卸賣市場内神戸生魚株式會社ノ取締役ニ就任シタルモノナルトコロ自己個人トシテ吉成明 日野敬一ヨリ金三千圓ヲ借受クルニ際シ神戸生魚株式會社ト何等交渉ヲ有セス從テ被告人樋口要吉及松井和吉兩名ハ取締役トシテ濫ニ該貸借ニ付債務負擔行為ヲ爲スヘカラサルモノナルニ拘ラス貸主ヨリ同會社ノ引受保證ヲ要求セラルルヤ其ノ貸借ヲ成立セシメテ被告人樋口要吉ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ共謀ノ上之ニ應シ昭和七年十二月三十日神戸市湊東區多開通五丁目九十三番屋敷公證人山崎敬義役場ニ於テ各自其ノ任

務背キ被告人要吉ノ右借金三千圓ノ債務ニ付擅ニ同會社取締役トシテ之ヲ代表シ貸主ニ對シ被告人樋口要吉カ擔保トシテ差入ルヘキ同會社株式ノ名義變更承認手續及其ノ變更不履行ノ場合ノ即時損害賠償ヲ約諾シ一般財産ニ對スル強制執行ノ異議ナキコト借主ト連帶ノ保證責任ナルコトヲ認諾シテ其ノ旨ノ私署證書(證第二十五號)ヲ差入レ以テ同會社ニ對シ右債務負擔ニ因ル財産上ノ損害ヲ加ヘタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人樋口要吉ノ判示所爲ハ刑法第二百四十七條第六十條ニ該當スルヲ以テ所定刑中懲役刑ヲ選擇シタル上其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ主文掲記ノ如ク量刑處斷シ同法第二十五條ニ則リ情狀ニ依リ右刑ノ執行ヲ二年間猶豫スヘキモノトス

○主文

本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

○理由

辯護人中井一夫 前田力上告趣意書第三點ハ本件上告人樋口要吉ノ嫌疑ノ基礎ハ證第二十五號引受保證書ニ於テ自己ノ振出松井ノ裏書ニ係ル金三千圓ノ手形債務ニ對シ自己及松井カ神戸生魚株式會社ヲ代表シ右會社ヲシテ其ノ引受保證義務ヲ負ハシメタリト云フモ元來株式會社ノ取締役カ會社ト爲ス取引ニ監査役ノ承認ヲ得ルニ非サレハ其ノ行為ノ無効ナルコト商法第七十六條ノ明記スル處ニシテ本

取締役個人ノ債務ニ對スル會社ノ連帶保證ト取締役ノ背任罪ノ成否 株式ノ名義變更ニ對スル承認ノ有無ト背任罪ノ成否

件金三千圓ノ貸借問題ハ取締役カ會社ト爲ス取引ノ一種ナルコト商法第七十六條ノ立法精神ヨリシテ明ナリ此ノ理ニ於テ誤リナカラムカ證第二十五號引受保證書ニ依ル引受保證契約ハ監査役ノ承認ナキ(全記録ヲ査閱スルモ監査役ノ承認ナシ)無効ノモノナルヲ以テ會社ハ之ニ依リテハ何等ノ保證債務ヲ負フヘキニ非ス且ツ素ヨリ何等ノ損害ヲ蒙ルコト無キヲ以テ本件犯罪ノ成立要件タル損害ヲ加ヘタルコトノ要件ヲ缺クモノニシテ本件背任罪ノ罪質(毀損罪(目的罪))ヨリシテ背任罪ノ成立セサルコト火ヲ見ルヨリ明ナリ(大審院昭和五年(オ)第二三〇七號判決)況ンヤ會社ノ第三者ニ對スル保證行爲ハ會社ノ定款ノ定ムル營業目的ノ範圍外ニ屬スル行爲ナルニ於テオヤコノ點ニ關スル原審(控訴)判示理由ハ其ノ意味不明ニシテ株式名義變更承認手續等ニ關スル債務負擔行爲ハ有效云々ト云ヘルモ素ヨリ斯ル手續行爲ハ取締役トシテ當然ノ職責ニシテ斯ル手續行爲ノ有效無效ヲ論スルニアラズ引受保證債務カ有效ニシテ其ノ効力カ會社ヘ及ホスヤ否即チ其ノ効力ヲ及ホシタル結果會社ニ損害アリヤ否ノ點ナルヲ以テ理由不備ナルノミナラス原審(控訴)ニ於ケル辯護人辯論ノ要旨ハ次ニ添付スルカ如ク(控訴審ニ於テ辯護人ヨリ提出セル上申書ト題スル辯論要旨四點以下)ナルヲ以テ原審判示理由ハ其ノ趣旨ヲ誤解シタルモノニシテ參考迄左ニ要旨ヲ添付致シ候ト云フニ在リ

仍テ案スルニ原判決ノ判示事實ニ依レハ被告人要吉ハ昭和七年十二月十四日松井和吉ト共ニ判示神戸生魚株式會社ノ取締役ニ就任シタルモノナルトコロ自己個人トシテ吉成明 日野敬一ヨリ金三千圓ヲ

借受クルニ際シ右會社ト何等交渉ヲ有セス從テ被告人要吉及松井和吉兩名ハ取締役トシテ濫ニ該貸借ニ付債務負擔ノ行爲ヲ爲スヘカラサルモノナルニ拘ラス貸主ヨリ同會社ノ引受保證ヲ要求セラルルヤ其ノ貸借ヲ成立セシメテ被告人要吉ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ共謀ノ上之ニ應シ同月三十日判示場所ニ於テ各自其ノ任務ニ背キ被告人要吉ノ右借金三千圓ノ債務ニ付擅ニ同會社取締役トシテ之ヲ代表シ貸主ニ對シ被告人要吉カ擔保トシテ差入ルヘキ同會社株式ノ名義變更承認手續及其ノ變更不履行ノ場合ニ於ケル損害賠償ヲ約諾シ一般財産ニ對スル強制執行ノ異議ナキコト借主ト連帶保證ノ責任ナルコトヲ認諾シテ其ノ旨ノ私署證書ヲ差入レ以テ同會社ニ對シ右債務負擔ニ因ル財産上ノ損害ヲ加ヘタルモノナリト謂フニアリサレハ右貸主ニ對スル會社ノ判示ノ如キ引受保證ノ契約ハ貸主ト會社トノ行爲ナルカ故ニ商法第七十六條所定ノ取引ニ當ラサルモノト謂フヘク從テ此ノ點ニ關スル原判決ノ説明ハ其ノ當ヲ得サレトモ論旨ハ結局其ノ理由ナキニ歸ス然レトモ原判示ニ依レハ判示ノ契約中(一)被告人要吉ノ金錢債務ニ對スル會社ノ連帶保證ハ會社ノ目的外ナルハ勿論商法第二百六十五條ニ所謂目的タル該營業ノ爲ニスル行爲ニ非サルコトヲ判示シタル趣旨ナリト解スヘキモノトス然ラハ被告人等カ右會社ノ取締役トシテ爲シタル金錢債務ニ對スル連帶保證ハ會社ニ對シテハ何等ノ効力ヲ及ホスモノニ非サルカ故ニ會社ハ其ノ責ニ任スヘキ理由ナク從テ之ヲ以テ直ニ會社ニ損害ヲ被ラシメタルモノト做シタルハ其ノ當ヲ得ス故ニ被告人等ハ更ニ進ンテ會社財産ヲ以テ該保證債務ノ履行ヲ爲シタリトセ

【要旨第一】

取締役個人ノ債務ニ對スル會社ノ連帶保證ト取締役ノ背任罪ノ成否 株式ノ名義變更ニ對スル承認ノ有無ト背任罪ノ成否

【要旨第二】

ハ格別原判示ノ程度ヲ以テハ未以テ背任罪ノ構成要件ヲ具備シタルモノト謂フヲ得ス(二)又被告人要吉カ貸主ニ對シ擔保トシテ差入ルヘキ同會社ノ株式ニ付其ノ引用證據ヲ參照スルニ同會社ノ株式ハ取締役會ノ承認ヲ經ルニ非サレハ之ヲ賣買讓渡スルコトヲ得サル旨ノ規定アリ原判決ハ此ノ規定ニ重キヲ置キ取締役會ノ承認ヲ要スヘキ事項ヲ擅ニ其ノ取締役會ノ一員タル被告人要吉及松井和吉ニ於テ名義變更承認手續ヲ爲スヘキコトヲ引受保證シモシ取締役會ニ於テ名義變更手續ヲ拒否シタルトキハ其ノ損害賠償ヲ爲スヘキコトヲ約諾シタルコトヲ以テ背任罪ヲ構成スルモノト斷定シタルモノノ如シ然レトモ定款ニ右ノ如キ規定ノミ存シ他ニ株主タルヘキモノノ資格等ヲ定メタル規定ナキ場合ニ於テハ取締役會カ株式ノ賣買讓渡ヲ承認スヘキヤ否ハ正當ノ理由例ヘハ會社並株主ノ一般的利益ヲ標準トシテ之ヲ決スヘク氣隨氣儘ニ之ヲ決スヘキモノニ非サルコト理ノ當然ナリト謂フヘク從テ貸主カ本件ノ擔保權ヲ實行セムトスルニ當リ取締役會カ株式名義變更ヲ拒否スヘキ正當ノ理由ナキニ拘ラス之ヲ拒否シタルトモ之レ承認權ノ濫用ニシテ不法ナリト謂フヘク從テ之カ爲ニ債權者ニ損害ヲ被ラシメタルトキハ會社ニ於テ之カ賠償ヲ爲スヘキモノナルコト商法第七十條第二項第六十二條第二項民法第四十四條第一項ノ規定ノ解釋上疑ナキカ故ニ判示ノ約旨ニシテ斯ル場合ニ應スル爲ナリトモ是レ法律上當然ナルコトヲ約シタルニ止マルカ故ニ任務違背ノ行爲アルモノト謂フヘカラス反之取締役會ノ名義變更不承認ノ決議カ會社並ニ株主ノ一般的利益ニ合致スル等正當ナルニ拘ラス斯ル場合ニ應ス

ル爲取締役タル任務ニ背キ右ノ如キ損害賠償ノ契約ヲ爲シタルモノトモトモハ背任罪ト成ルニ至ルヘシ然ルニ原判示ニ依レハ以上就レナルカ判明セス要スルニ原判決ハ背任罪ノ判示トシテハ理由不備ノ違法アリ論旨ハ粗ニシテ盡ササルトコロアリト雖究局ニ於テ理由アルニ歸スルモノト謂フヘシ仍テ刑事訴訟法第四百四十條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

檢事柴碩文關與

○公文書偽造行使詐欺私文書偽造行使 自動車取締令違反外國  
 旅券規則違反被告事件 (昭和九年(九)第一三三三號 破毀自判)  
(同年十二月十日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 松井俊雄 辯護人 島田伊織

【第一審】 長崎地方裁判所佐世保支部 【第二審】 長崎控訴院

○判示事項

外國旅券ヘノ不實記載ト其ノ適條



外國旅券へノ不實記載ト其ノ適條

○判決要旨

他人名義ヲ詐リテ外國旅券下附ヲ請求シ其ノ下附ヲ受ケタル事實ニ對シテハ刑法第五百七條第二項ヲ適用スヘキモノニシテ外國旅券規則違反及詐欺罪ニ問擬スヘキモノニ非ス

【參照】 刑法第五十七條 公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

刑法第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

外國旅券規則第一條 外國へ渡航スル者ニ下付スル旅券ハ外務大臣之ヲ發給シ外國

ニ於テハ在外公館長ヲシテ之ヲ發給セシム

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年六月ニ處ス但シ未決勾留日數中百日ヲ右本刑ニ算入ス押收ニ係ル證第一號證第三號及證第四號ハ孰レモ之ヲ沒收ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ

第一 大正十五年頃無免許ニテ自動車運轉操縱中事故ヲ惹起シ處罰セラレタル爲其ノ後福岡縣、佐賀縣ニ於テ自動車運轉手試驗ニ應セントシタルモ右前科ニ累セラレ受験出來サルニ依リ茲ニ自動車運轉手免許證ヲ偽造センコトヲ企テ昭和四年四月頃佐賀市神野町千九番地大谷自動車學校事務所ニ於テ豫テ同市寺町印刷業者ニ印刷セシメ置キタル甲種自動車運轉手免許證用紙ニ本籍熊本縣菊地郡大津町大字灰塚九〇木村明治四十一年十二月十日生ト記入シ表面ノ寫眞貼付欄ニ其ノ頃被告人ニ於テ作成シタル福岡縣ト刻セル印ヲ押捺シ免許證表面ノ番號ヲ九一四號免許證下付年月日ヲ昭和三年二月六日ト夫々記入シテ福岡縣名義ニ係ル木村明名義ノ甲種自動車運轉手免許證一通ノ偽造ヲ完成シ

第二 同年六月中旬頃佐賀縣杵島郡武雄町山口安一方ニ於テ其ノ情ヲ知ラサル同人ニ依頼シ同人ヲシテ木村ト刻セル有合印ヲ使用シ木村明名義ノ福岡縣ヨリ佐賀縣ニ自動車運轉手トシテノ就業地ヲ變更スル旨ノ就業地變更届書一通ヲ偽造セシメタル上右ハ真正ニ成立シタルモノトシ其ノ頃之ヲ武雄

外國旅券へノ不實記載ト其ノ適條

警察署ヲ通シ佐賀縣廳ニ提出行使セシメ被告人ニ於テ同年六月二十四日同縣廳ニ出頭次テ武雄警察署ニ赴キ同署係員ニ對シ前記偽造ニ係ル福岡縣名義ニ係ル運轉手免許證ヲ提出行使シテ同係官ヲ欺キ因テ同係官ヨリ佐賀縣名義ニ係ル木村明名義ノ甲種自動車運轉手免許證一通(證第一號)ノ交付ヲ受ケテ之ヲ騙取シ

第三 自動車運轉手ノ免許ヲ受ケスシテ昭和四年六月中旬ヨリ同八年三月頃迄ノ間佐賀縣武雄町、佐世保市、佐賀縣神埼町、佐賀市、唐津市ニ於テ自動車ヲ營業トシテ繼續運轉操縱シ

第四 昭和八年三月十日唐津市ニ於テ前記木村明ノ氏名ヲ冒書シ其ノ名下ニ木村ト刻セル有合印(證第三號)ヲ押捺シ同人名義ノ外國旅券下附願書一通ヲ偽造シタル上右ハ真正ニ成立シタルモノトシ其ノ頃之ヲ佐賀縣廳ニ提出行使シ同廳係官ヲ欺キ因テ同年四月十七日頃外務大臣名義ニ係ル木村明名義ノ薩哈噠州行外國旅券一通(證第四號)ヲ神奈川縣廳ヲ經由シテ其ノ交付ヲ受ケ以テ騙取シ

タルモノニシテ右自動車運轉手就業地變更屆書及外國旅券下附願書ノ各偽造、同各行使竝各詐欺ノ所爲ハ孰レモ犯意繼續ニ出テタルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中福岡縣名義木村明宛甲種自動車運轉手免許證偽造ノ點ハ刑法第五百十五條第一項ニ同偽造免許證行使ハ同法第五百五十八條第一項第五百五十五條第一項ニ木村明名義ノ自動車運轉手就業地變更屆書竝外國旅券下附願書偽造ノ點ハ各同法第五百五十九條第一項ニ同偽造各文書行使ノ點ハ各同法第六十一條第一項第五百五十九條第一項ニ甲種自動車運轉手免許證竝ニ外國旅券騙取ノ點ハ各同法第二百四十六條第一項ニ無免許自動車運轉操縱ノ點ハ大正八年一月十一日內務省令第一號自動車取締令第十五條第一項第二十八條(尙昭和八年八月十八日內務省令第二十三號自動車取締令第三十七條第一項第十條ト同刑)ニ虛偽ノ事實申告ニ因ル外國旅券下附ノ點ハ外國旅券規則第十五條第一項ニ各該當スルトコロ右不正手段ニ因ル外國旅券下附ノ所爲ト其ノ騙取ノ所爲トハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ重キ詐欺罪ノ刑ニ從フヘク而シテ前記各私文書ノ偽造、行使竝ニ詐欺ノ各所爲ハ孰レモ各連續ニ係ルヲ以テ夫々同法第五十五條ヲ適用シ尙右公私各文書ノ偽造、同行使竝ニ詐欺トノ間ニハ夫々各順次手段結果ノ關係存スルヲ以テ刑法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ結局其ノ最モ重キ偽造公文書行使罪ノ刑ニ從フヘキモノナルトコロ前示自動車取締令違反ノ點ニ付其ノ所定刑中懲役刑ヲ選擇スヘク之ト右偽造公文書行使罪トハ刑法第四十五條前段ノ併合罪ニ係ルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ從ヒ重キ偽造公文書行使罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年六月ニ處シ尙同法第二十一條ヲ適用シ原審ニ於ケル未決勾留日數中百日ヲ右本刑ニ算入スヘク而シテ押收ニ係ル外國旅券(證第四號)甲種自動車運轉手免許證(證第一號)及認印(證第三號)ハ判示犯行ニ因リテ得タル物件或ハ本件犯行ノ用ニ供

シタル物件ニシテ被告人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ同法第十九條ニ依リ之ヲ沒收スヘク訴訟費用ハ刑  
事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ負擔ヒシムヘキモノトス

○主 文

原判決ヲ破毀ス

被告ヲ懲役一年六月ニ處ス

但シ未決勾留日數中百日ヲ右本刑ニ算入ス

押收ニ係ル證第一號證第三號及證第四號ハ孰レモ之ヲ沒收ス

訴訟費用ハ全部被告ノ負擔トス

○理 由

辯護人島田伊織上告趣意書第一點本件被告人カ外國旅券ノ下付ヲ受クルニ至リタル所爲ハ外國旅券規  
則第十五條第一項ノ一「事實ニ相違スル記載又ハ申立ヲ爲シ其ノ他詐欺ノ所爲ヲ以テ旅券下付ヲ受ケ  
タル者」ニ「他人名義ノ旅券ヲ使用シ又ハ之ヲ使用セシメ其ノ他不正目的ヲ以テ旅券ヲ授受シタル  
者」ニ該當スルモノナリ殊ニ本法ハ特別法規タル地位ヲ有スルカ爲此レカ適用ヲナシタル以上重複セ  
ル刑法ノ規定ヲ併セテ同一事案ニ適用ナスヘキモノニアラス然ルニ原審ハ被告人ノ爲シタル木村明名  
義就業地變更届書竝外國旅券下付願書偽造ノ點ハ各々刑法第一五九條第一項同偽造文書行使ノ點ハ同

一六一條第一項同一五九條第一項ニ外國旅券騙取ノ點ハ同法第二四六條第一項ニ虛偽ノ事實申述ニ因  
ル外國旅券下付ノ點ハ外國旅券規則第十五條第一項ニ各該當スルト判示シ然シテ右不正手段ニ因ル外  
國旅券下付ノ所爲ト騙取ノ所爲トハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一  
項前段第十條ヲ適用シ重キ詐欺罪ノ刑ヲ科シタルカ如キハ法律上適用法規ヲ齟齬セル違法アリト言フ  
ヘシト云ヒ「第二點原審ハ被告人ノ所爲中木村明名義ニヨル外國旅券下付授受ノ點ヲ詐欺罪ヲ以テ論  
シアルモ抑モ現行法上詐欺罪ノ被害法益ハ他人ノ財物ナリ財物トハ刑法上客觀的ニ交換價值ヲ有スル  
モノナラサルヘカラス果シテ然ラハ本件ノ被告人ノ騙取シタリト云フ偽造ノ外國旅券ハ他人名義タル  
木村明ノモノニアラス且又被告人自身ノモノニモアラサル單ナル國家ノ社會的無價値ナ一片ノ紙片タ  
ルニ過キサルモノナリ然リトセハ果シテ罰スヘキ程度ノ詐欺罪ヲ以テ論スルヲ得サルモノト信ス即チ  
公文書偽造罪ノ外ニ尙詐欺罪トシテ擬律スヘキモノニアラスト信ス之ハ原審ニ於テ法律ノ解釋ヲ誤リ  
タル違法アリト云フヘシト云フニ在ルヲ以テ

原判決ヲ查スルニ原審ハ被告カ木村明名義ノ外國旅券下附願書一通ヲ偽造シタル上之ヲ佐賀縣廳ニ提  
出行使シ同廳係官ヲ欺キ因テ外務大臣名義ニ係ル木村明名義ノ薩哈噠行外國旅券一通ヲ神奈川縣廳ヲ  
經由シテ交付ヲ受ケタル事實ヲ認定シ外國旅券騙取ノ點ハ刑法第二百四十六條第一項ニ外國旅券下付  
ノ點ハ外國旅券規則第十五條第一項ニ該當スルトコロ右旅券下付ノ所爲ト其ノ騙取ノ所爲トハ一個ノ

外國旅券ヘノ不實記載ト其ノ通條

## 【要旨】

行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ重キ詐欺罪ノ刑ニ從フヘキ旨擬律シタリ然レトモ前記認定事實ニ付テハ被告ノ所爲ニ對シテハ刑法第五百七條第二項ヲ適用スヘキモノニシテ外國旅券規則及詐欺罪ニ問擬スヘキモノニ非ス蓋シ(一)外國旅券規則ハ外務省令タルニ止マルモノナレハ之ヲ以テ刑法ノ規定ヲ變更スルノ趣旨ナリト認ムルヲ得サルト共ニ同規則第十五條第一號ハ事實ニ相違スル記載又ハ申立ヲ爲シ其ノ他詐欺ノ所爲ヲ以テ旅券ノ下付ヲ受ケタル者トアリテ即旅券自體ニハ何等不實ノ記載ヲ爲サシメスシテ單ニ旅券下付ノ手段トシテ事實ニ相違スル記載又ハ申立等詐欺ノ方法ヲ用ヒタル場合ノミニ限リ同條ヲ以テ處罰スヘク旅券自體ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル場合ハ同條ヲ適用スヘキモノニ非スシテ之ヲ刑法第五百七條第二項ニ問擬スヘキモノナルコト疑ヲ容ルヘキモノニ非ス(二)刑法ノ同條項ニハ公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト規定シアルノミニテ下付ヲ受ケタル旨ノ文言ナキモ免狀鑑札旅券ハ當該名義人ニ於テ之カ下付ヲ受ケテ之ヲ所持スルニ非サレハ效用ナキモノナルカ故ニ同條ノ規定スル犯罪ノ構成要件ハ公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ免狀等ニ不實ノ記載ヲ爲サシムルノミニテ充實スルモノナルト同時ニ其ノ性質上不實記載ニ係ル免狀等ノ下付ヲ受クル事實ヲモ當然ニ包含スルモノト解スルヲ正當ナリトス而シテ(三)詐欺罪ハ財産權ヲ侵害スヘキ行爲ニ由リテ成立スルヲ本質トスルモノナルカ故ニ免狀等ノ下付ヲ受クル場合ノ如ク單ニ一定ノ資格ニ付當該官廳ノ證明ヲ受クルヲ目的トスルニ

止マリ當該官廳ヨリ財産上利益ヲ得ルコトヲ目的トセサル場合ニ在リテハ其ノ間ノ關係ニ於テ詐欺罪ノ成立ヲ認ムヘキモノニ非ス(大正三年(レ)第一三二四號大正十二年(レ)第八二七號參照)然ラハ原審カ前記認定事實ニ對シ外國旅券規則第十五條第一號刑法第二百四十六條第一項ヲ適用シテ同第五百七條第二項ヲ適用セザリシハ擬律錯誤ノ違法アルモノト謂ハサルヘカラス更ニ職權ヲ以テ原判決ヲ調査スルニ原審ハ被告カ木村明名義ノ僞造就業地變更届ヲ佐賀縣廳ニ提出シテ佐賀縣名義ニ係ル木村明名義ノ甲種自動車運轉手免許證ノ交付ヲ受ケタル事實ヲ認定シ之ヲ刑法第二百四十六條第一項ニ問擬シタルモ敍上ノ理由ニ依リ該事實ニ對シテ亦刑法第五百七條第二項ヲ適用處斷スヘキモノニシテ詐欺罪ヲ以テ論スヘキモノニ非サレハ原判決ハ此點ニ於テモ違法アルモノト謂ハサルヘカラス本論旨ハ孰レモ理由アリ原判決ハ破毀ヲ免レス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)以上ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ基キ本院ニ於テ更ニ判決ヲ爲スヘキモノトス仍テ原審ノ確定シタル事實ヲ法律ニ照スニ被告ノ所爲中甲種自動車運轉手免許證僞造ノ點ハ刑法第五百五十五條第一項ニ同行使ハ同第五百五十八條第一項第五百五十五條第一項ニ自動車運轉手就業地變更届竝外國旅券下付願書僞造ノ點ハ同第五百五十九條第一項第五百五十五條ニ同行使ハ同第六十一條第一項第五百五十九條第一項第五百五十五條ニ甲種運轉手免許證竝外國旅券ニ各不實ノ記載ヲ爲サシメタル點ハ同第五百五十七條第二項第五十五條ニ該當シ無免許自動車運轉ノ點ハ大正八年一月十一日內務省令第一